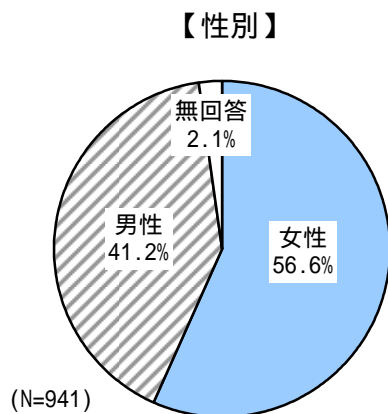


成人一般調査結果

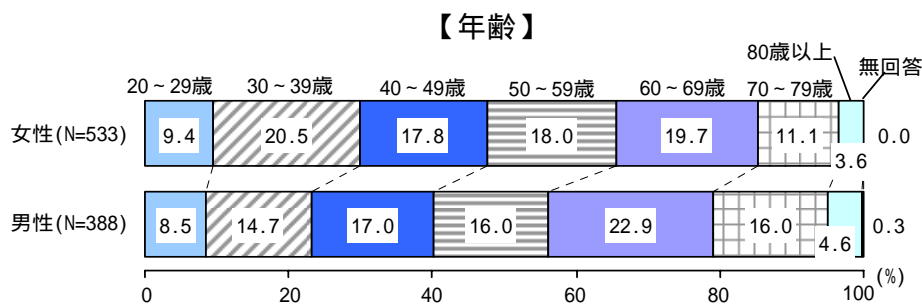
回答者の属性

1. 性別



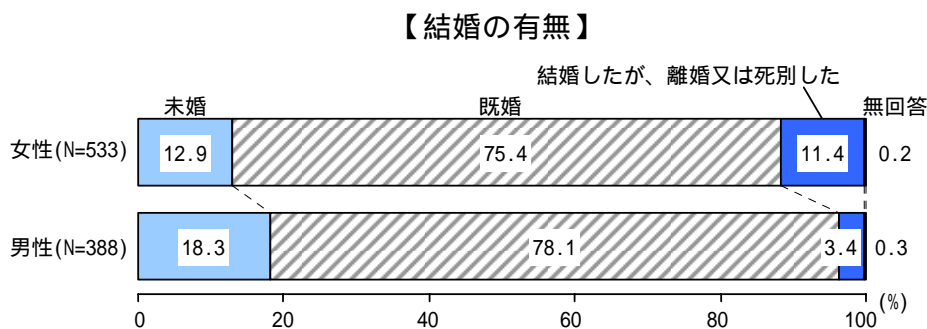
性別は、「女性」が 56.6% (533 人)、「男性」が 41.2% (388 人) となっています。

2. 年齢



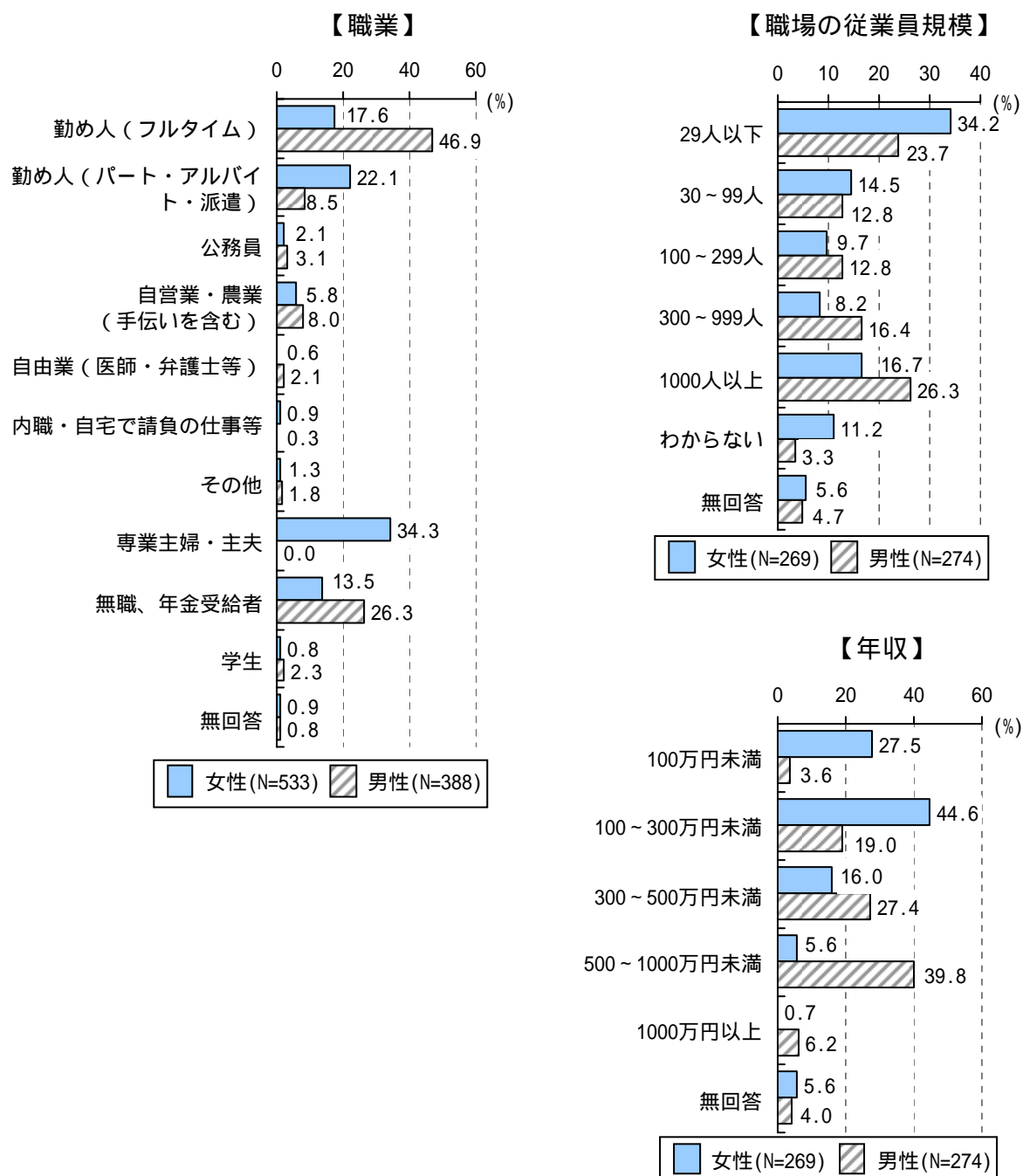
年齢は、男女ともに 60 歳代が最も多く、60 歳代以上の割合は女性で 34.4%、男性で 43.5% と 3 ~ 4 割程度を占めています。

3. 結婚の有無



結婚の有無は、男女ともに「既婚」が 7 割台となっています。「未婚」は女性が 12.9%、男性が 18.3% と男性の方が高くなっています。

4. 職業、職場の従業員規模、年収

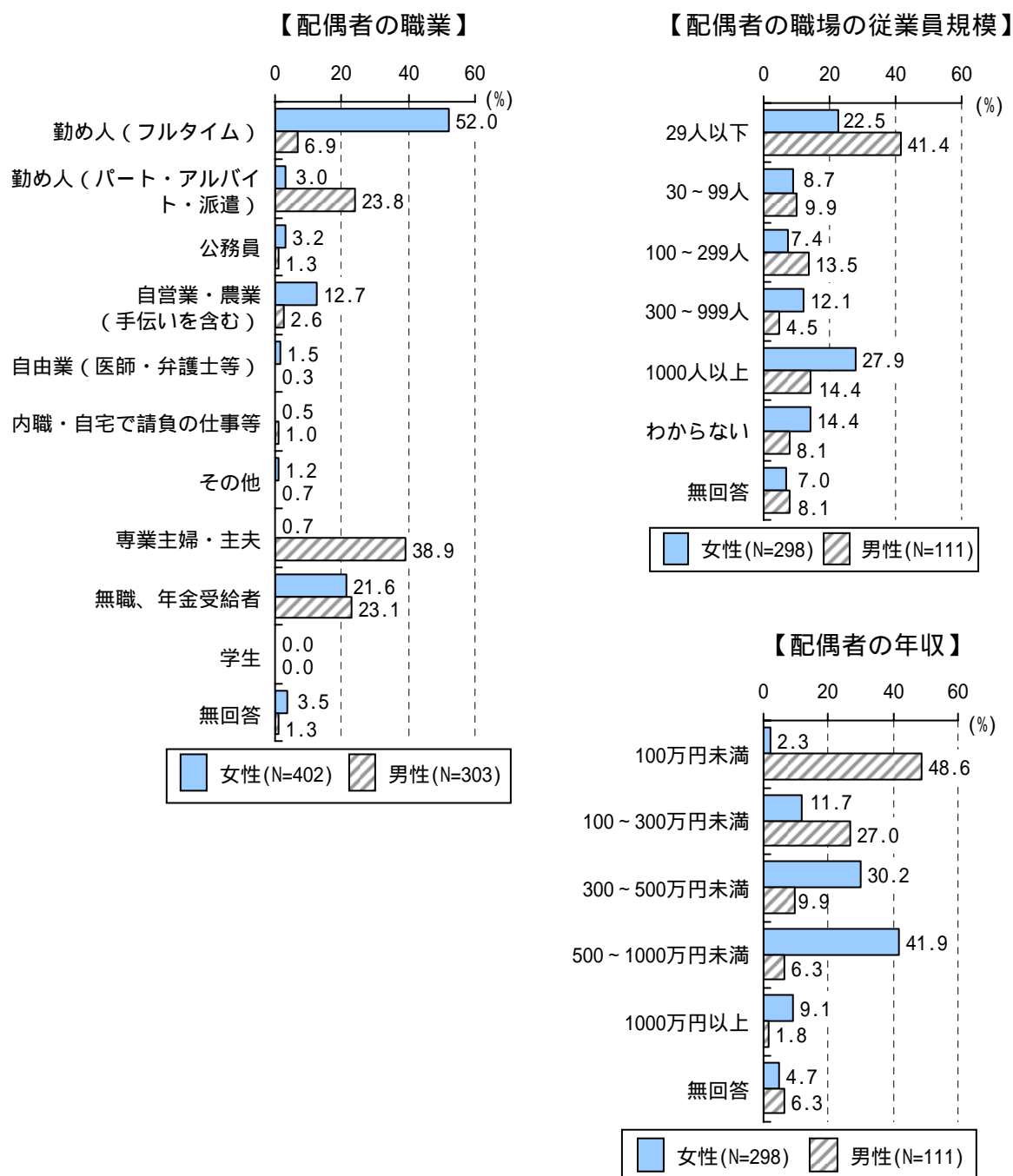


職業は、何らかの職業に就いている人が女性は 50.4%、男性は 70.7%となっています。女性は、「勤め人(パート・アルバイト・派遣)」が 22.1%、「勤め人(フルタイム)」が 17.6%と高くなっています。「専業主婦・主夫」は 34.3%と全体の約 3 分の 1 となっています。男性は、「勤め人(フルタイム)」が 46.9%と高くなっています。

職場の従業員規模は、女性は「29 人以下」が 34.2%、男性は「1000 人以上」が 26.3%とそれぞれ最も高くなっています。

年収は、女性は「100~300 万円未満」が 44.6%、男性は「500~1000 万円未満」が 39.8%とそれぞれ最も高くなっています。

5. 配偶者の職業、職場の従業員規模、年収

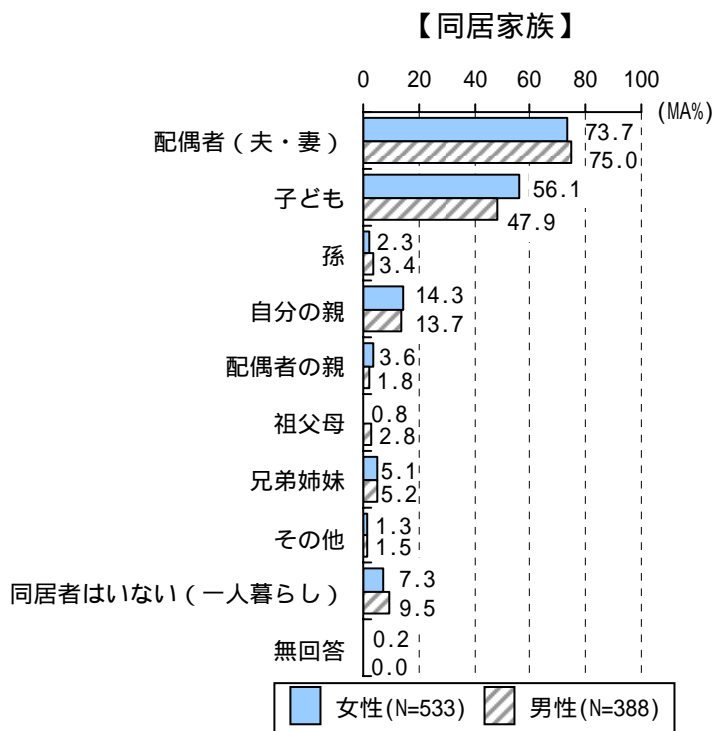


配偶者の職業は、何らかの職業に就いている人が女性は 74.1%、男性は 36.6%となっています。女性は、「勤め人(フルタイム)」が 52.0%と半数を占めています。男性は、「勤め人(パート・アルバイト・派遣)」が 23.8%、「専業主婦・主夫」が 38.9%となっています。

配偶者の職場の従業員規模は、女性は「1000人以上」が 27.9%、「29人以下」が 22.5%とほぼ同程度となっています。男性は「29人以下」が 41.4%と最も高くなっています。

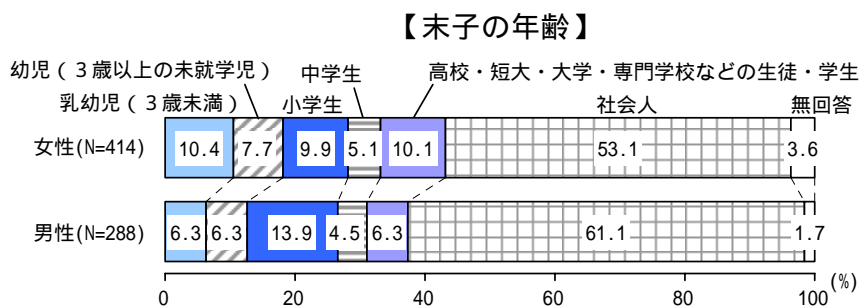
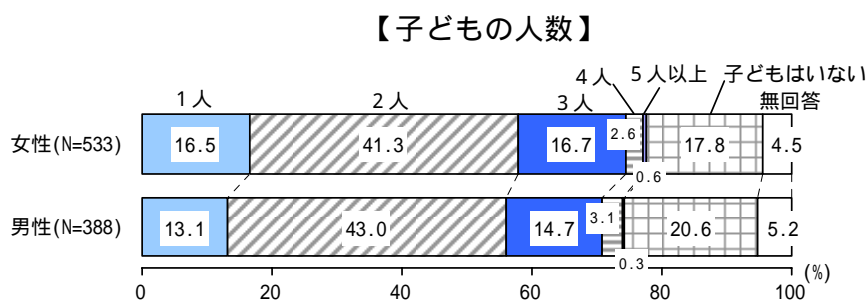
配偶者の年収は、女性は「500~1000万円未満」が 41.9%、男性は「100万円未満」が 48.6%とそれぞれ最も高くなっています。

6. 同居家族



同居家族は、男女とも「配偶者」が7割台となっています。「子ども」は女性が56.1%、男性が47.9%となっています。「同居者はいない(一人暮らし)」は男性の方が若干高くなっています。

7. 子どもの人数、末子の年齢



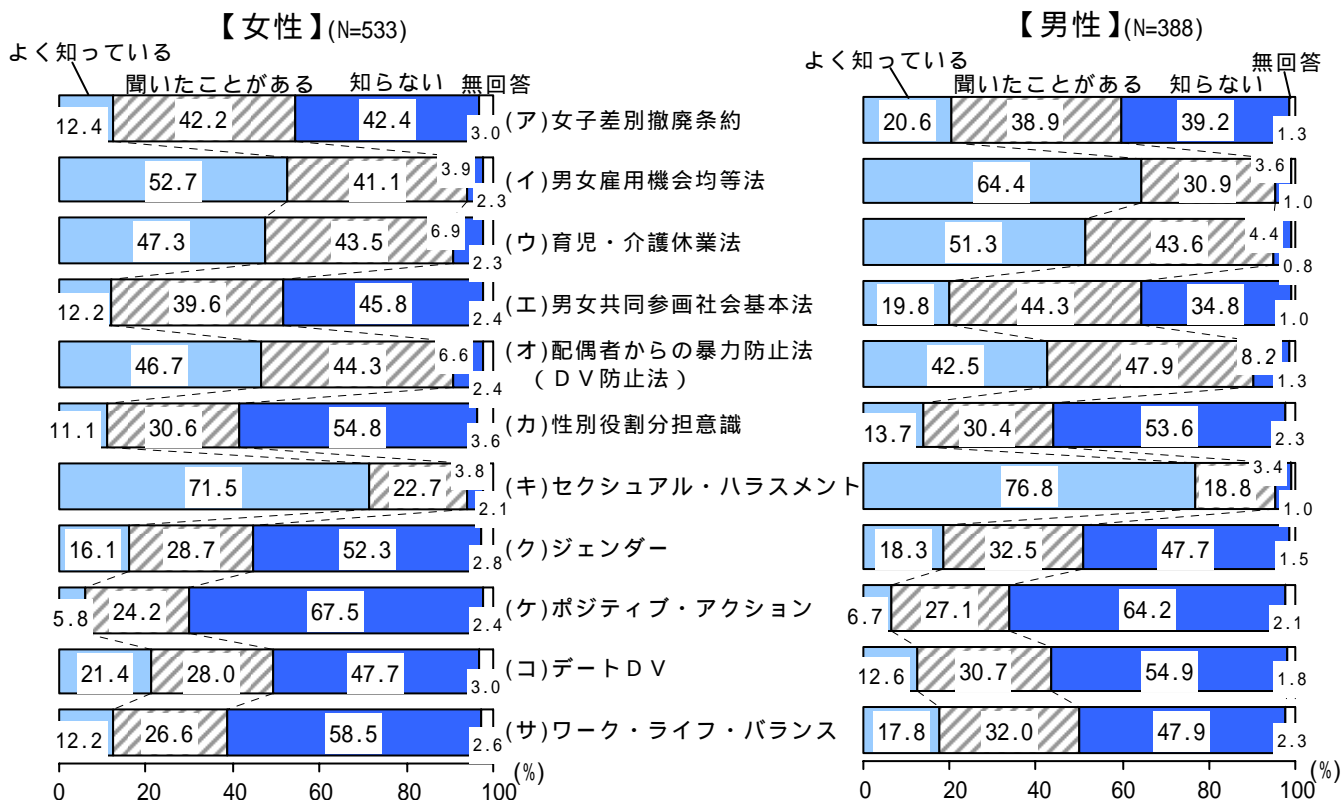
子どもの人数は、男女とも「2人」が4割台と最も高くなっています。「子どもはいない」は男女とも約2割となっています。

末子の年齢は、男女とも「社会人」が半数以上を占めています。

1. 男女平等について

問1 次の(ア)～(サ)の言葉について、それぞれあてはまる番号に をつけてください。
(は各項目に1つ)

【図1-1 男女共同参画に関する言葉の認知度】



男女共同参画に関する言葉の認知度は、「(キ)セクシュアル・ハラスメント」で高く、「よく知っている」は女性が71.5%、男性は76.8%と男女とも7割を超えています。次いで、「(イ)男女雇用機会均等法」では女性は52.7%、男性は64.4%とともに半数を超えています。一方、「(ケ)ポジティブ・アクション」では女性が5.8%、男性が6.7%、「(サ)ワーク・ライフ・バランス」では女性が12.2%、男性が17.8%と認知度は低くなっています。

(図1-1)

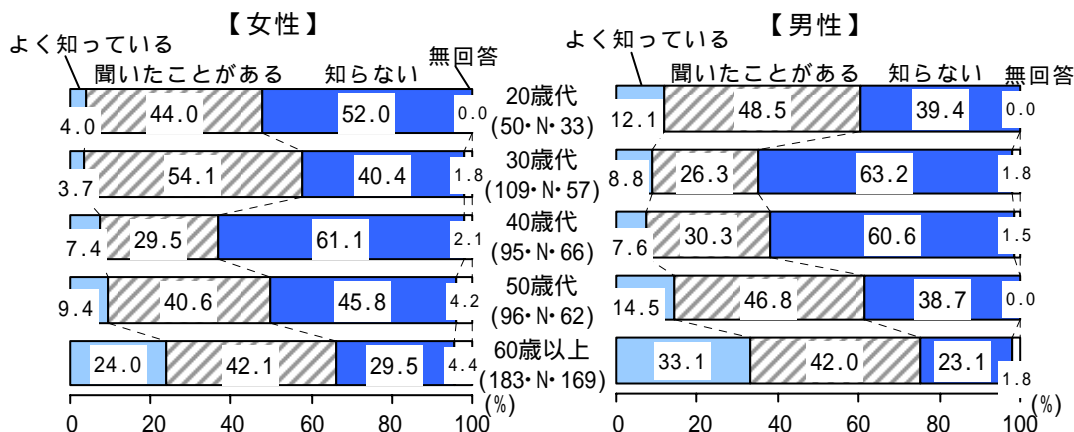
【参考 国・大阪府との比較 男女共同参画に関する言葉の認知度】

「見たり聞いたりしたことがある言葉」 複数回答 (%)	国		大阪府	
	女性 N=1,730	男性 N=1,510	女性 N=382	男性 N=298
女子差別撤廃条約	32.8	37.7	14.9	17.4
男女雇用機会均等法	78.3	80.4	83.2	80.2
男女共同参画社会	62.1	67.5	43.2	45.3
ジェンダー	32.4	31.3	30.4	28.5
ポジティブ・アクション	18.4	19.6	10.5	8.7
ワーク・ライフ・バランス	38.1	35.8	21.5	23.8

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(2009年)
大阪府「男女共同参画にかかる府民意識調査」(2009年)

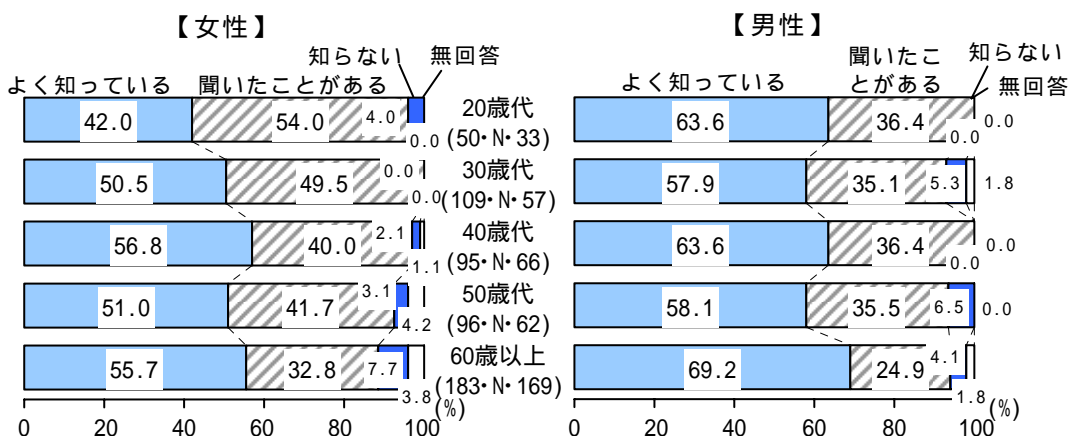
【図 1-1-1 年代別 男女共同参画に関する言葉の認知度】

(ア) 女子差別撤廃条約



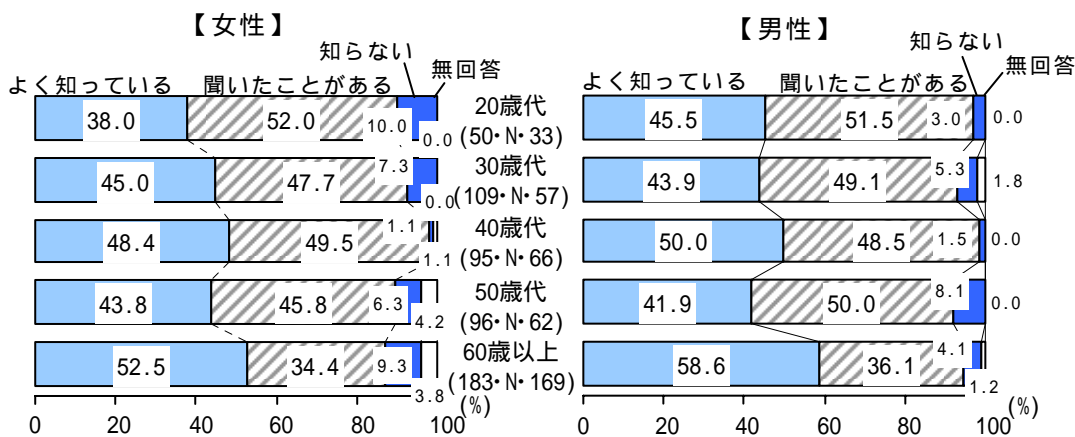
女子差別撤廃条約は、男女とも「よく知っている」は年代が上がるほど高く、60歳以上では、女性が24.0%、男性が33.1%となっています。

(イ) 男女雇用機会均等法



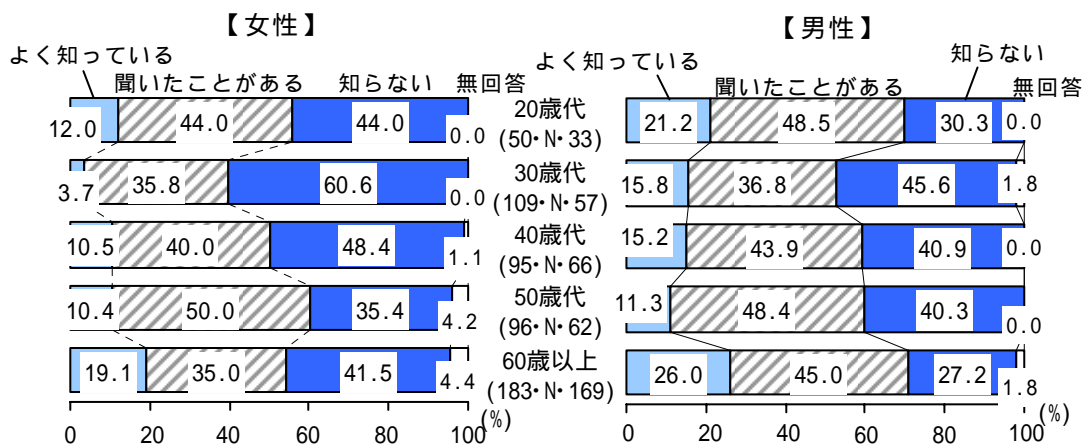
男女雇用機会均等法は、女性は20歳代を除く年代で「よく知っている」が半数を超えています。男性は、30歳代、50歳代を除く年代で「よく知っている」は6割台となっています。

(ウ) 育児・介護休業法



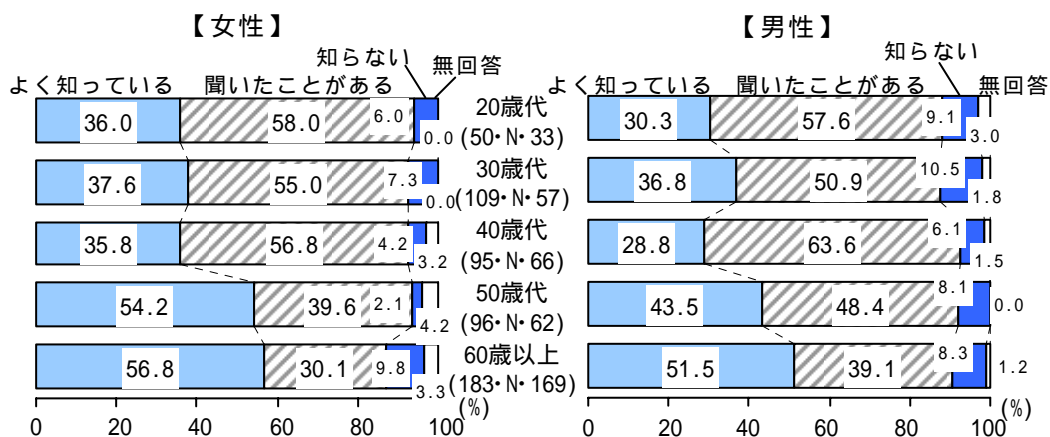
育児・介護休業法は、男女とも「よく知っている」は60歳以上で最も高くなっています。

(工) 男女共同参画社会基本法



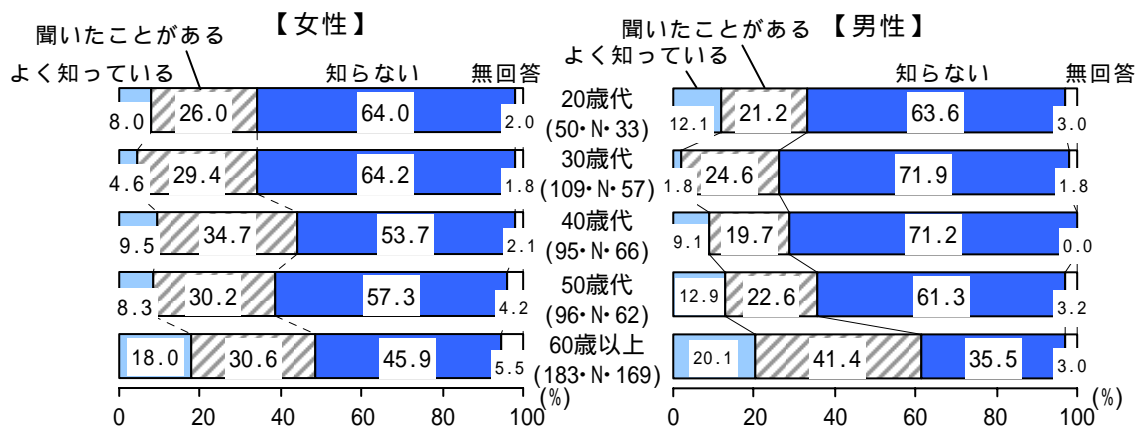
男女共同参画社会基本法は、男女とも「よく知っている」は60歳以上と20歳代で高くなっていますが、全ての年代で男性の方が割合は高くなっています。

(オ) 配偶者からの暴力防止法 (DV防止法)



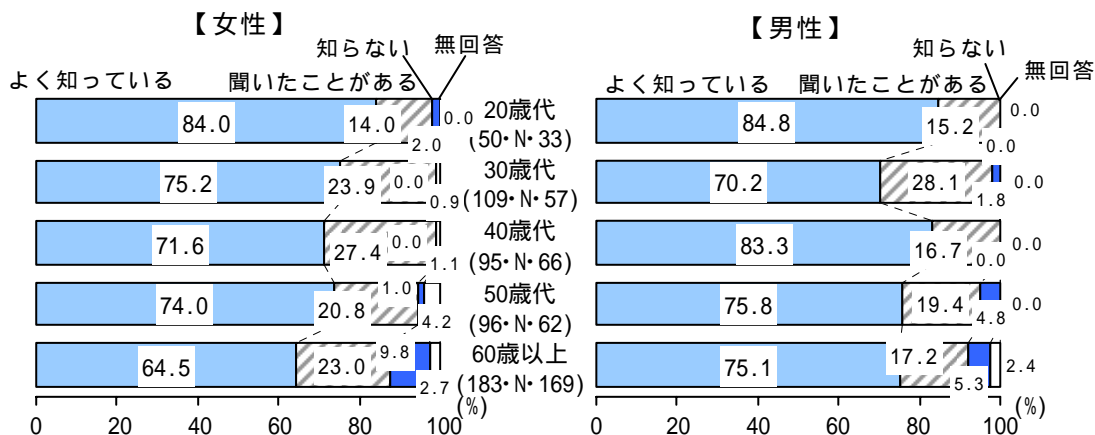
配偶者からの暴力防止法 (DV防止法) は、男女とも「よく知っている」は50歳代、60歳以上で高くなっていますが、全ての年代で女性の方が割合は高くなっています。

(カ) 性別役割分担意識



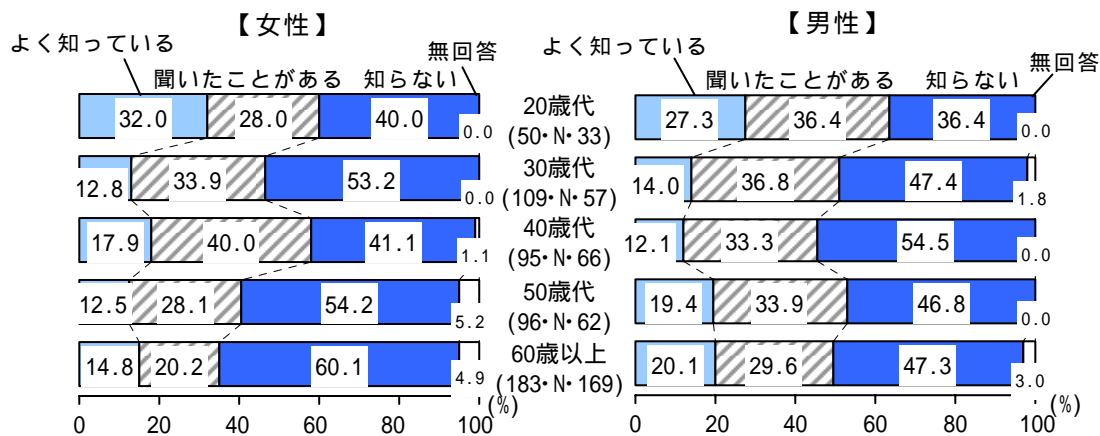
性別役割分担意識は、男女とも「よく知っている」は60歳以上で高くなっていますが、30歳代では低く、特に男性で1.8%となっています。

(キ) セクシュアル・ハラスメント



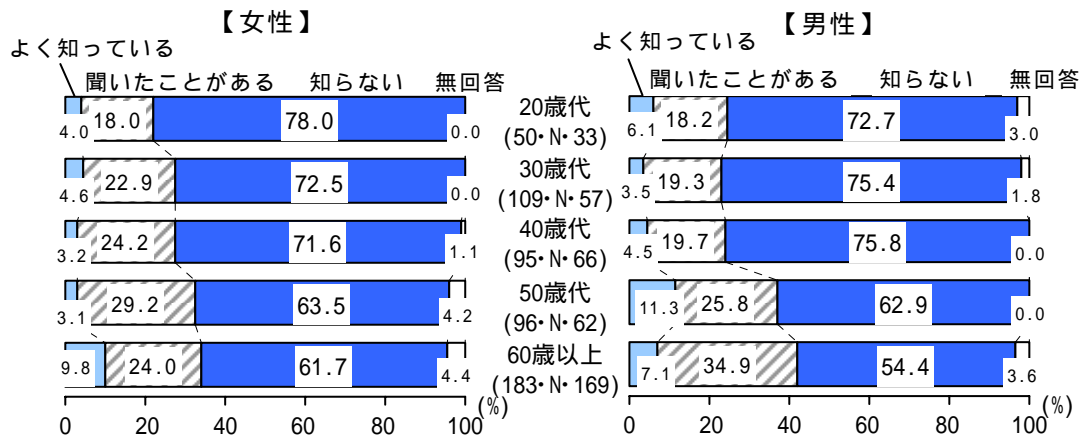
セクシュアル・ハラスメントは、女性は「よく知っている」は20歳代で84.0%と高くなっています。男性では、20歳代、40歳代で8割以上と高くなっています。

(ク) ジェンダー



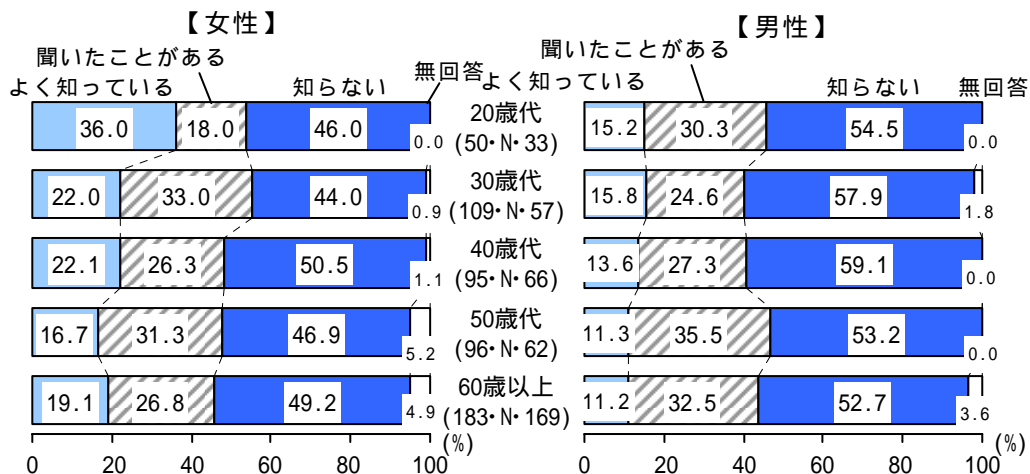
ジェンダーは、男女とも「よく知っている」は20歳代が高く、女性で32.0%、男性で27.3%と女性の方が高くなっています。

(ケ) ポジティブ・アクション



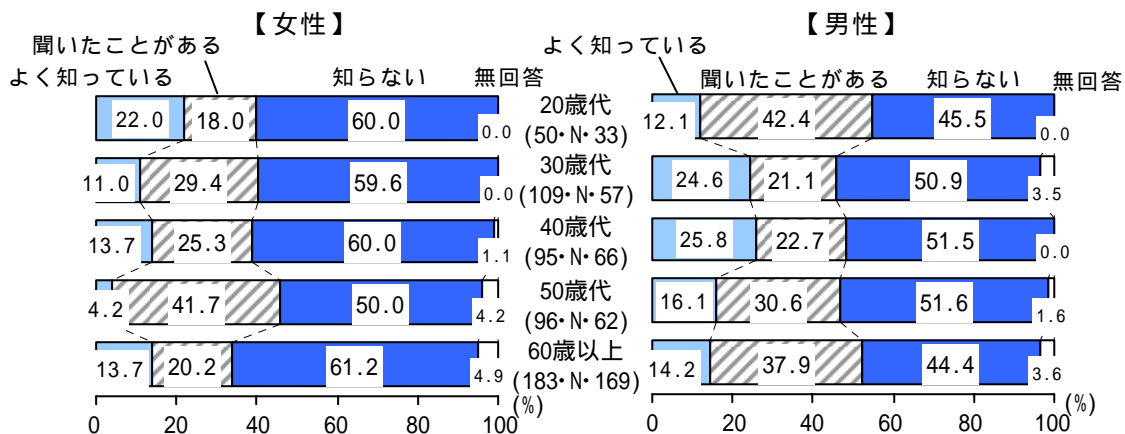
ポジティブ・アクションは、女性は「よく知っている」は60歳以上で最も高く9.8%、男性は50歳代で11.3%となっていますが、いずれも1割前後と低くなっています。

(コ) デートDV



デートDVは、男女とも若年層で高く、「よく知っている」は女性の20歳代で36.0%と高くなっています。全年代で女性の方が割合は高くなっています。

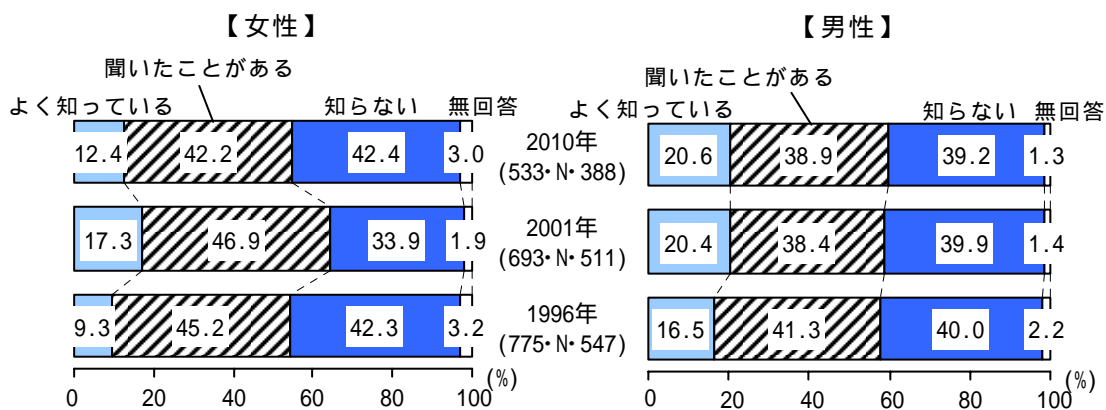
(サ) ワーク・ライフ・バランス



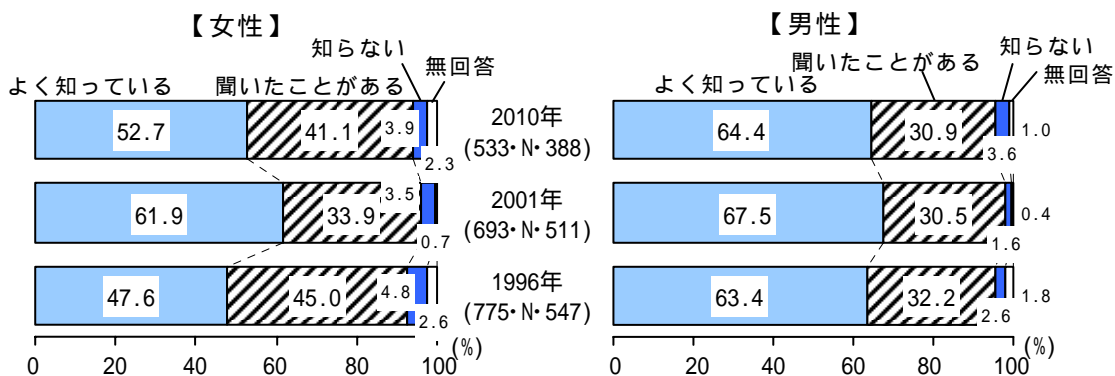
ワーク・ライフ・バランスは、女性は「よく知っている」が20歳代で22.0%と高く、男性は40歳代で25.8%、30歳代で24.6%と男女とも若年層で高くなっています。

【図 1-1-2 前回比較 男女共同参画に関する言葉の認知度】

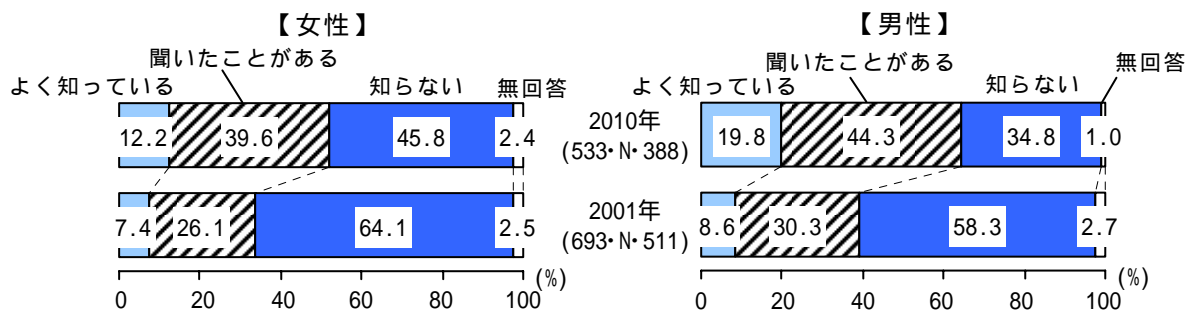
(ア) 女子差別撤廃条約



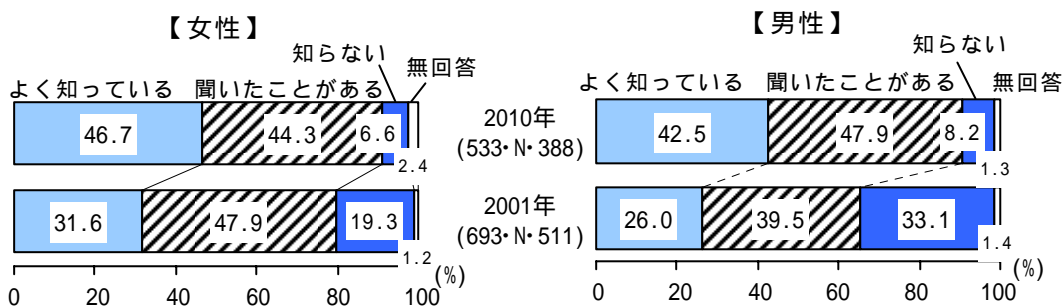
(イ) 男女雇用機会均等法



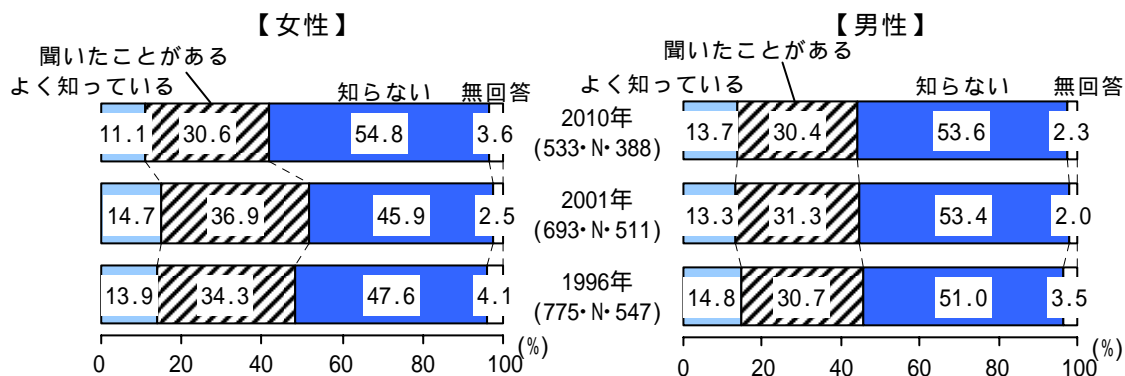
(エ) 男女共同参画社会基本法



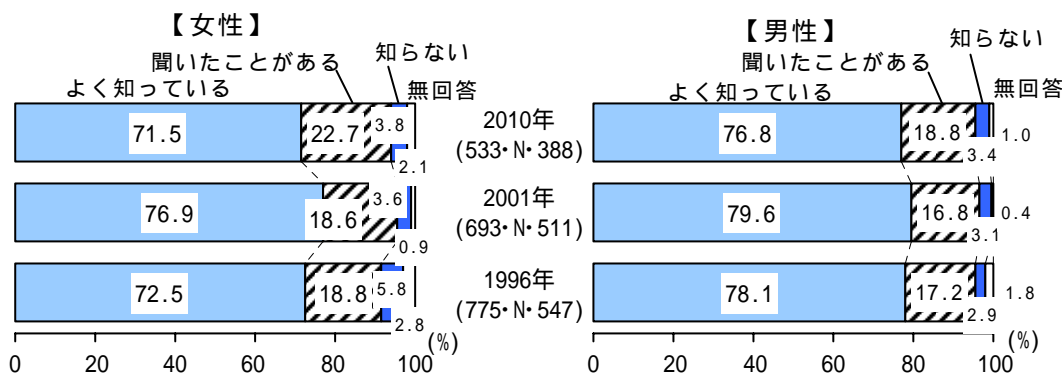
(オ) 配偶者からの暴力防止法 (DV防止法)



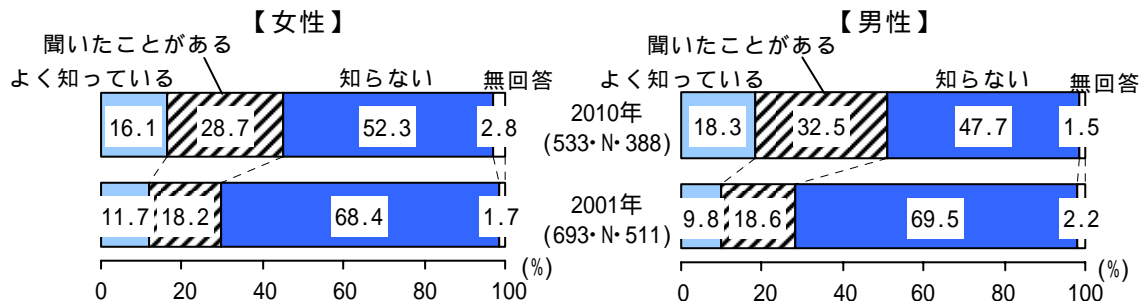
(カ) 性別役割分担意識



(キ) セクシュアル・ハラスメント



(ク) ジェンダー



項目(ウ)(ケ)(コ)(サ)は前回調査で設定されていない

前回調査と比較すると、「(イ) 男女雇用機会均等法」では「よく知っている」は男女とも減少していますが、女性で9.2ポイント、男性では3.1ポイントと女性の方が減少幅が大きくなっています。

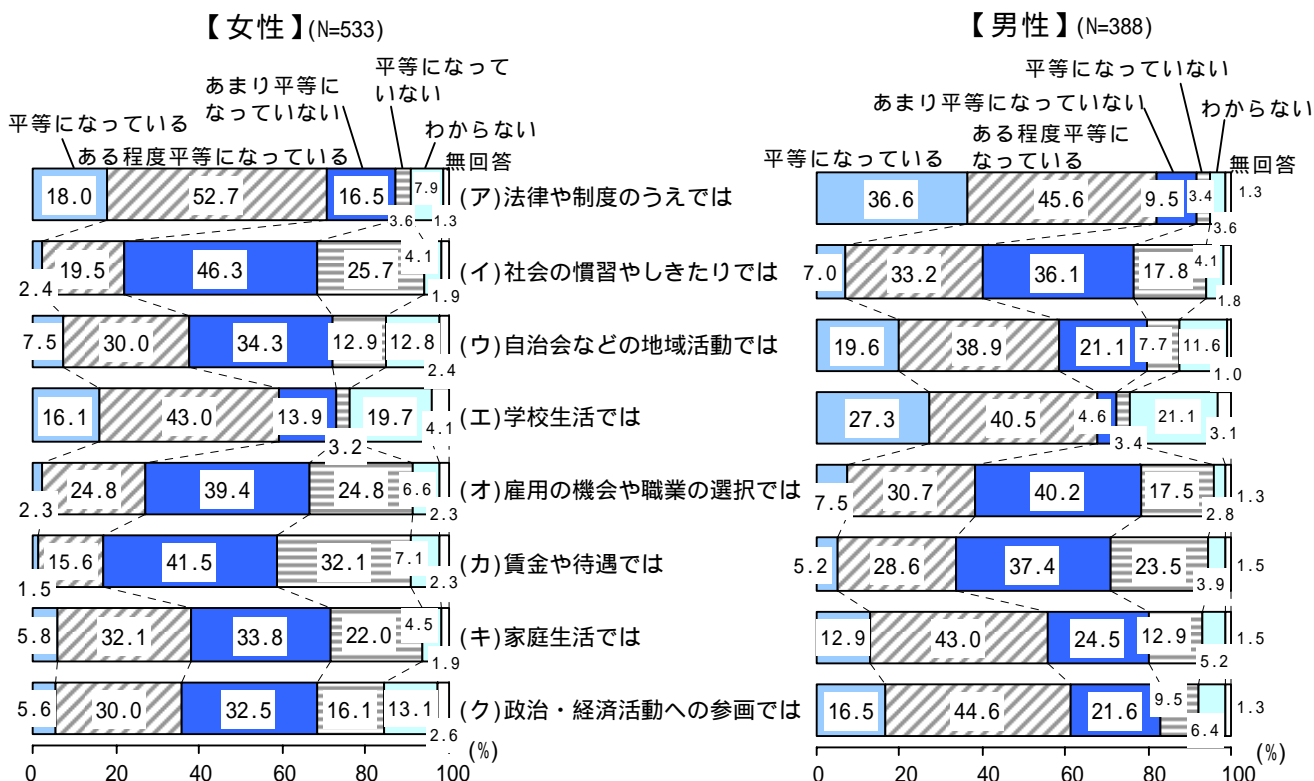
「(エ) 男女共同参画社会基本法」では「よく知っている」は男女ともに増加し、女性で4.8ポイント、男性で11.2ポイントと男性の方が増加幅は大きくなっています。

「(オ) 配偶者からの暴力防止法(DV防止法)」では「よく知っている」は男女とも増加し、女性は15.1ポイント、男性は16.5ポイント増加しています。

「(ク) ジェンダー」では「よく知っている」、「聞いたことがある」とも男女とも増加しています。(図1-1-2)

問2 あなたは、男女の地位がどの程度平等になっていると思われますか。次の(ア)~(ク)の分野で、あてはまる番号に をつけてください。(は各項目に1つ)

【図1-2 男女の地位の平等観】



男女の地位の平等観は、『平等になっていない』(「平等になっていない」、「あまり平等になっていない」を合わせたもの)は「(イ) 社会の慣習やしきたりでは」で女性が72.0%、男性が53.9%、「(カ) 賃金や待遇では」で女性が73.6%、男性が60.9%と高くなっています。男女差をみると、「(ウ) 自治会などの地域活動では」、「(キ) 家庭生活では」で18.4ポイント、「(イ) 社会の慣習やしきたりでは」で18.1ポイント女性の方が高くなっています。『平等になっている』(「平等になっている」、「ある程度平等になっている」を合わせたもの)は「(ア) 法律や制度のうえでは」で女性が70.7%、男性が82.2%と高く、「(エ) 学校生活では」でも女性が59.1%、男性が67.8%となっており、その他、多くの項目で男性の方が割合は高くなっています。「(ア) 法律や制度のうえでは」と「(イ) 社会の慣習やしきたりでは」で平等観に大きな差があらわれています。(図1-2)

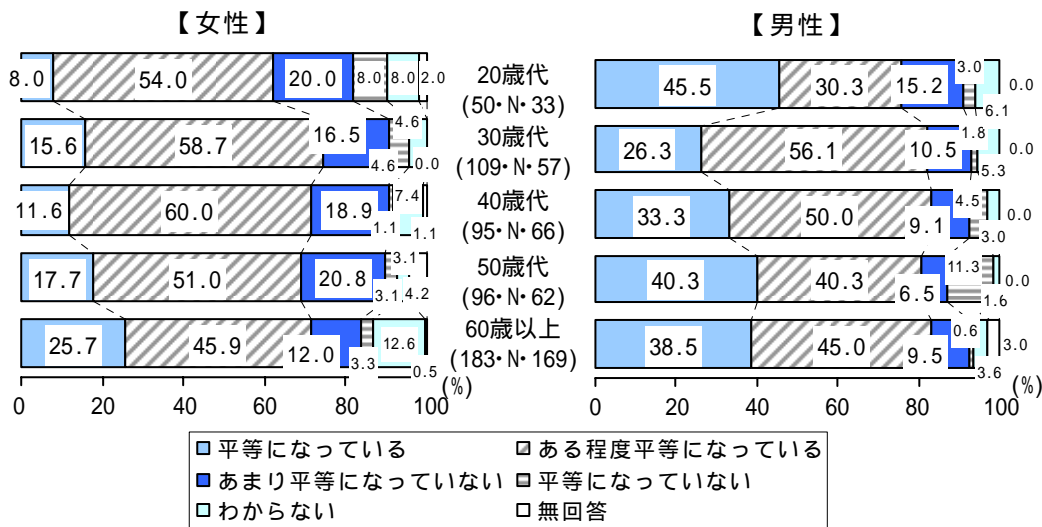
【参考 国・大阪府との比較 男女の地位の平等観】

			(%)				
			N	男性が優遇	平等である	女性が優遇	わからない
法律や制度の上	国	女性	1,730	48.4	37.5	5.6	8.6
		男性	1,510	33.4	52.5	9.3	4.9
	大阪府	女性	382	50.0	27.2	7.8	11.8
		男性	298	25.5	45.0	10.8	15.8
社会通念・慣習・しきたりなど	国	女性	1,730	75.6	17.5	3.0	4.0
		男性	1,510	67.7	24.2	4.9	3.2
	大阪府	女性	382	82.2	7.3	2.9	4.5
		男性	298	69.8	11.7	4.3	11.7
地域活動	国	女性	1,730	41.4	45.3	5.6	7.7
		男性	1,510	26.9	57.5	8.8	6.8
	大阪府	女性	382	40.1	30.4	7.8	19.1
		男性	298	21.8	40.9	11.7	21.8
学校教育の場	国	女性	1,730	16.7	66.1	4.1	13.2
		男性	1,510	10.9	70.3	5.7	13.1
	大阪府	女性	382	16.0	51.6	4.4	23.6
		男性	298	9.4	51.7	8.7	24.2
職場	国	女性	1,730	65.2	20.4	3.4	11.0
		男性	1,510	58.6	29.0	7.6	4.8
	大阪府	女性	382	62.1	21.5	4.5	9.2
		男性	298	44.0	35.6	10.1	7.0
家庭生活	国	女性	1,730	54.4	36.0	7.7	1.9
		男性	1,510	37.5	51.3	9.2	2.0
	大阪府	女性	382	62.0	26.7	5.3	4.7
		男性	298	32.6	49.0	10.8	6.0
政治の場	国	女性	1,730	77.1	16.1	1.7	5.1
		男性	1,510	65.8	26.6	2.6	5.0
	大阪府	女性	382	77.7	9.2	1.3	9.4
		男性	298	50.0	26.8	3.4	15.4

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(2009年)
大阪府「男女共同参画にかかるとる府民意識調査」(2009年)

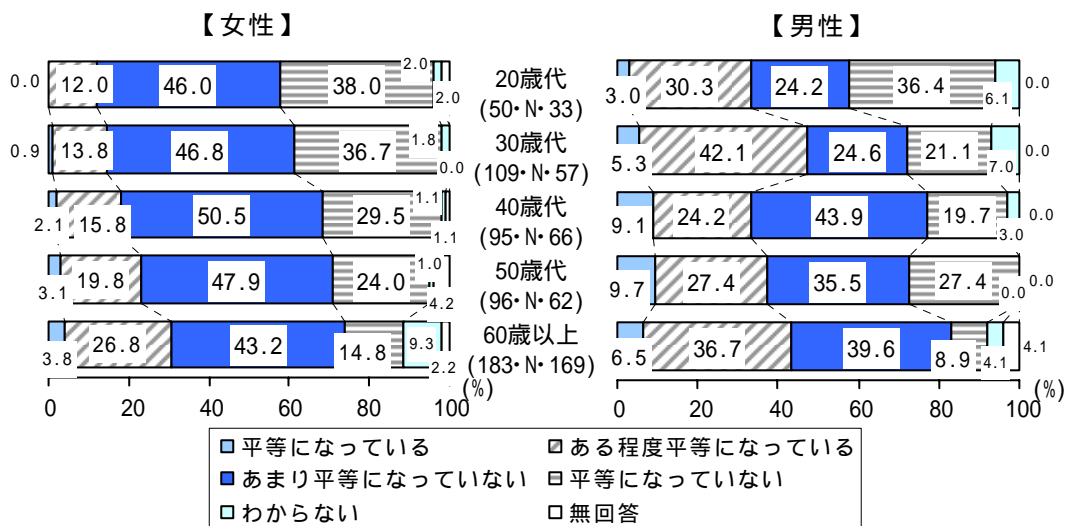
【図 1-2-1 年代別 男女の地位の平等観】

(ア) 法律や制度のうえでは



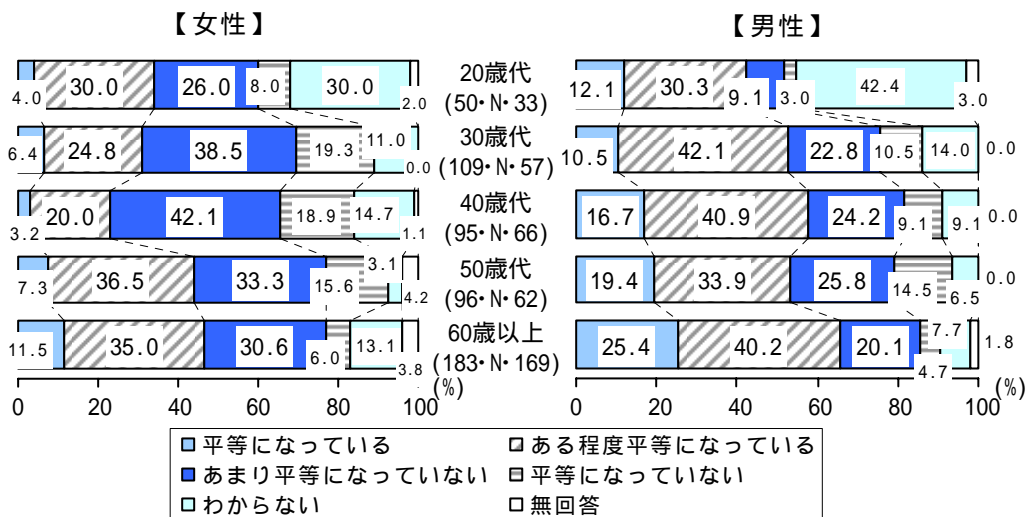
法律や制度のうえでは、男女とも『平等になっていない』は20歳代で高く、女性で28.0%、男性で18.2%と女性の方が高くなっています。

(イ) 社会の慣習やしきたりでは



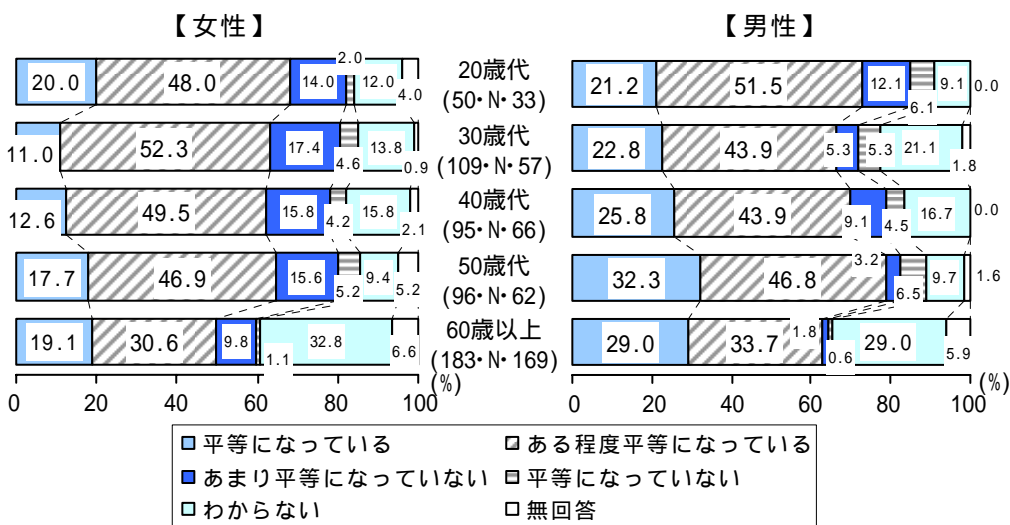
社会の慣習やしきたりでは、女性は『平等になっていない』は20歳代で84.0%、30歳代で83.5%と若年層で高く、男性は40歳代で63.6%、50歳代で62.9%と中年層で高くなっています。

(ウ) 自治会などの地域活動では



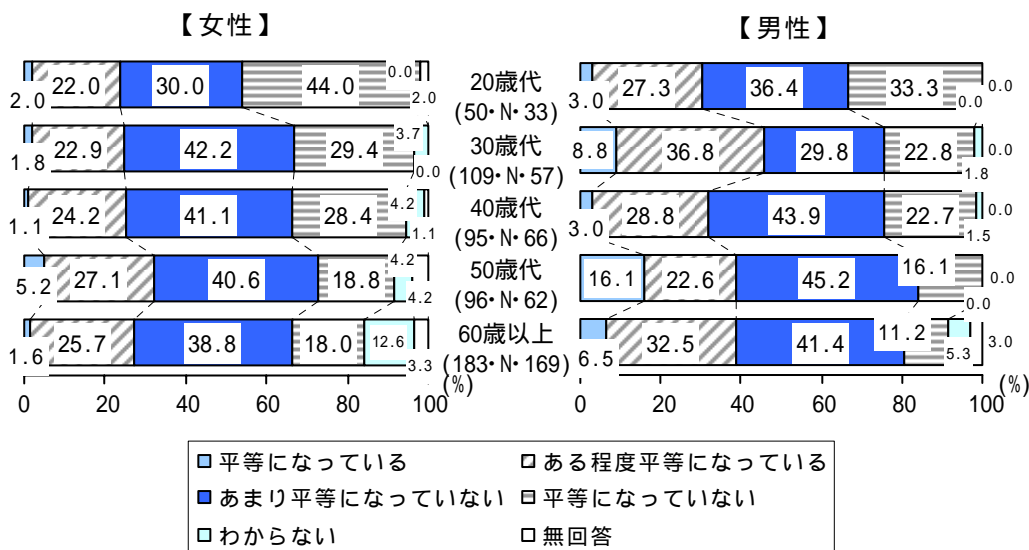
自治会などの地域活動では、女性は『平等になっていない』は40歳代で高く61.0%、男性は50歳代で高く40.3%と男女とも中年層で高くなっています。

(エ) 学校生活では



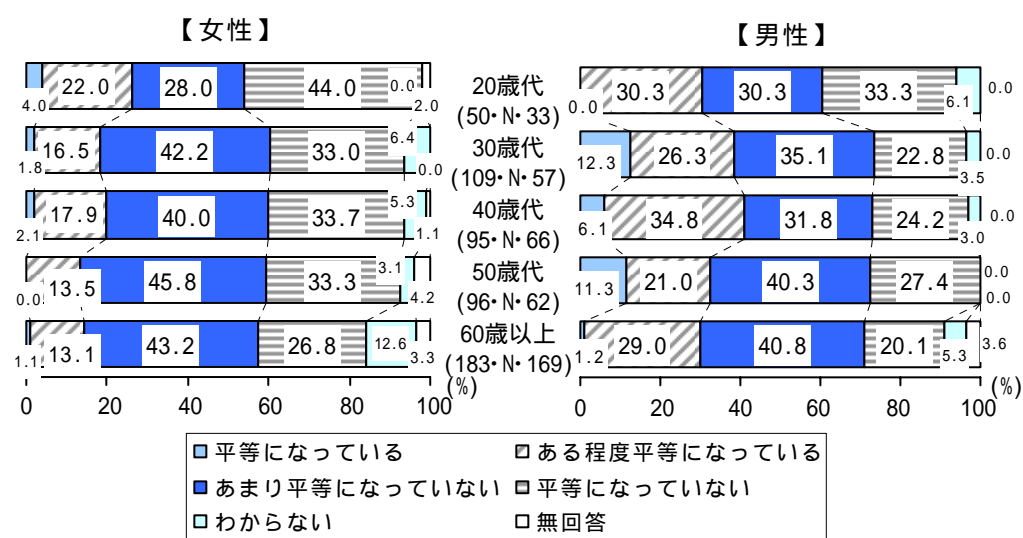
学校生活では、女性は『平等になっていない』は30歳代から50歳代で2割台と高くなっています。男性は20歳代で18.2%と他の年代と比べ、高くなっています。

(オ) 雇用の機会や職業の選択では



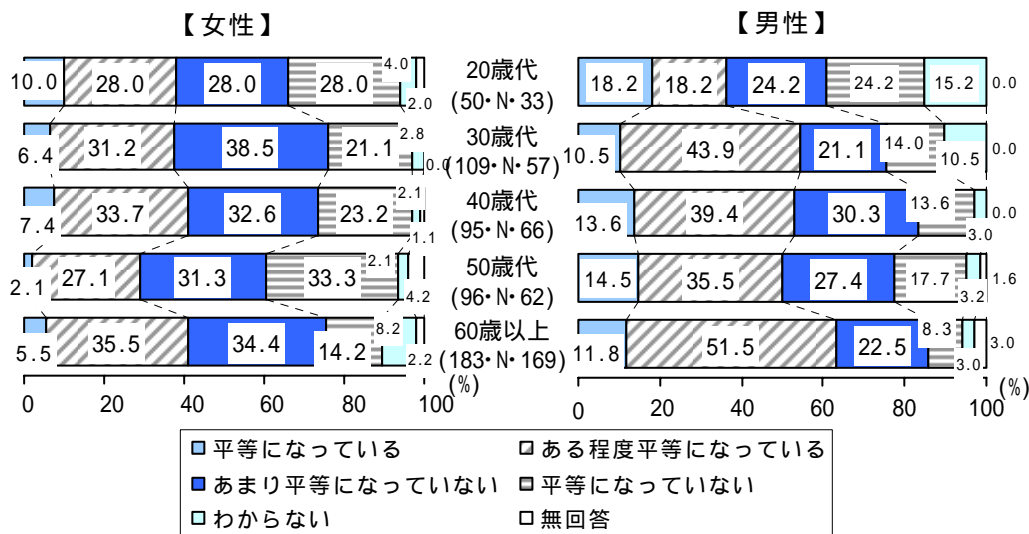
雇用の機会や職業の選択では、女性は『平等になっていない』は20歳代で高く74.0%、その他30歳代、40歳代と若年層で高くなっています。男性も20歳代で69.7%、40歳代で66.6%と若年層で高くなっていますが、30歳代は52.6%と若干低くなっています。

(カ) 賃金や待遇では



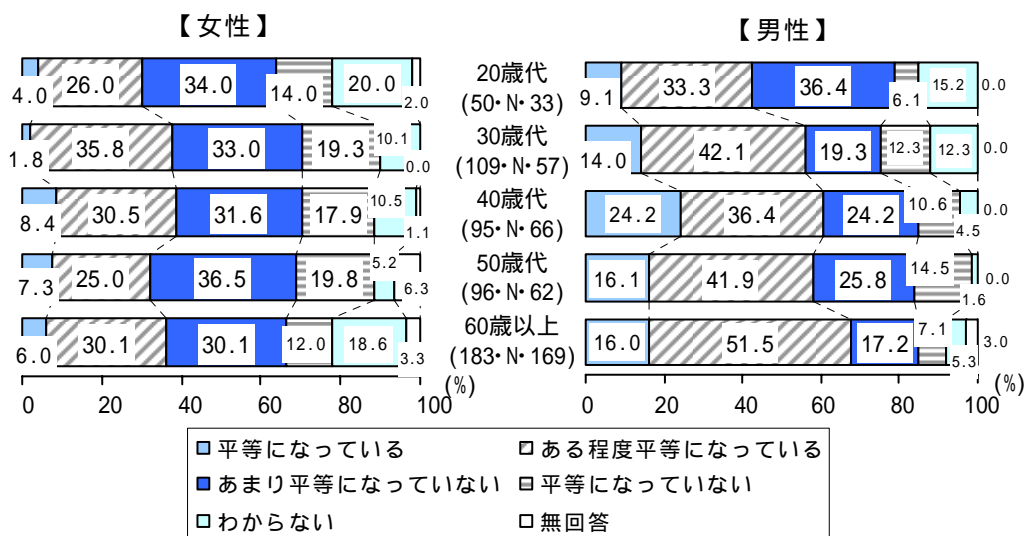
賃金や待遇では、女性は『平等になっていない』は50歳代の79.1%を中心に30歳代、40歳代でも高く、中年層で高くなっています。男性も50歳代で67.7%と高くなっていますが、40歳代では56.0%と若干低くなっています。

(キ) 家庭生活では



家庭生活では、女性は『平等になっていない』は50歳代で64.6%と高くなっています。男性では20歳代で48.4%と高く、年齢層による平等意識の男女差がみられます。

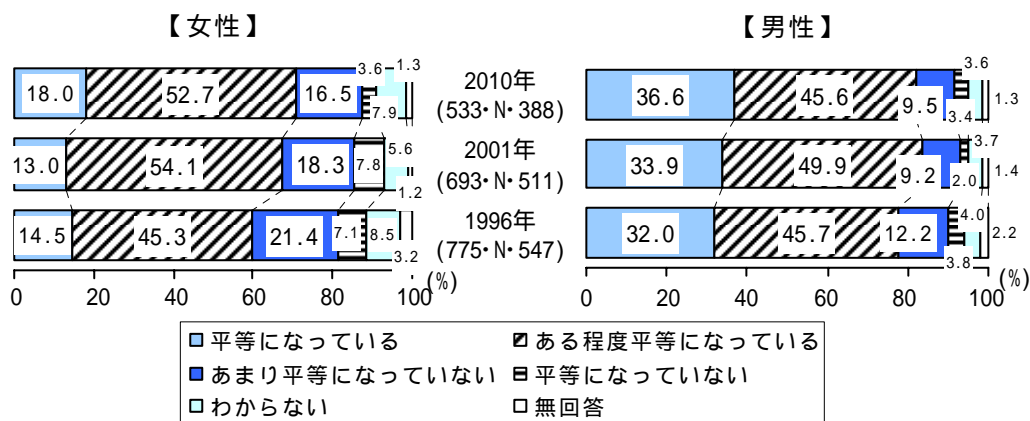
(ク) 政治・経済活動への参画では



政治・経済活動への参画では、『平等になっていない』は女性の50歳代で56.3%と高くなっています。男性では20歳代、50歳代で4割台と高くなっています。

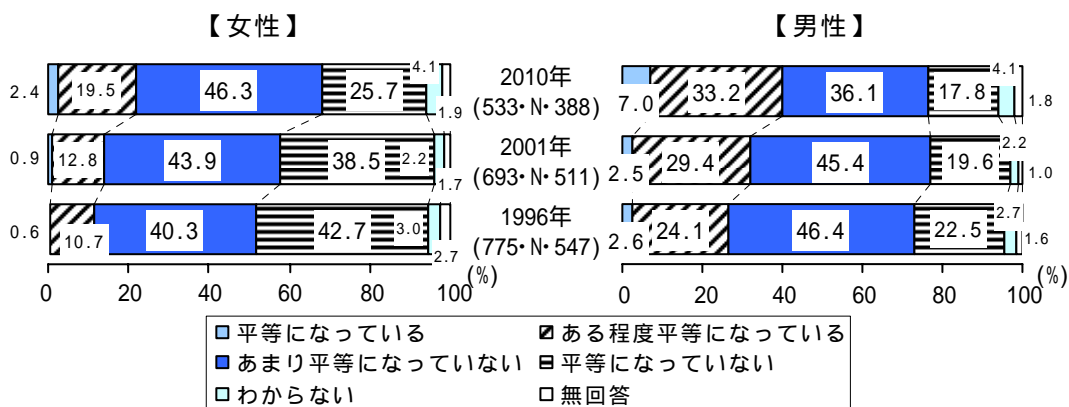
【図 1-2-2 前回比較 男女の地位の平等観】

(ア) 法律や制度のうえでは



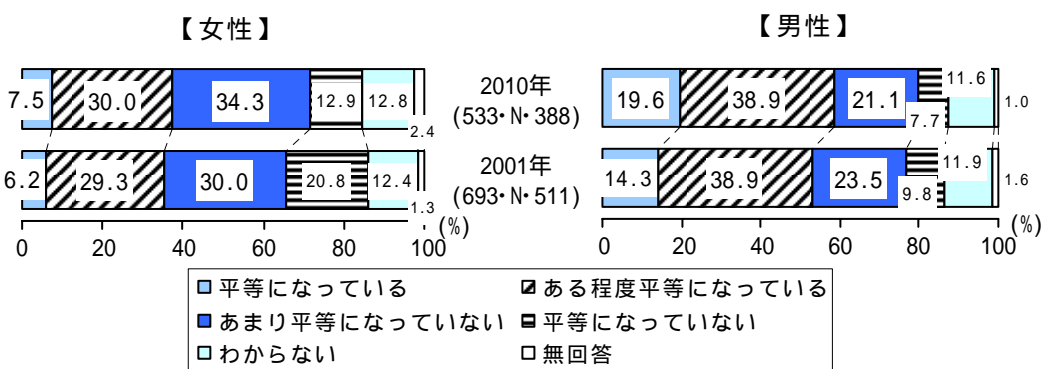
法律や制度のうえでは、女性で『平等になっていない』は前回調査と比べて6.0ポイント減少しています。一方、男性は1.7ポイント増加しています。

(イ) 社会の慣習やしきたりでは



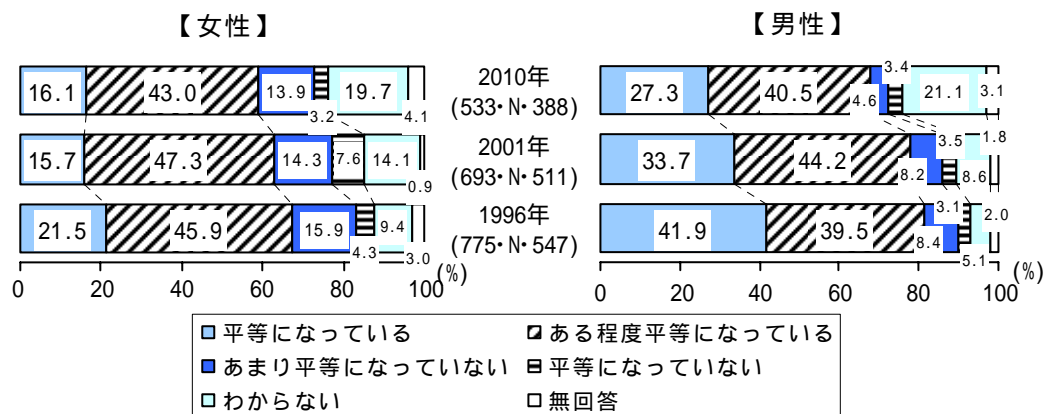
社会の慣習やしきたりでは、『平等になっていない』は男女とも減少傾向にあり、前回調査と比べて女性で10.4ポイント、男性で11.1ポイントの減少となっています。

(ウ) 自治会などの地域活動では



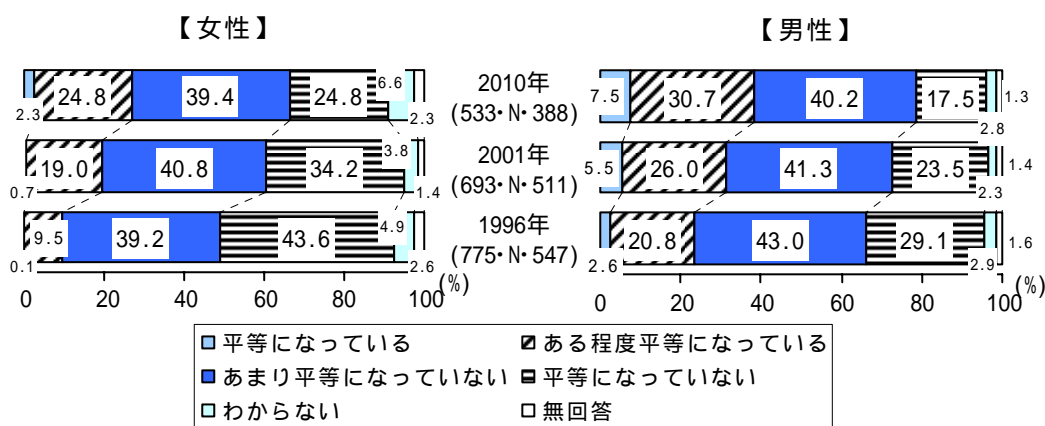
自治会などの地域活動では、『平等になっていない』は男女とも減少傾向にあり、前回調査と比べて女性で3.6ポイント、男性で4.5ポイントの減少となっています。

(エ) 学校生活では



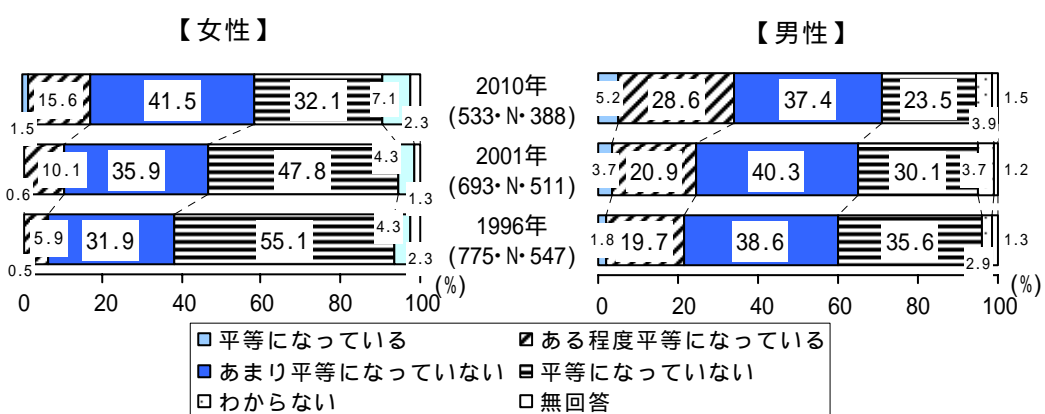
学校生活では、『平等になっていない』は男女とも減少傾向にあり、前回調査と比べて女性で4.8ポイント、男性で3.7ポイントの減少となっています。

(オ) 雇用の機会や職業の選択では



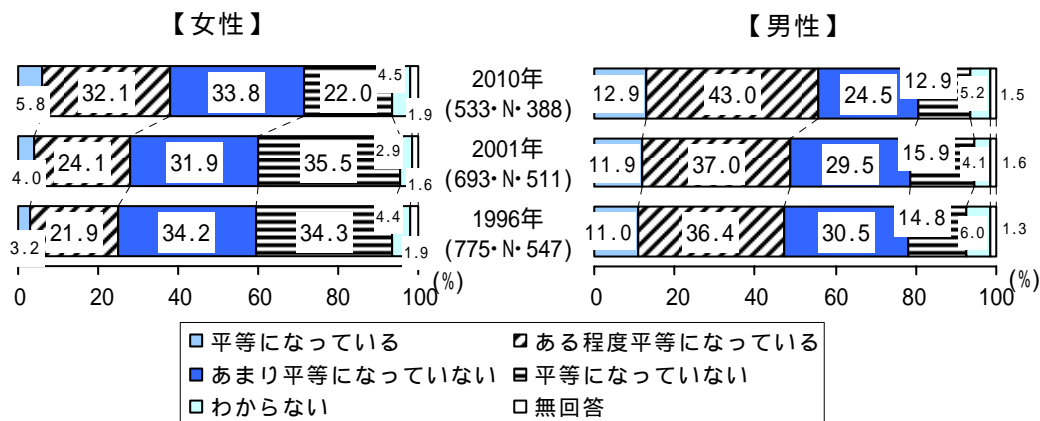
雇用の機会や職業の選択では、男女とも『平等になっている』が増加しており、女性は前回から7.4ポイント、男性では6.7ポイントの増加となっています。

(カ) 賃金や待遇では



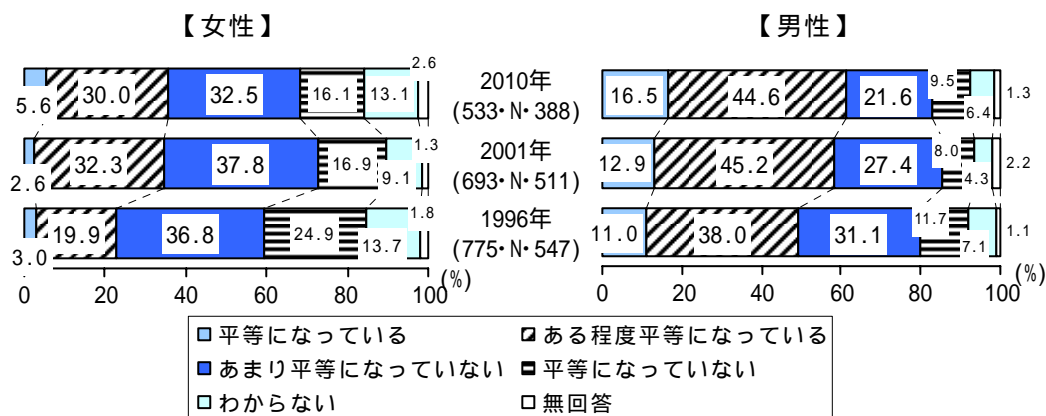
賃金や待遇では、男女とも『平等になっていない』は前回調査と比べ減少し、女性で10.1ポイント、男性で9.5ポイントの減少となっています。

(キ) 家庭生活では



家庭生活では、男女とも『平等になっていない』は前回調査と比べ減少し、女性で 11.6 ポイント、男性で 8.0 ポイントの減少となっています。

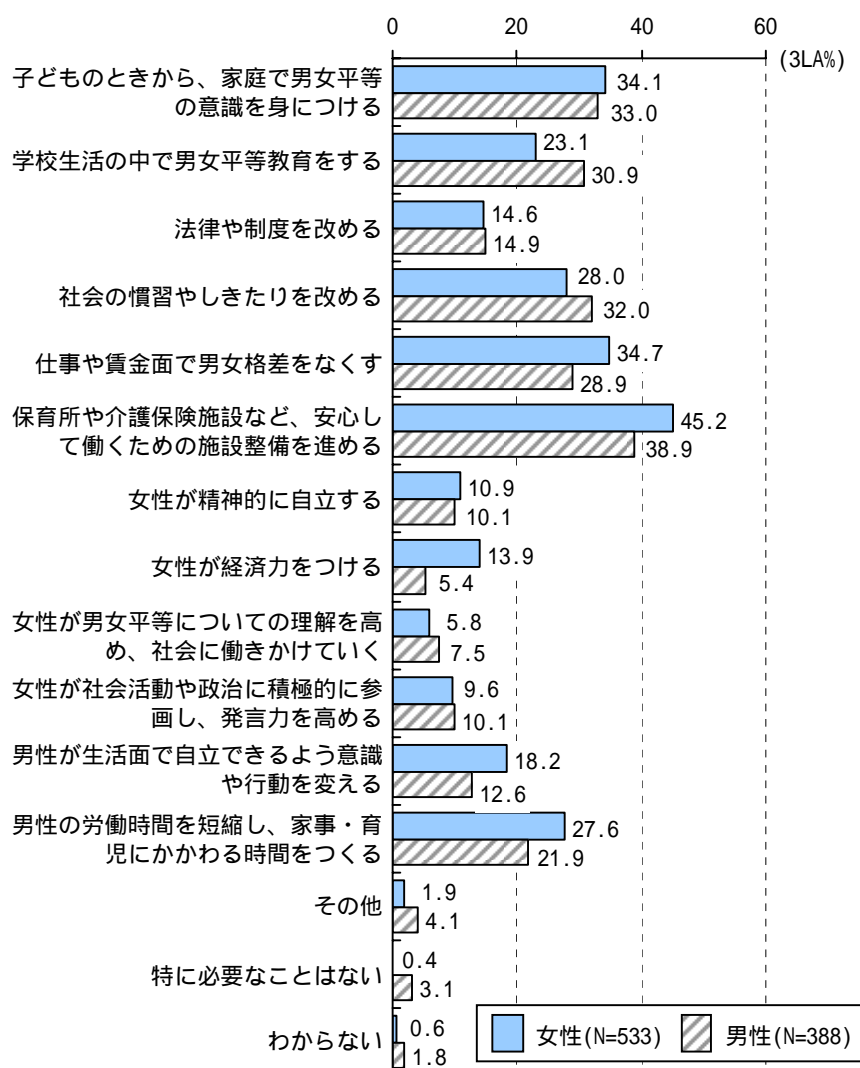
(ク) 政治・経済活動への参画では



政治・経済活動への参画では、男女とも『平等になっていない』は前回調査と比べ減少し、女性で 6.1 ポイント、男性で 4.3 ポイントの減少となっています。

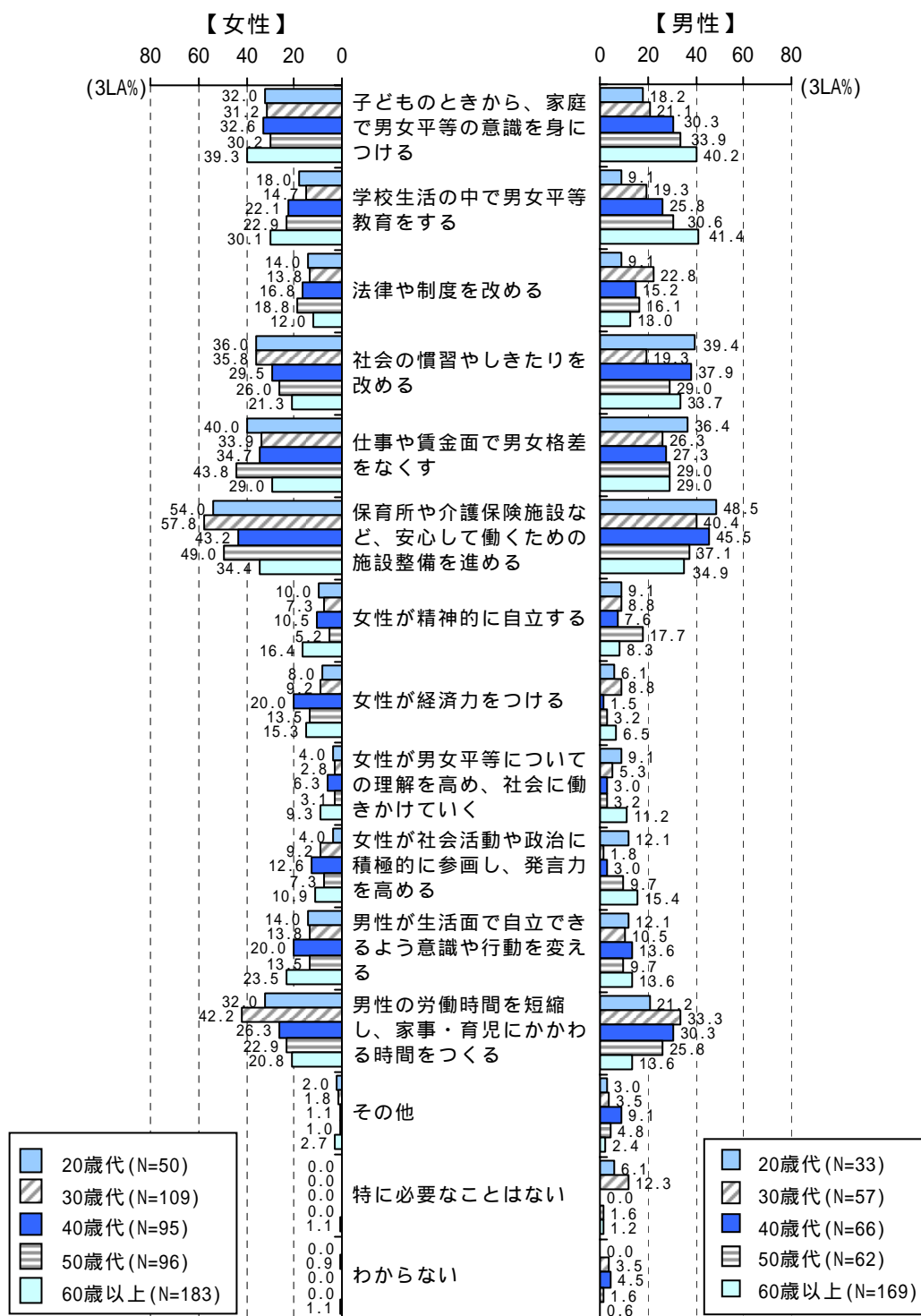
問3 あなたは、今後、男女平等を進めていくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(は3つまで)

【図1 - 3 男女平等を進めていくために必要だと思うこと】



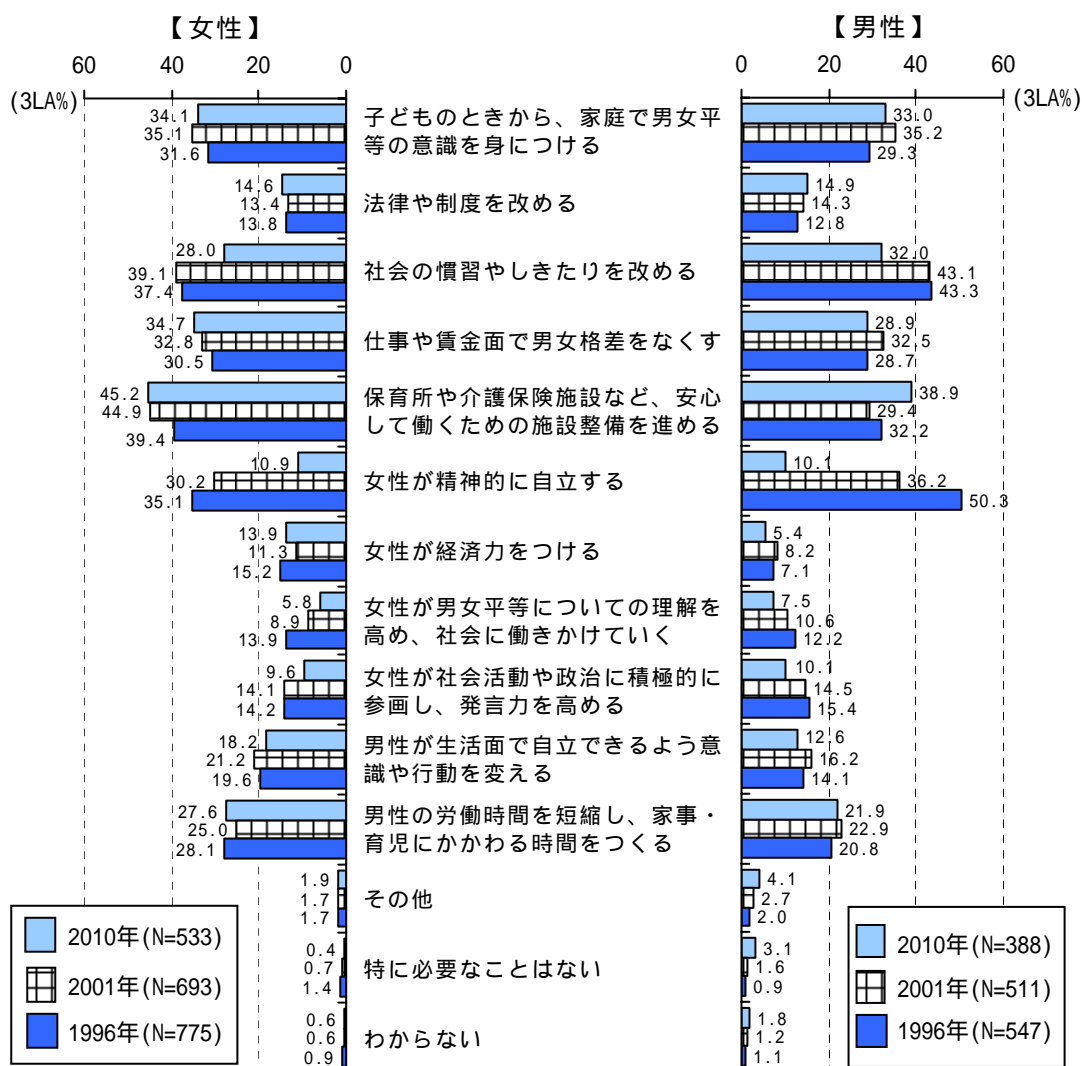
男女平等を進めていくために必要だと思うことは、男女ともに「保育所や介護保険施設など、安心して働くための施設整備を進める」が最も高く、女性で45.2%、男性で38.9%となっています。次いで、女性は「仕事や賃金面で男女格差をなくす」が34.7%、「子どものときから、家庭で男女平等の意識を身につける」が34.1%となっています。男性は、「子どものときから、家庭で男女平等の意識を身につける」が33.0%、「社会の慣習やしきたりを改める」が32.0%となっています。(図1 - 3)

【図 1-3-1 年代別 男女平等を進めていくために必要だと思うこと】



年代別にみると、「保育所や介護保険施設など、安心して働くための施設整備を進める」は、女性は30歳代、男性は20歳代を中心にいずれも若年層で高くなっています。「社会の慣習やしきたりを改める」は女性で若年層ほど高く、「子どものときから、家庭で男女平等の意識を身につける」、「学校生活の中で男女平等教育をする」は男性で高齢層ほど高くなっています。「男性の労働時間を短縮し、家事・育児にかかわる時間をつくる」は男女ともに30歳代で最も高くなっています。(図 1-3-1)

【図 1-3-2 前回比較 男女平等を進めていくために必要だと思うこと】

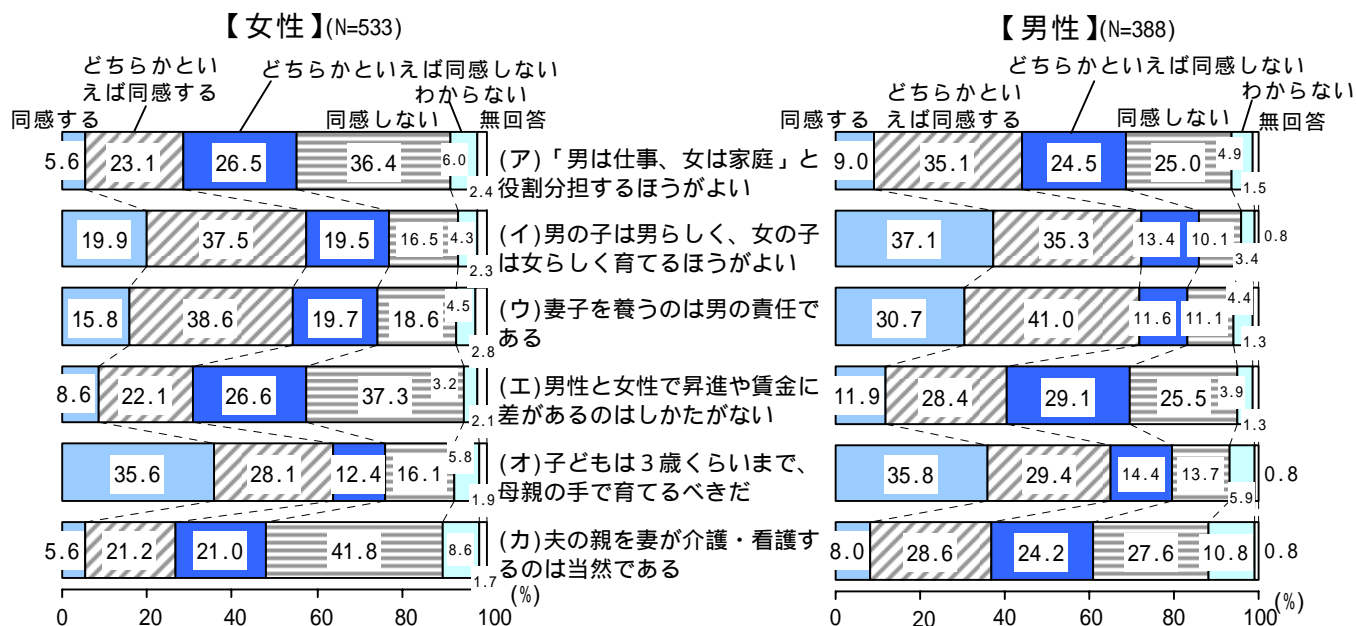


選択肢「子どものときから、家庭で男女平等の意識を身につける」は前回調査では「子どものときから、家庭を含め男女平等教育をする」
 選択肢「女性が精神的に自立する」は前回調査では「女性だから」という甘えをなくして、精神的に自立する」

前回調査と比べると、「保育所や介護保険施設など、安心して働くための施設整備を進める」は男女とも増加傾向にあり、特に男性では 9.5 ポイントの増加となっています。「社会の慣習やしきたりを改める」、「女性が精神的に自立する」などでは男女ともに減少傾向にあり、特に「女性が精神的に自立する」で減少幅は大きくなっています。(図 1-3-2)

問4 あなたは、次の(ア)～(カ)のような考え方に対してどのようにお考えですか。(は各項目に1つ)

【図1-4 男女の役割についての考え】



男女の役割についての考えは、『同意しない』(「同意しない」、「どちらかといえば同意しない」を合わせたもの)は「(ア)「男は仕事、女は家庭」と役割分担するほうがよい」で女性が62.9%、男性が49.5%、「(エ)男性と女性で昇進や賃金に差があるのはしかたがない」で女性が63.9%、男性が54.6%、「(カ)夫の親を妻が介護・看護するのは当然である」で女性が62.8%、男性が51.8%と高くなっています。男女差をみると、「(ウ)妻子を養うのは男の責任である」で15.6ポイント、「(ア)「男は仕事、女は家庭」と役割分担するほうがよい」で13.4ポイント女性の方が高くなっています。(図1-4)

【参考 国・大阪府との比較 男女の固定的役割分担についての考え】

夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである (%)

		N	賛成	どちらかといえば賛成	どちらかといえば反対	反対	わからない
国	女性	1,730	9.5	27.8	32.0	26.6	4.0
	男性	1,510	11.9	34.0	30.4	20.7	3.1

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(2009年)

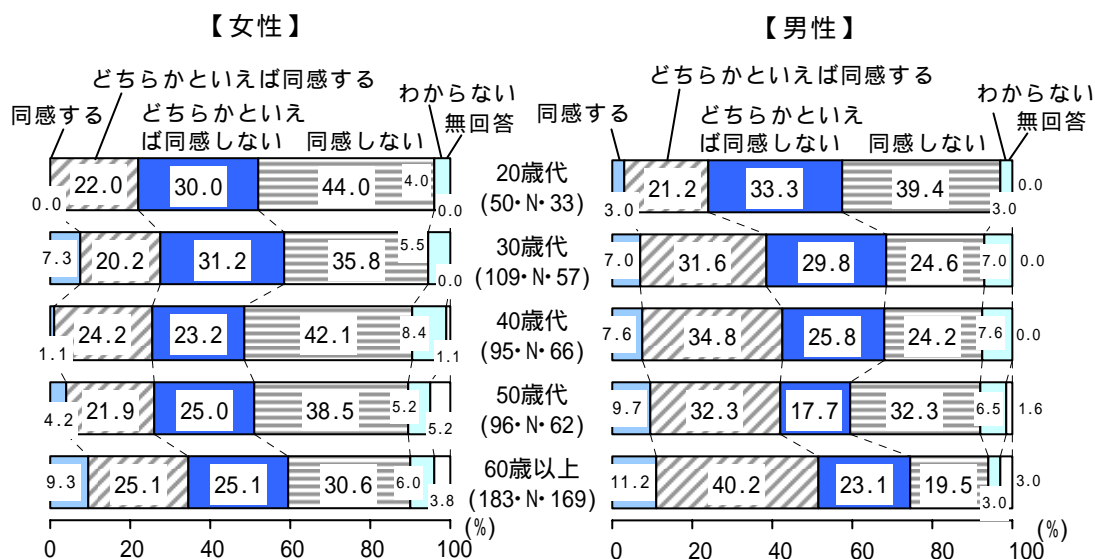
「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか (%)

		N	そのとおりだ と思う	どちらかとい えばそう思う	どちらかとい えばそう思わ ない	そうは思わ ない	無回答
大阪府	女性	382	4.2	42.7	20.4	32.5	0.3
	男性	298	7.0	49.7	14.4	27.9	1.0

大阪府「男女共同参画にかかる府民意識調査」(2009年)

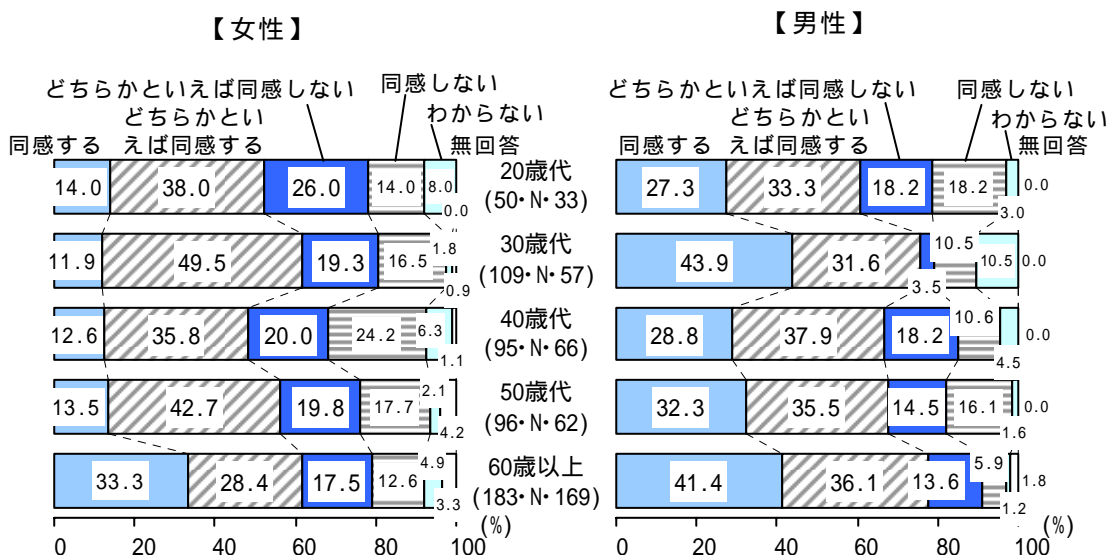
【図 1-4-1 年代別 男女の役割についての考え】

(ア)「男は仕事、女は家庭」と役割分担するほうがよい



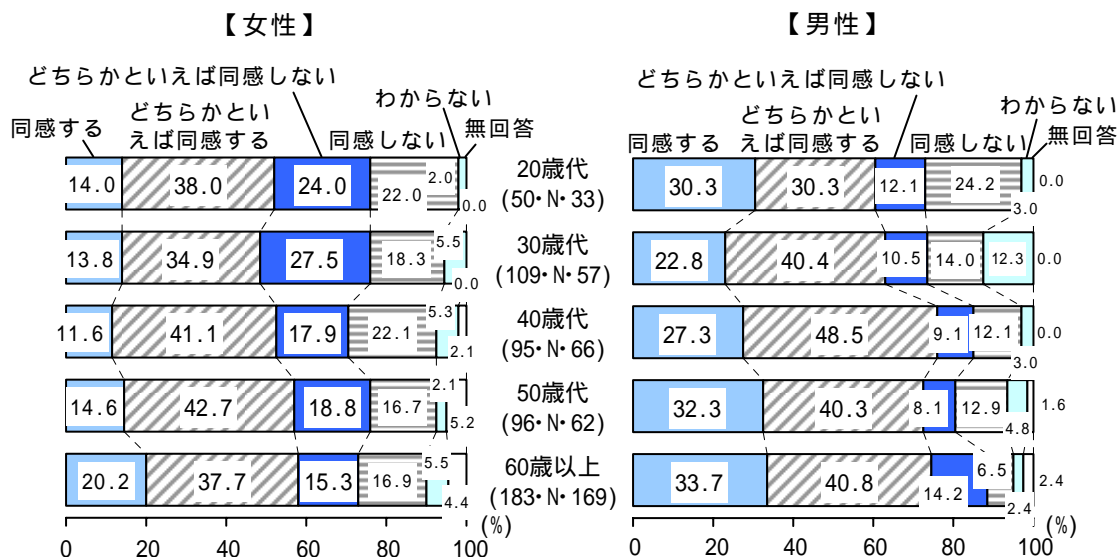
「男は仕事、女は家庭」と役割分担するほうがよいという考え方に対して、『同意しない』は男女ともに20歳代で高く、女性は74.0%、男性は72.7%となっています。『同意する』は男女とも高年齢層ほど高くなっています。

(イ) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい



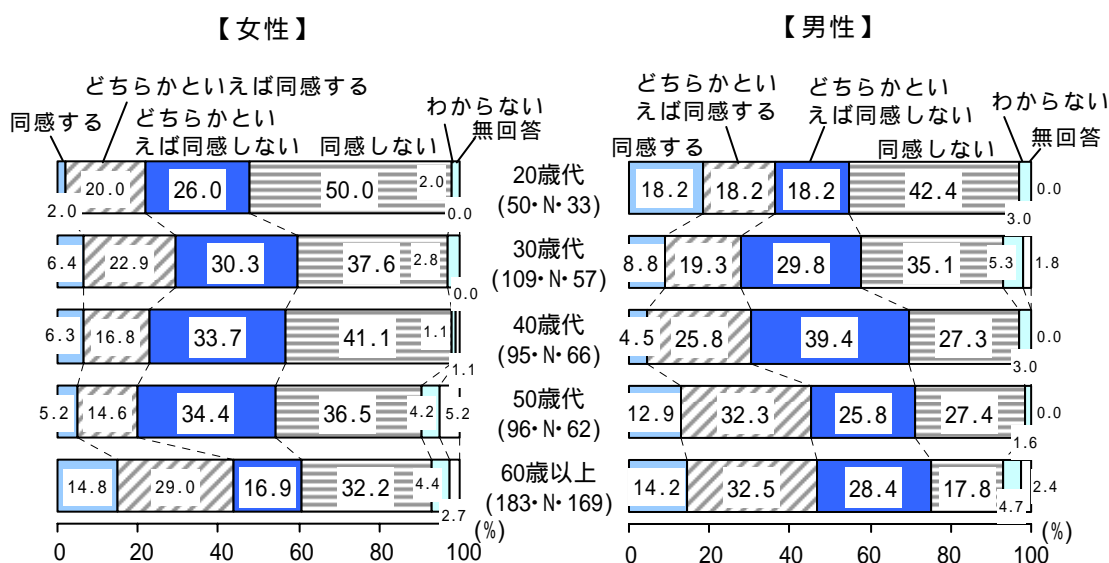
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよいという考え方に対して、『同意しない』は女性では40歳代で44.2%、20歳代で40.0%と高くなっていますが、30歳代では35.8%と低くなっています。男性でも20歳代では36.4%となっていますが、30歳代では14.0%と低くなっています。

(ウ) 妻子を養うのは男の責任である



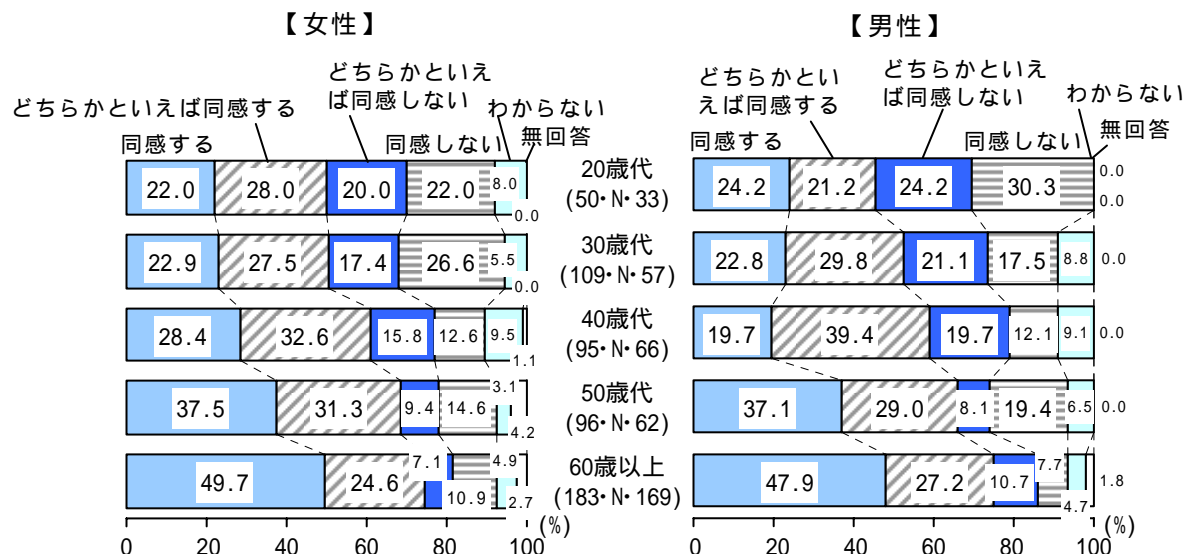
妻子を養うのは男の責任であるという考え方に対して、『同意しない』は男女ともに20歳代で高く、女性は46.0%、男性は36.3%となっています。『同意する』は男女とも高齢層ほど高くなっています。

(エ) 男性と女性で昇進や賃金に差があるのはしかたがない



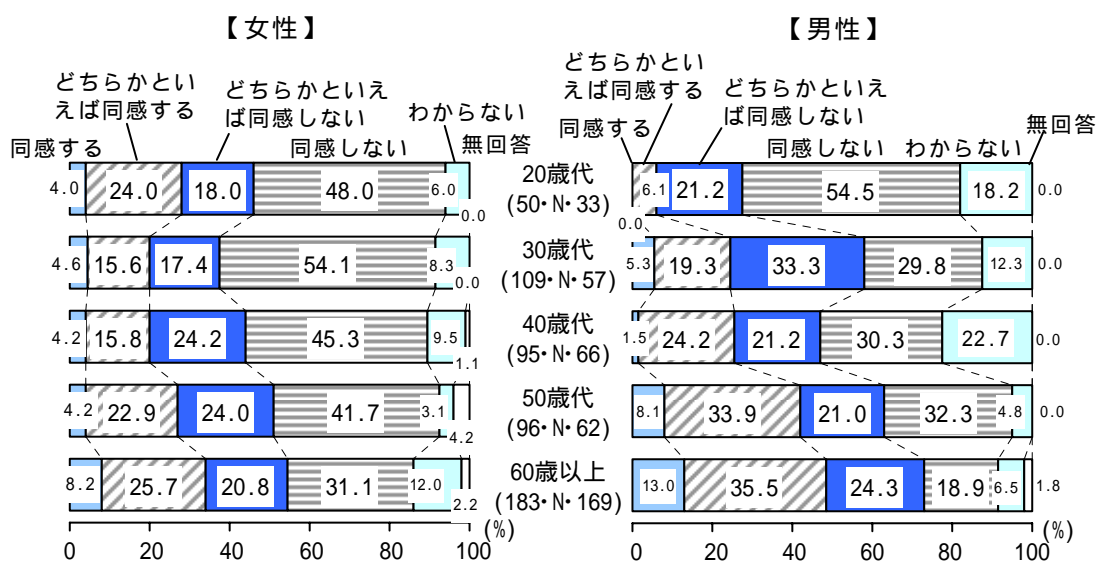
男性と女性で昇進や賃金に差があるのはしかたがないという考え方に対して、『同意しない』は女性では20歳代で76.0%、40歳代で74.8%と高くなっています。男性では40歳代で66.7%、30歳代で64.9%と高くなっています。『同意する』は男女とも60歳以上で最も高くなっています。

(オ) 子どもは3歳くらいまで、母親の手で育てるべきだ



子どもは3歳くらいまで、母親の手で育てるべきだという考え方に対して、『同感しない』は男女ともに若年層ほど高く、高年齢層ほど低くなっています。『同感する』は男女とも高年齢層ほど高く、60歳以上では、女性で74.3%、男性で75.1%となっています。

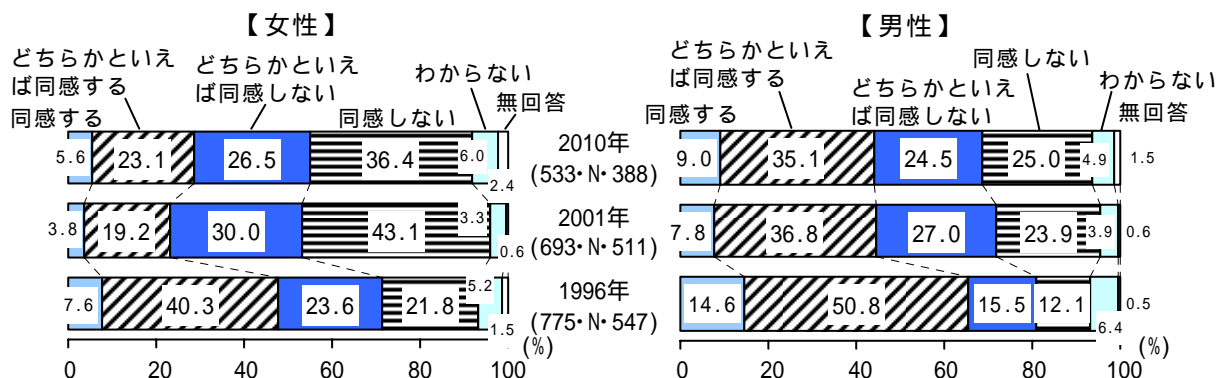
(カ) 夫の親を妻が介護・看護するのは当然である



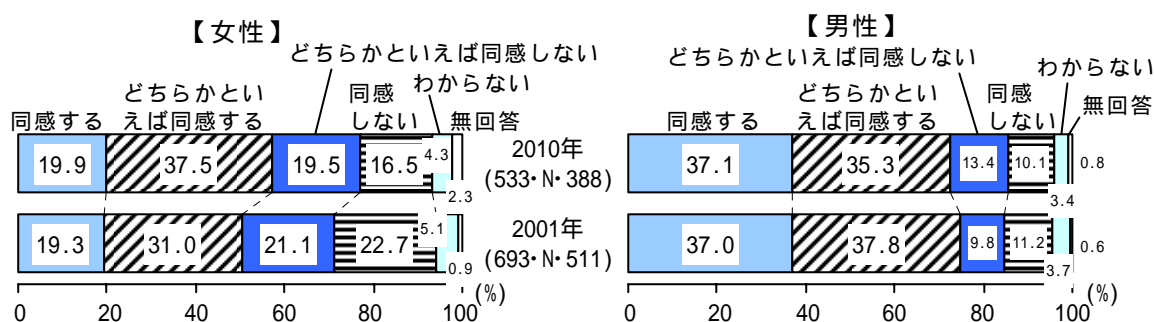
夫の親を妻が介護・看護するのは当然であるという考え方に対して、『同感しない』は女性では30歳代で71.5%、40歳代で69.5%と中年層で高くなっています。男性では20歳代で75.7%、30歳代で63.1%と若年層で高くなっています。『同感する』は男女とも60歳以上で最も高くなっています。

【図 1-4-2 前回比較 男女の役割についての考え】

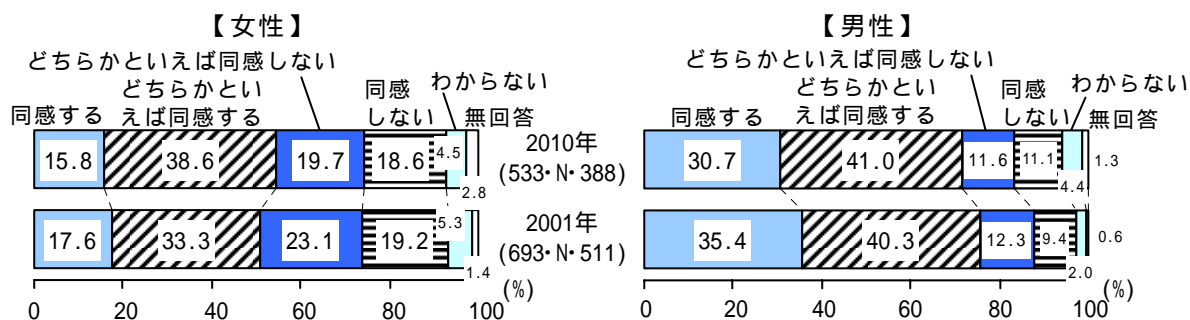
(ア) 「男は仕事、女は家庭」と役割分担するほうがよい



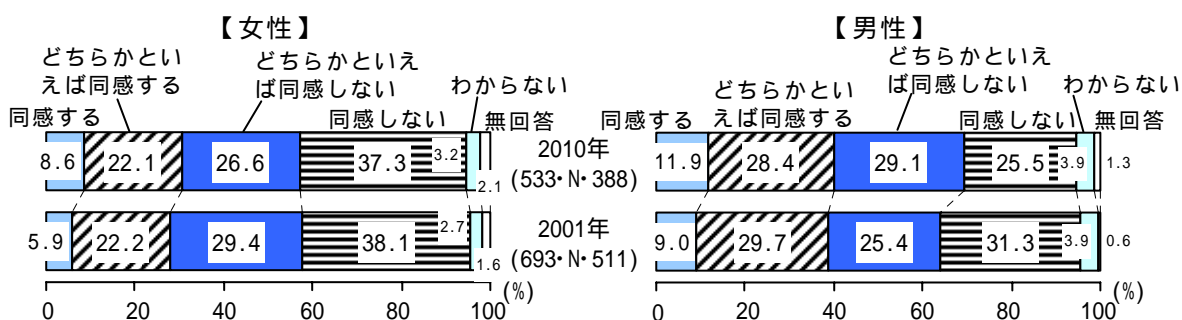
(イ) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい



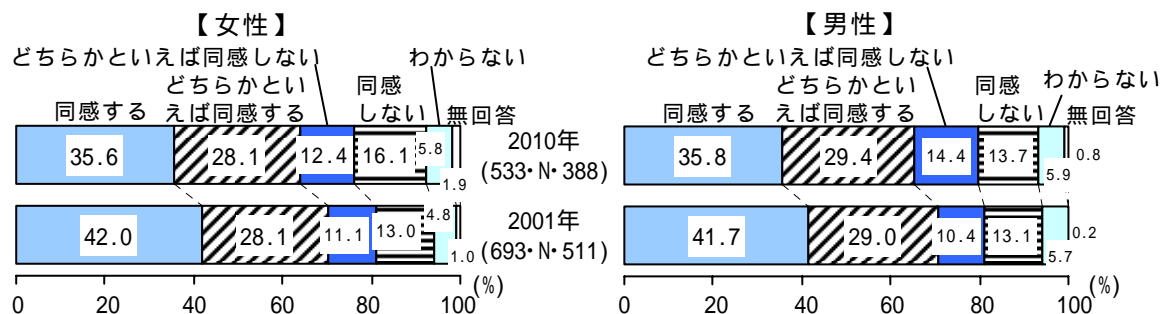
(ウ) 妻子を養うのは男の責任である



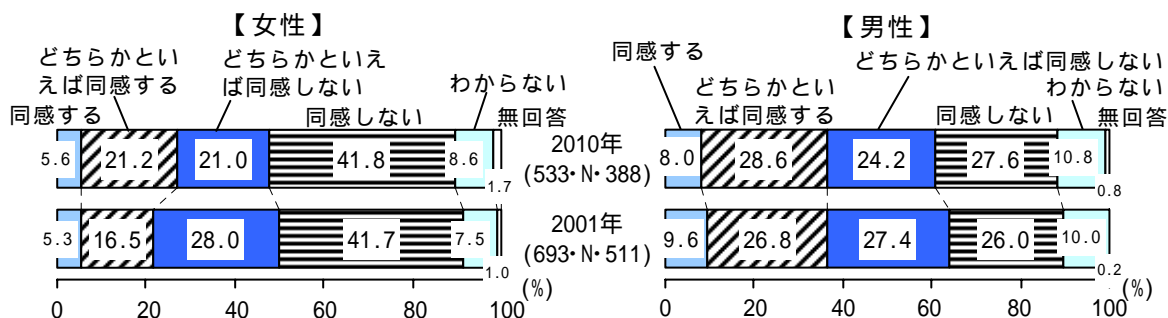
(エ) 男性と女性で昇進や賃金に差があるのはしかたがない



(オ) 子どもは3歳くらいまで、母親の手で育てるべきだ



(カ) 夫の親を妻が介護・看護するのは当然である

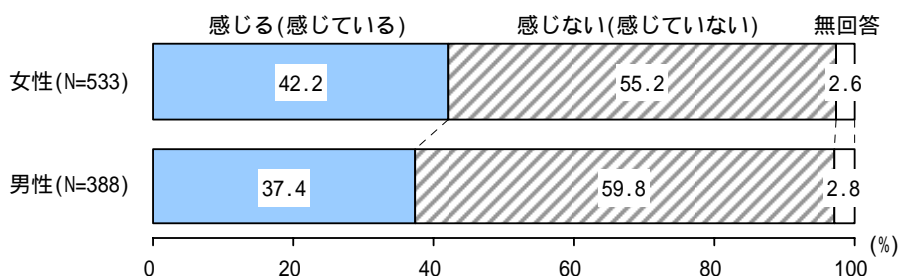


前回調査と比べると、『同感しない』という人は、女性では多くの項目で減少しています。特に、「(ア) 男は仕事、女は家庭」と役割分担するほうがよい」では10.2ポイント、「(イ) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」では7.8ポイントと減少幅が大きくなっています。一方、男性で『同感しない』という人は「(イ) 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てるほうがよい」、「(ウ) 妻子を養うのは男の責任である」、「(オ) 子どもは3歳くらいまで、母親の手で育てるべきだ」で増加しており、特に「(オ) 子どもは3歳くらいまで、母親の手で育てるべきだ」では4.6ポイントの増加となっています。(図1-4-2)

2. 結婚や家庭生活について

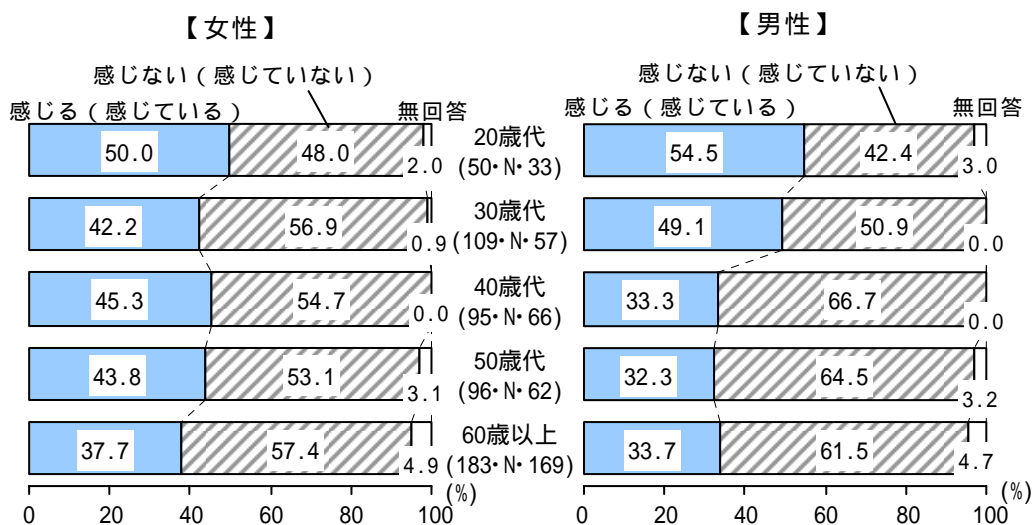
問5 あなたは、結婚について負担を感じますか。(感じていますか。) 独身の方もお答えください。(は1つ)

【図2-1 結婚について負担を感じることの有無】



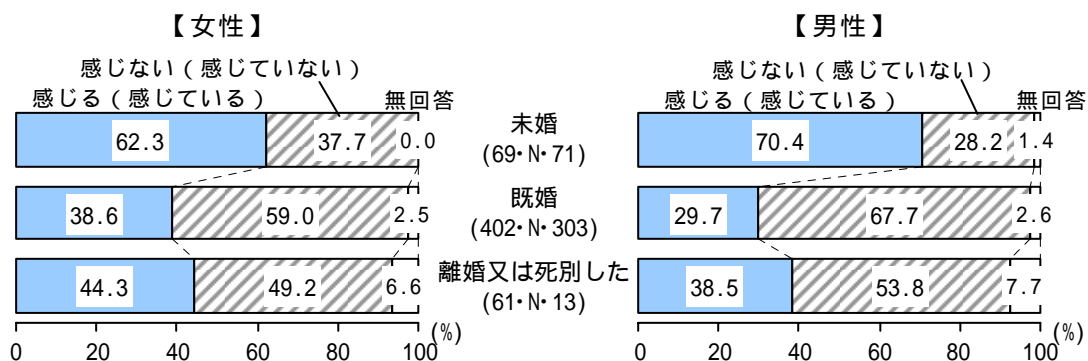
結婚について負担を感じることの有無は、「感じる(感じている)」が女性で42.2%、男性で37.4%と女性の方が高くなっています。(図2-1)

【図2-1-1 年代別 結婚について負担を感じることの有無】



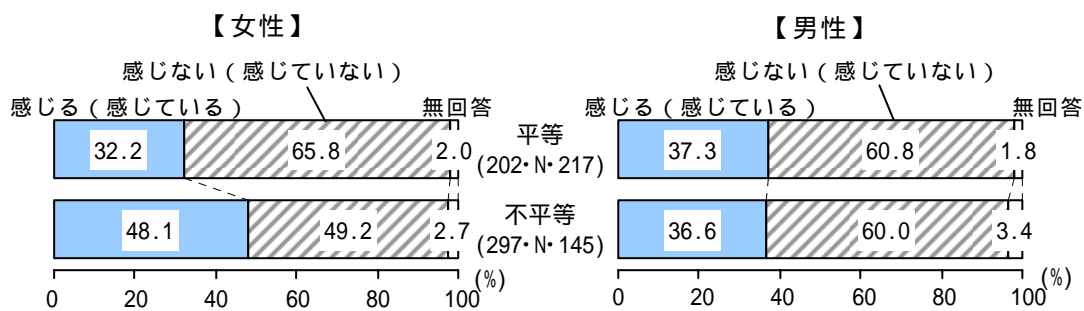
年代別にみると、女性は「感じる(感じている)」は20歳代で50.0%と半数を占めていますが、その他の年代では「感じない(感じていない)」が半数以上となっています。男性では「感じる(感じている)」は20歳代で54.5%と半数以上を占めていますが、40歳以上の年代では「感じない(感じていない)」が6割以上となっています。(図2-1-1)

【図 2-1-2 結婚有無別 結婚について負担を感じることの有無】



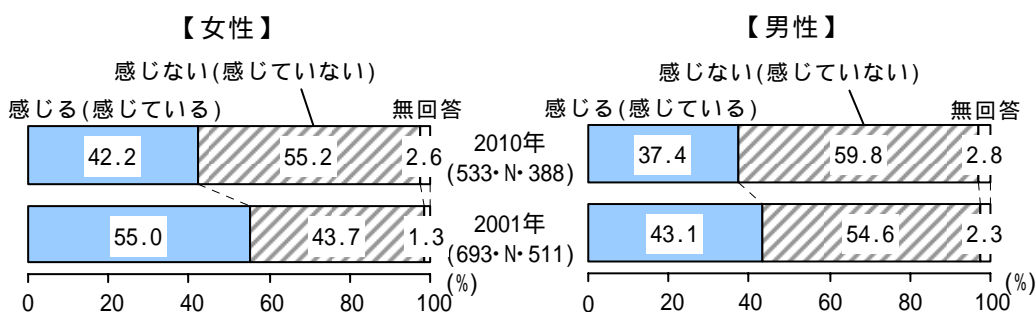
結婚有無別にみると、負担を「感じる(感じている)」は男女とも未婚者で高く、女性で62.3%、男性で70.4%となっています。「感じる(感じている)」の未婚者と既婚者の差をみると、女性は23.7ポイント、男性は40.7ポイントと男性の方が差は大きくなっています。(図 2-1-2)

【図 2-1-3 家庭生活の平等観別 結婚について負担を感じることの有無】



家庭生活において不平等と感じている女性の結婚についての負担感(48.1%)と、平等と感じている女性(32.2%)と比べて高くなっています。男性では家庭生活の平等感での結婚についての負担感に大きな差はみられません。(図 2-1-3)

【図 2-1-4 前回比較 結婚について負担を感じることの有無】

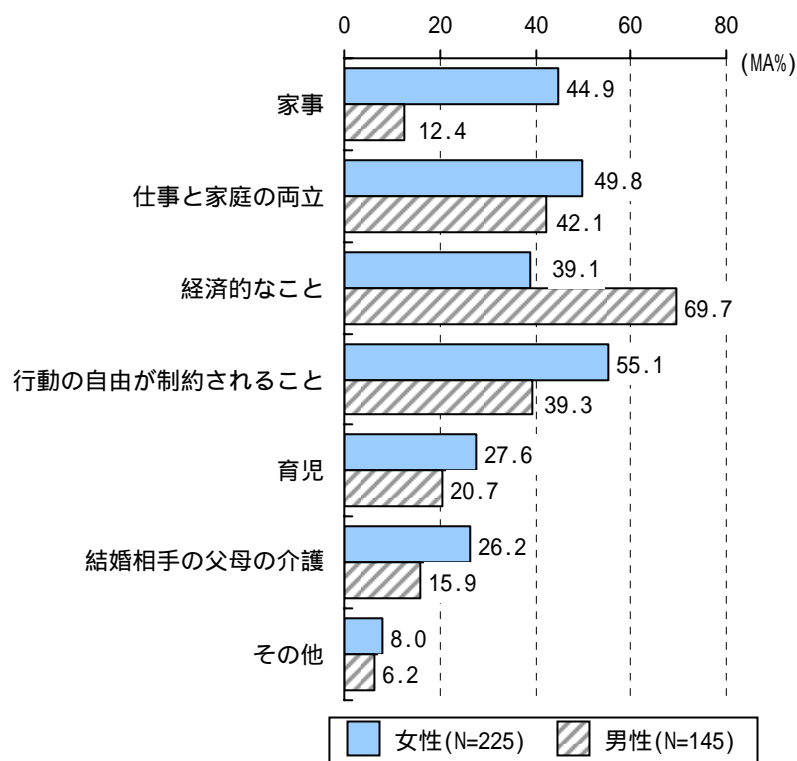


前回調査と比べると、男女ともに負担感は減少し、減少幅は女性の方が大きくなっています。(図 2-1-4)

《感じる（感じている）と答えられた方におたずねします。》

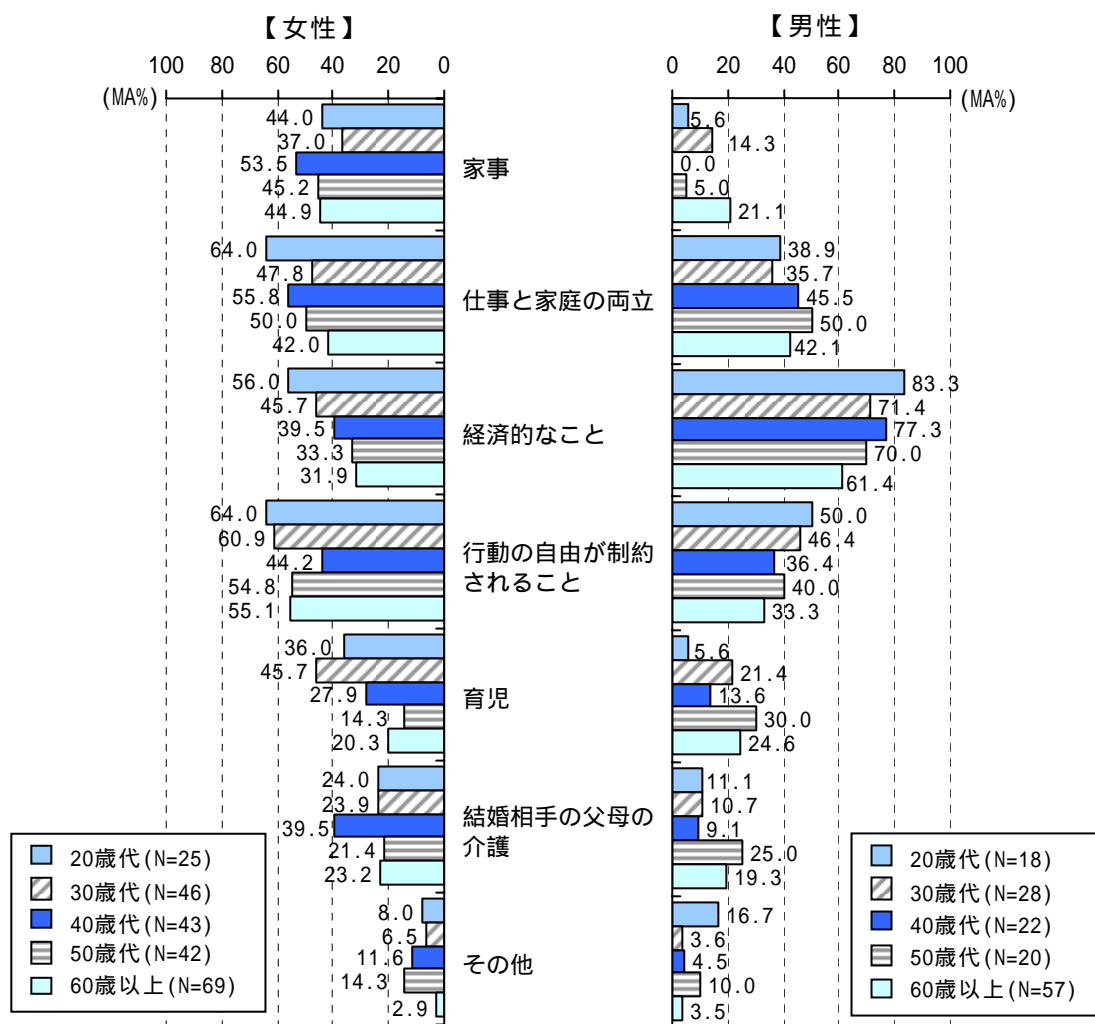
問 5-1 負担に感じるのはどのようなことがらですか。（はいいくつでも）

【図 2 - 2 結婚について負担に感じること】



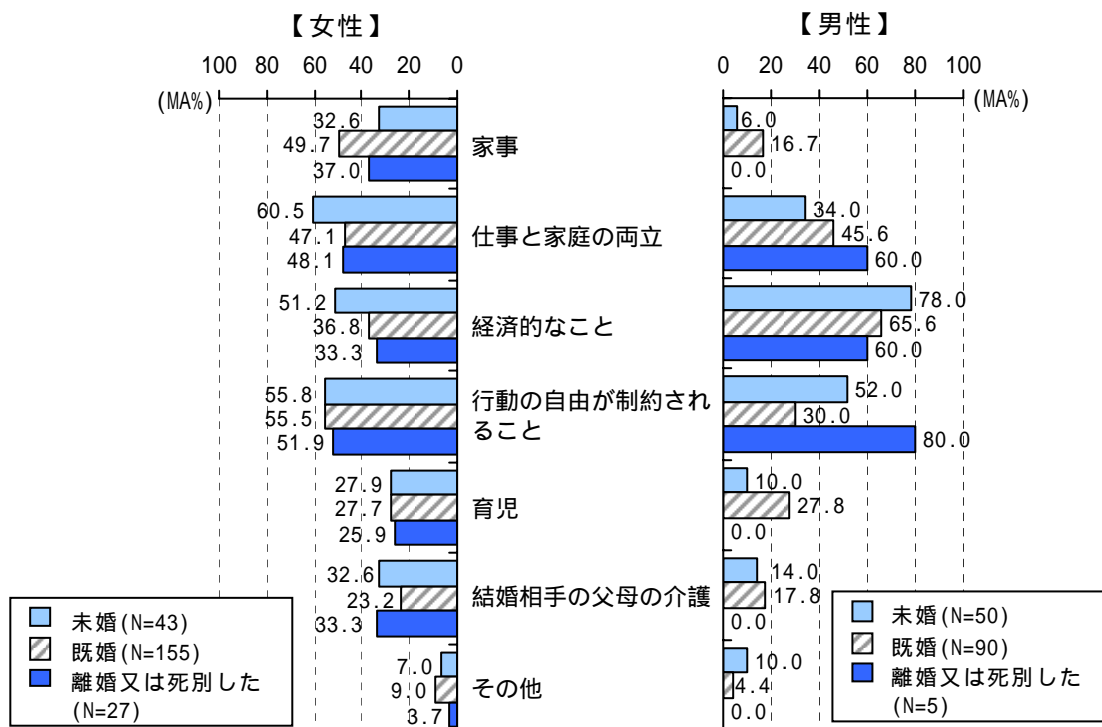
結婚について負担に感じることは、女性は「行動の自由が制約されること」が 55.1%と最も高く、次いで、「仕事と家庭の両立」が 49.8%、「家事」が 44.9%となっています。男性は「経済的なこと」が 69.7%と最も高く、次いで、「仕事と家庭の両立」が 42.1%、「行動の自由が制約されること」が 39.3%となっています。（図 2 - 2）

【図 2-2-1 年代別 結婚について負担に感じること】



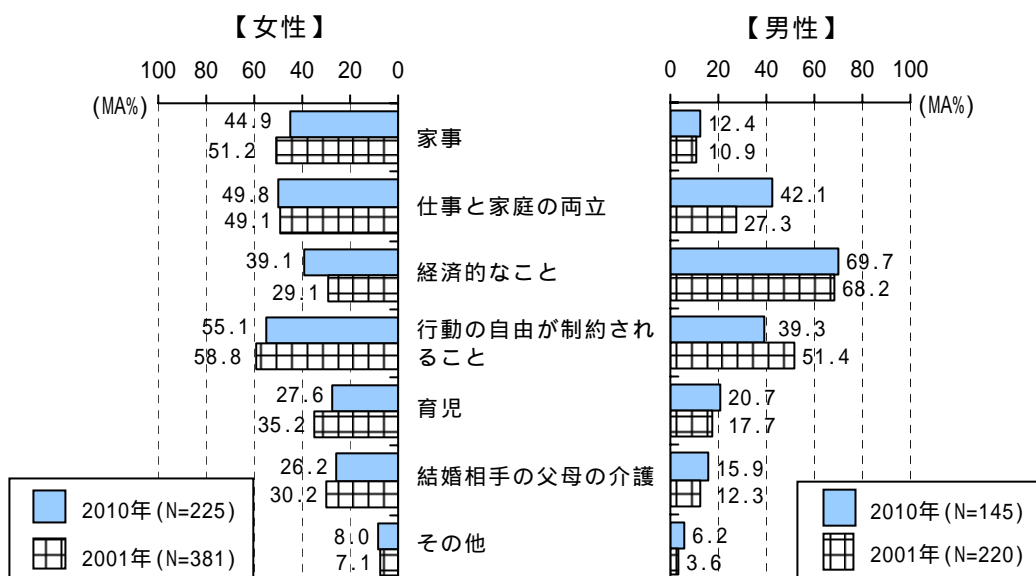
年代別にみると、女性は「育児」に関しては30歳代が45.7%と最も高く、「結婚相手の父母の介護」では40歳代が39.5%と最も高くなっています。男性では「経済的なこと」、「行動の自由が制約されること」は若年層で割合は高くなっています。(図 2-2-1)

【図 2-2-2 結婚有無別 結婚について負担に感じること】



結婚有無別にみると、「経済的なこと」は男女とも未婚者の方が既婚者よりも割合は高くなっています。女性は「仕事と家庭の両立」は未婚者の方が、「家事」は既婚者の方が割合は高くなっています。男性は「仕事と家庭の両立」は既婚者の方が、「行動の自由が制約されること」は未婚者の方が割合は高くなっています。(図 2-2-2)

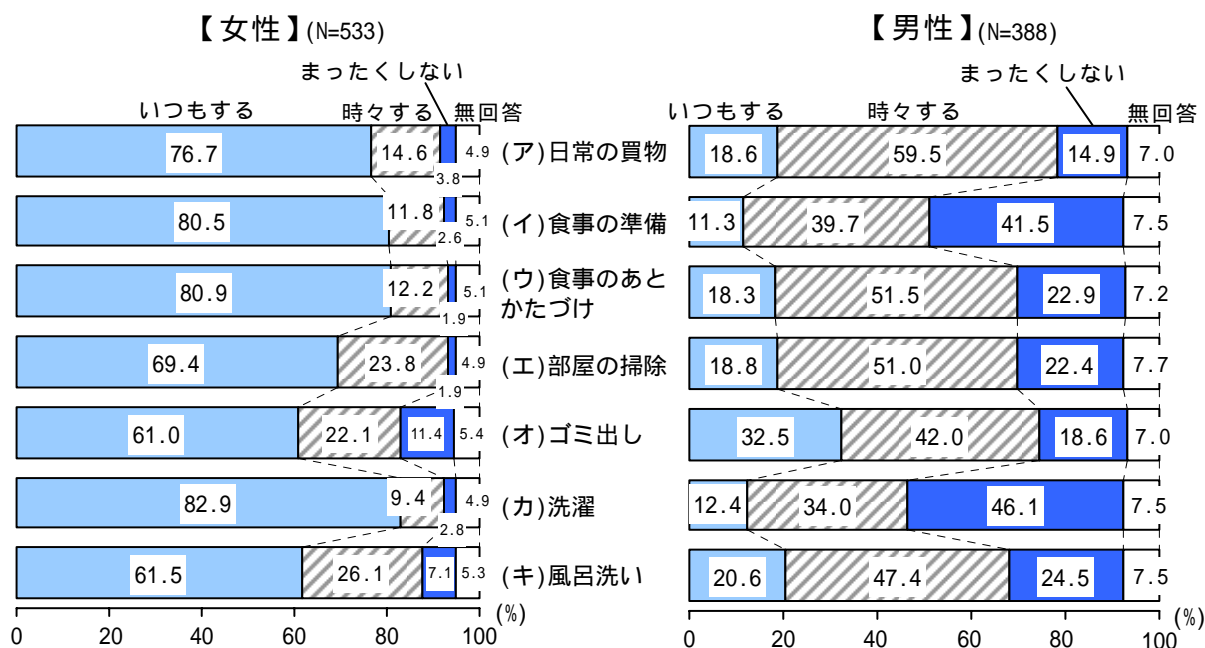
【図 2-2-3 前回比較 結婚について負担に感じること】



前回調査と比べると、女性は「家事」、「育児」、「結婚相手の父母の介護」はわずかに減少していますが、「経済的なこと」は10ポイント増加しています。男性では「行動の自由が制約されること」が大きく減少していますが、「仕事と家庭の両立」で増加しています。(図 2-2-3)

問6 あなたは、次の(ア)～(キ)のような家事をどの程度されていますか。(は各項目に1つ)

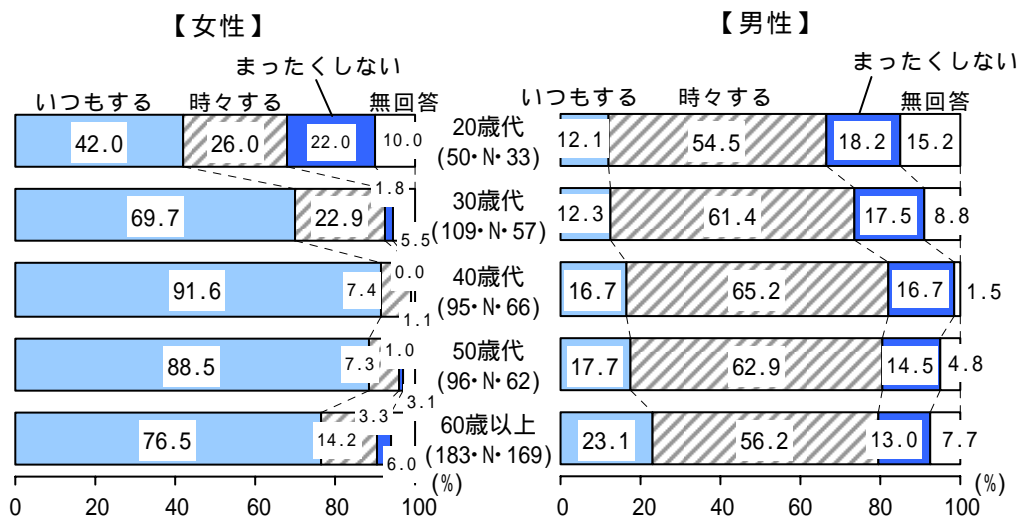
【図2-3 家事をする頻度】



家事をする頻度は、女性は「いつもする」が「(イ) 食事の準備」、「(ウ) 食事のあとかたづけ」、「(カ) 洗濯」で8割以上を占めています。男性は「いつもする」は「(オ) ゴミ出し」で32.5%と最も高く、「まったくしない」が「(カ) 洗濯」で46.1%、「(イ) 食事の準備」で41.5%と4割以上を占めています。(図2-3)

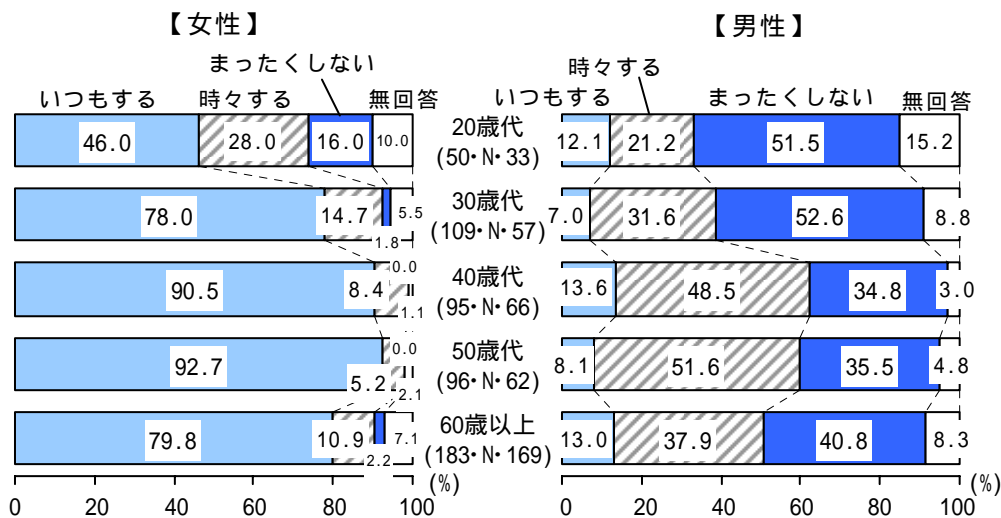
【図 2-3-1 年代別 家事をする頻度】

(ア) 日常の買物



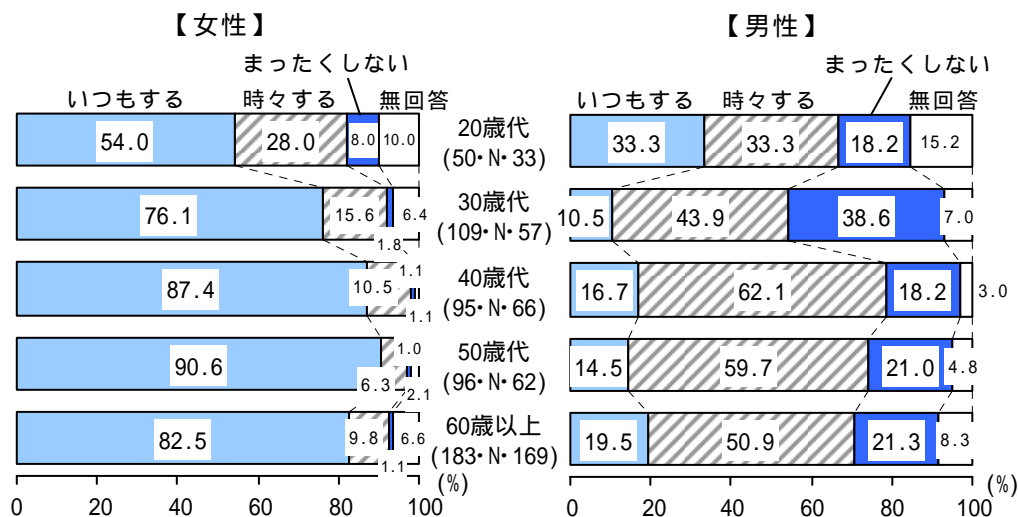
日常の買物では、女性は「いつもする」が40歳代で91.6%、50歳代で88.5%と高くなっています。男性では「いつもする」は高齢層ほど高く、60歳以上で23.1%と最も高くなっています。

(イ) 食事の準備



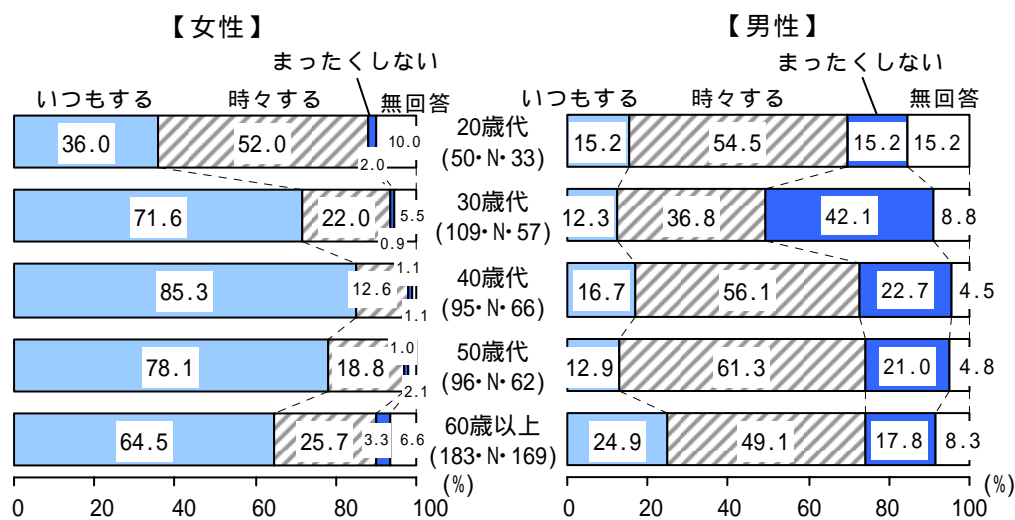
食事の準備では、女性は「いつもする」が40歳代で90.5%、50歳代で92.7%と高くなっています。男性では「いつもする」は20歳代、40歳代、60歳以上で1割台となっていますが、「まったくしない」は20歳代、30歳代と若年層で半数を超えています。

(ウ) 食事のあとかたづけ



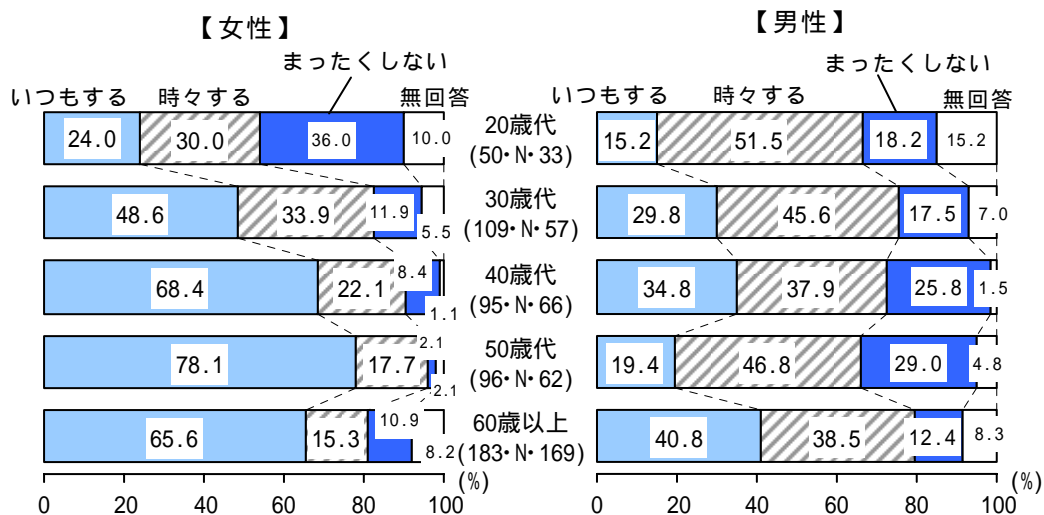
食事のあとかたづけでは、女性は「いつもする」が40歳代で87.4%、50歳代で90.6%と高くなっています。男性では「いつもする」は20歳代で33.3%と高くなっています。30歳代では「まったくしない」が38.6%と高くなっています。

(エ) 部屋の掃除



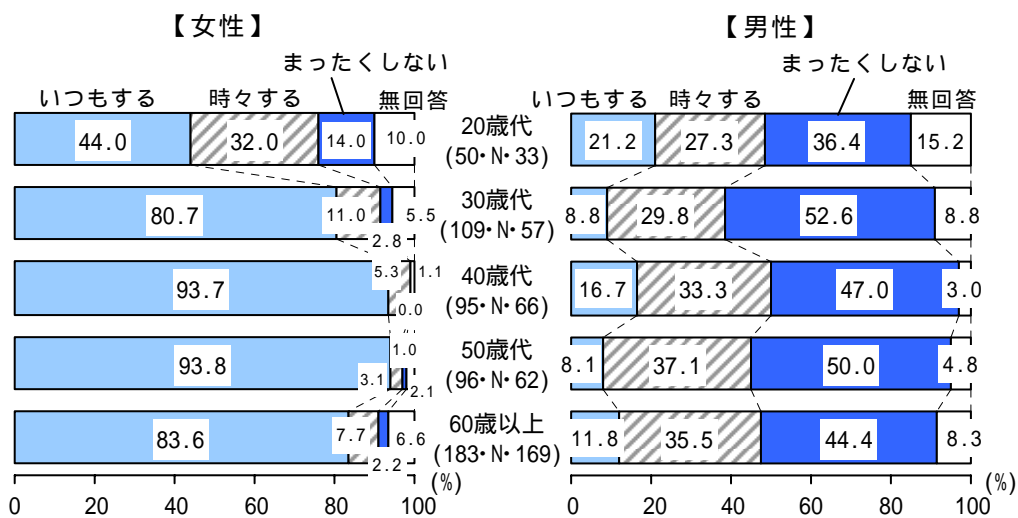
部屋の掃除では、女性は「いつもする」が40歳代で85.3%、50歳代で78.1%と高くなっています。男性では「いつもする」は60歳以上で24.9%と高くなっています。「まったくしない」は30歳代で42.1%と高くなっています。

(オ) ゴミ出し



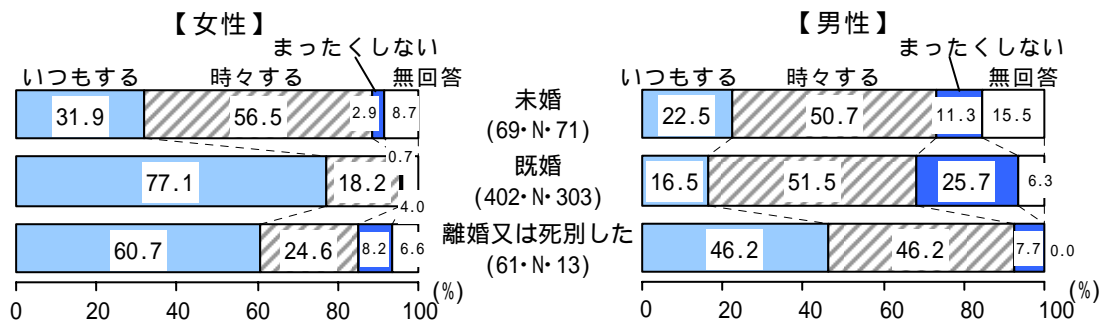
ゴミ出しでは、女性は「いつもする」が50歳代で78.1%と高くなっています。男性では「いつもする」は60歳以上で40.8%と高くなっていますが、50歳代では「まったくしない」が29.0%と高くなっています。

(カ) 洗濯

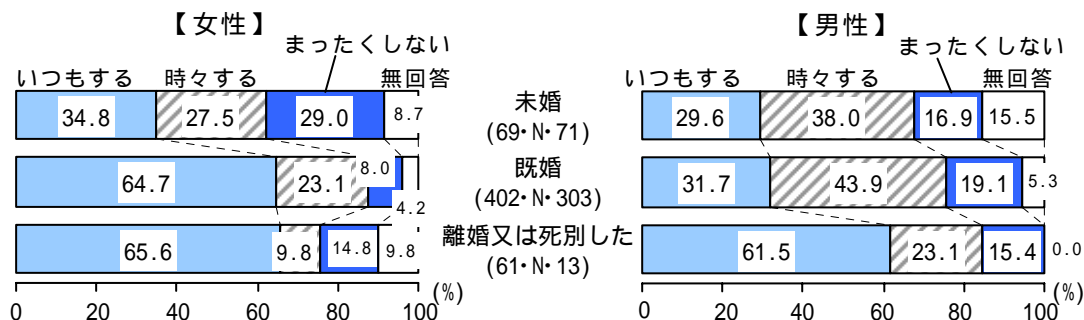


洗濯では、女性は「いつもする」が40歳代で93.7%、50歳代で93.8%と高くなっています。男性では「いつもする」は20歳代で21.2%と高くなっていますが、30歳代では「まったくしない」が52.6%と高くなっています。

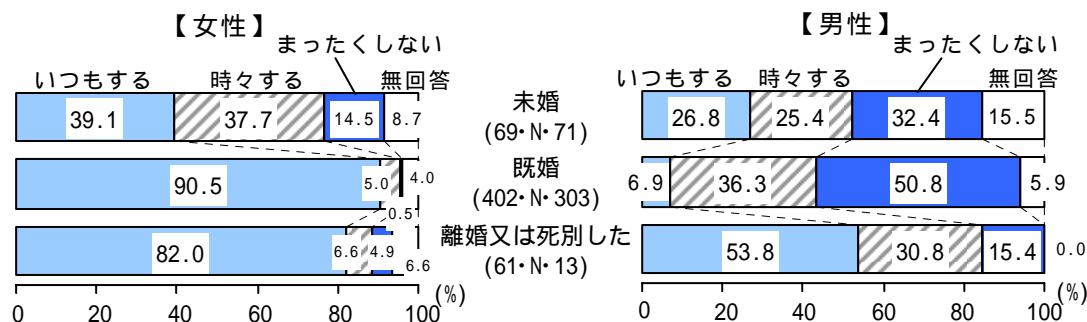
(エ) 部屋の掃除



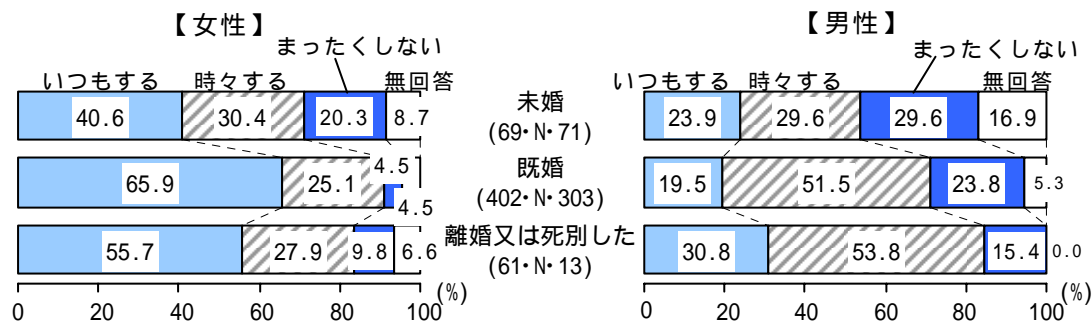
(オ) ゴミ出し



(カ) 洗濯



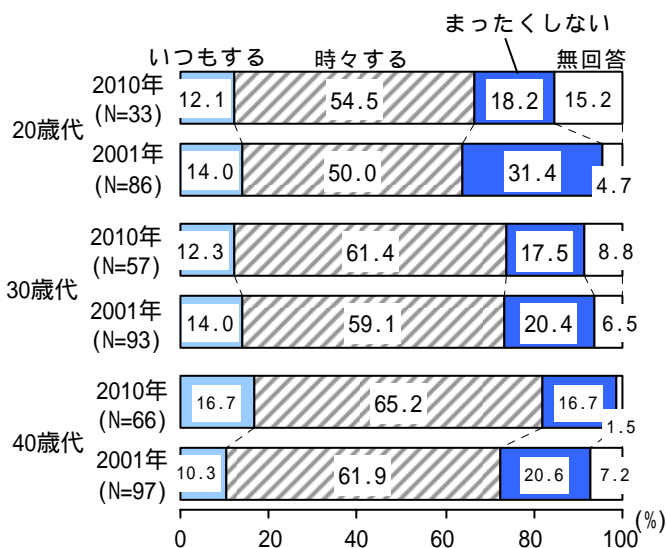
(キ) 風呂洗い



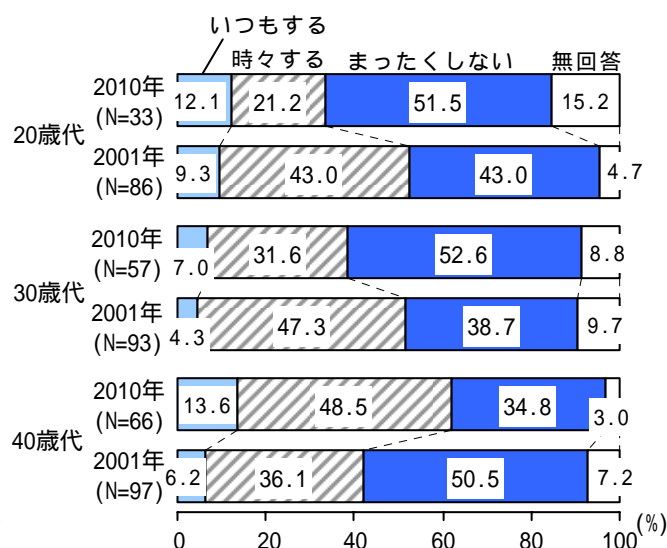
女性は、すべての項目で「いつもする」という人は既婚者の方が未婚者よりも高く、特に「(イ) 食事の準備」でその差は大きくなっています。一方、男性は「(オ) ゴミ出し」以外の項目で「いつもする」は未婚者の方が既婚者よりも高くなっています。結婚を機に家事をする頻度は女性が上がり、男性が下がることうかがえ、さらに結婚後の家庭における家事の役割分担は、食事の準備は女性が多く、ゴミ出しは比較的男性が多いという傾向がみられます。(図 2-3-2)

【図 2-3-3 前回比較 家事をする頻度（男性 20 歳代～40 歳代）】

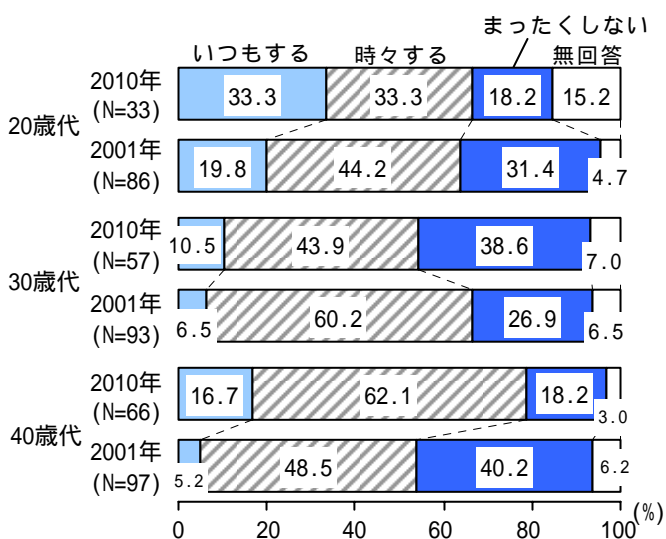
(ア) 日常の買物



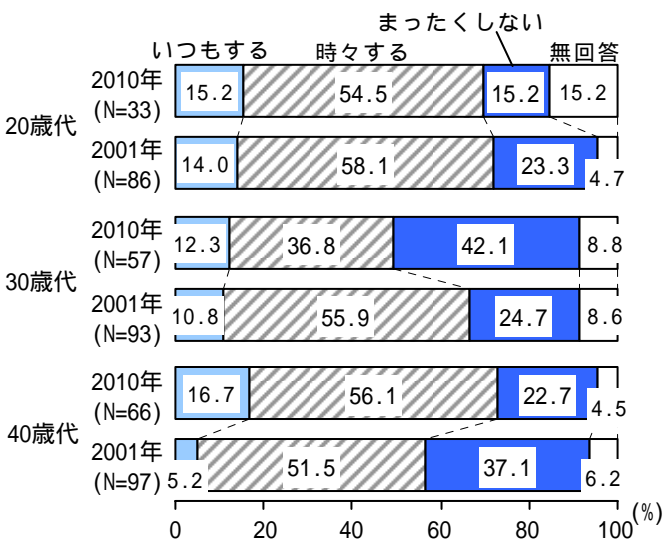
(イ) 食事の準備



(ウ) 食事のあとかたづけ



(エ) 部屋の掃除



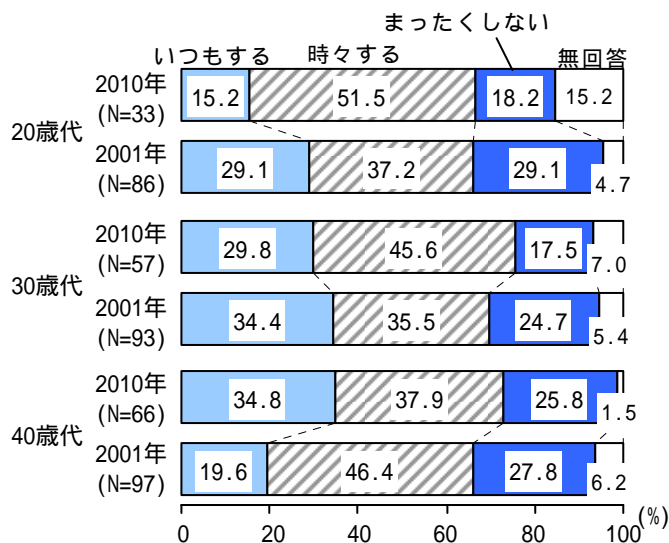
男性の 20 歳代から 40 歳代に限定して前回の調査と比べると、「(ア) 日常の買物」では「いつもする」は 40 歳代で増加しています。「まったくしない」という人は 20 歳代で大きく減少しています。

「(イ) 食事の準備」では「いつもする」は 20 歳代～40 歳代のどの年代でも増加しています。「まったくしない」という人は、20 歳代、30 歳代で増加していますが、40 歳代では減少しています。

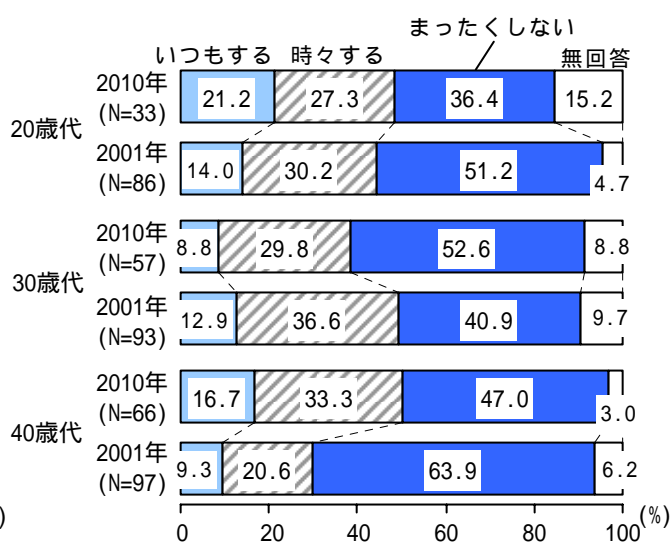
「(ウ) 食事のあとかたづけ」では「いつもする」は 20 歳代～40 歳代のどの年代でも増加しており、特に 20 歳代で大きく増加しています。

「(エ) 部屋の掃除」では「まったくしない」という人は、30 歳代で増加していますが、20 歳代、40 歳代では減少しています。

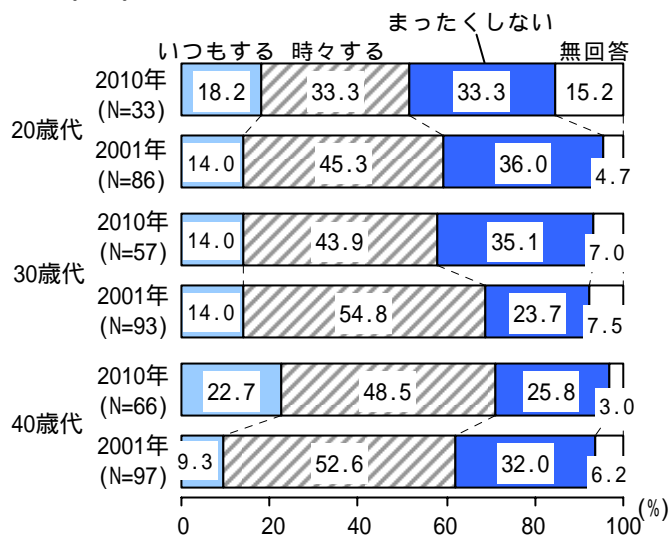
(オ) ゴミ出し



(カ) 洗濯



(キ) 風呂洗い



「(オ) ゴミ出し」では「いつもする」は40歳代で増加しています。「まったくしない」という人は20歳代～40歳代のどの年代でも減少しています。

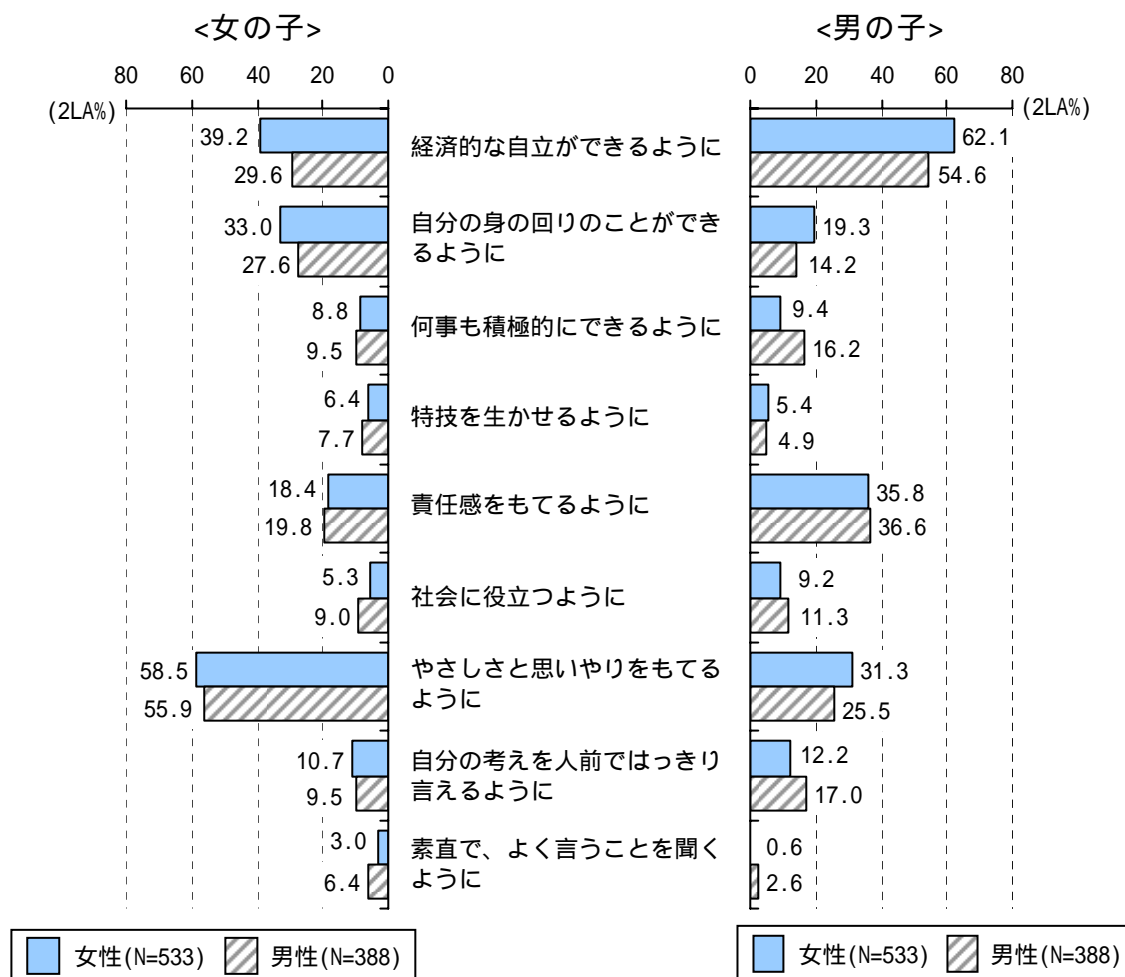
「(カ) 洗濯」では「いつもする」は30歳代以外の年代で増加し、「まったくしない」という人は、30歳代以外の年代で減少しています。

「(キ) 風呂洗い」では「いつもする」は40歳代で大きく増加しています。「まったくしない」という人は30歳代で増加しています。

3. 子育てについて

問7 あなたは、子どもがどのように育ってほしいと思われませんか。(子どものおられない方もお答えください。)(は女の子・男の子にそれぞれ1～9の中から2つまで)

【図3 - 1 希望する子どもの育ち方】

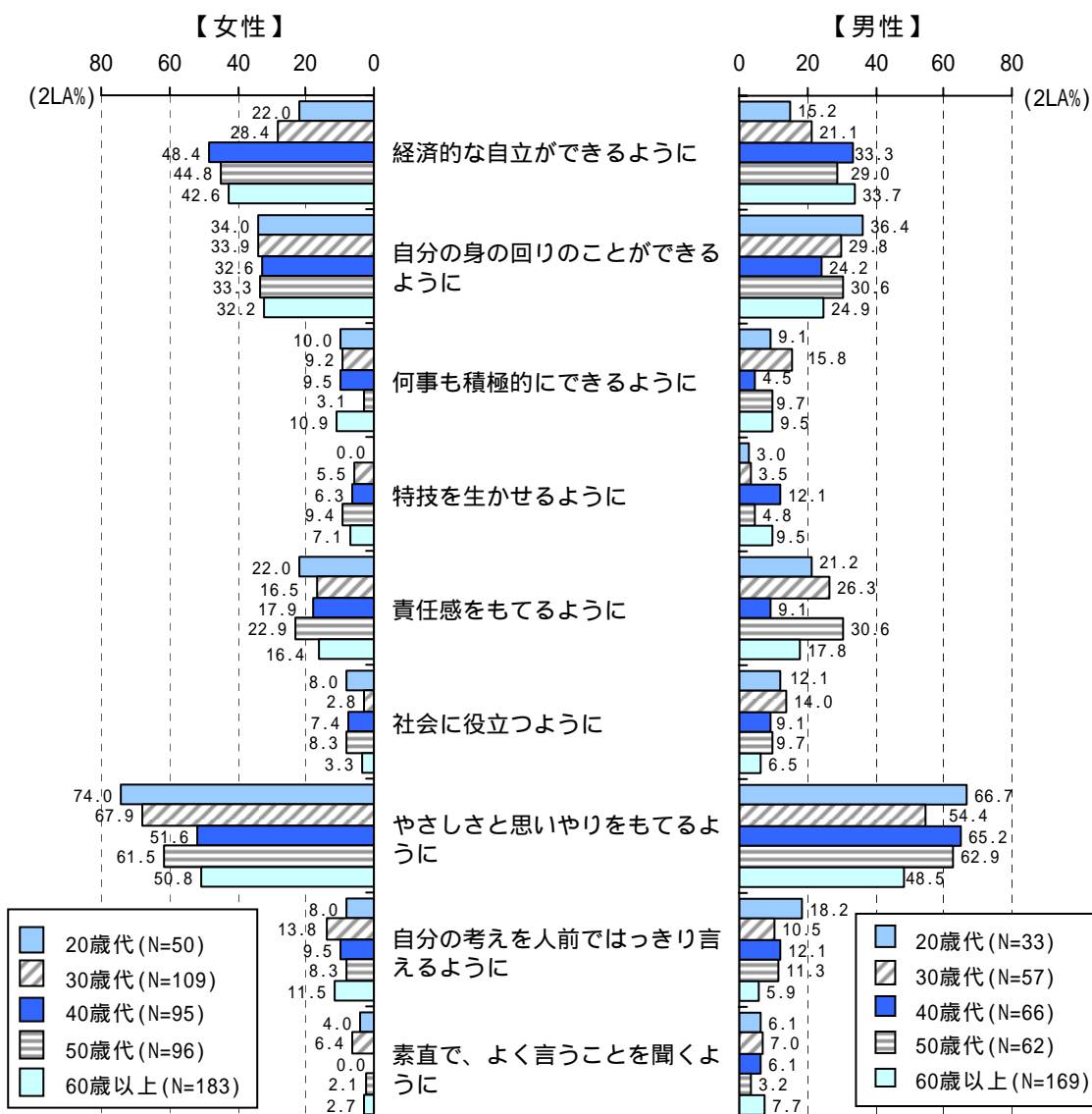


希望する子どもの育ち方は、女の子の場合、は男女ともに「やさしさと思いやりをもてるように」が最も高く、女性で58.5%、男性で55.9%となっています。次いで、「経済的な自立ができるように」が女性で39.2%、男性で29.6%、「自分の身の回りのことができるように」が女性で33.0%、男性で27.6%となっています。

男の子の場合は、男女ともに「経済的な自立ができるように」が最も高く、女性で62.1%、男性で54.6%となっています。次いで、「責任感をもてるように」が女性で35.8%、男性で36.6%、「やさしさと思いやりをもてるように」が女性で31.3%、男性で25.5%となっています。(図3 - 1)

【図 3-1-1 年代別 希望する子ども（女の子）の育ち方】

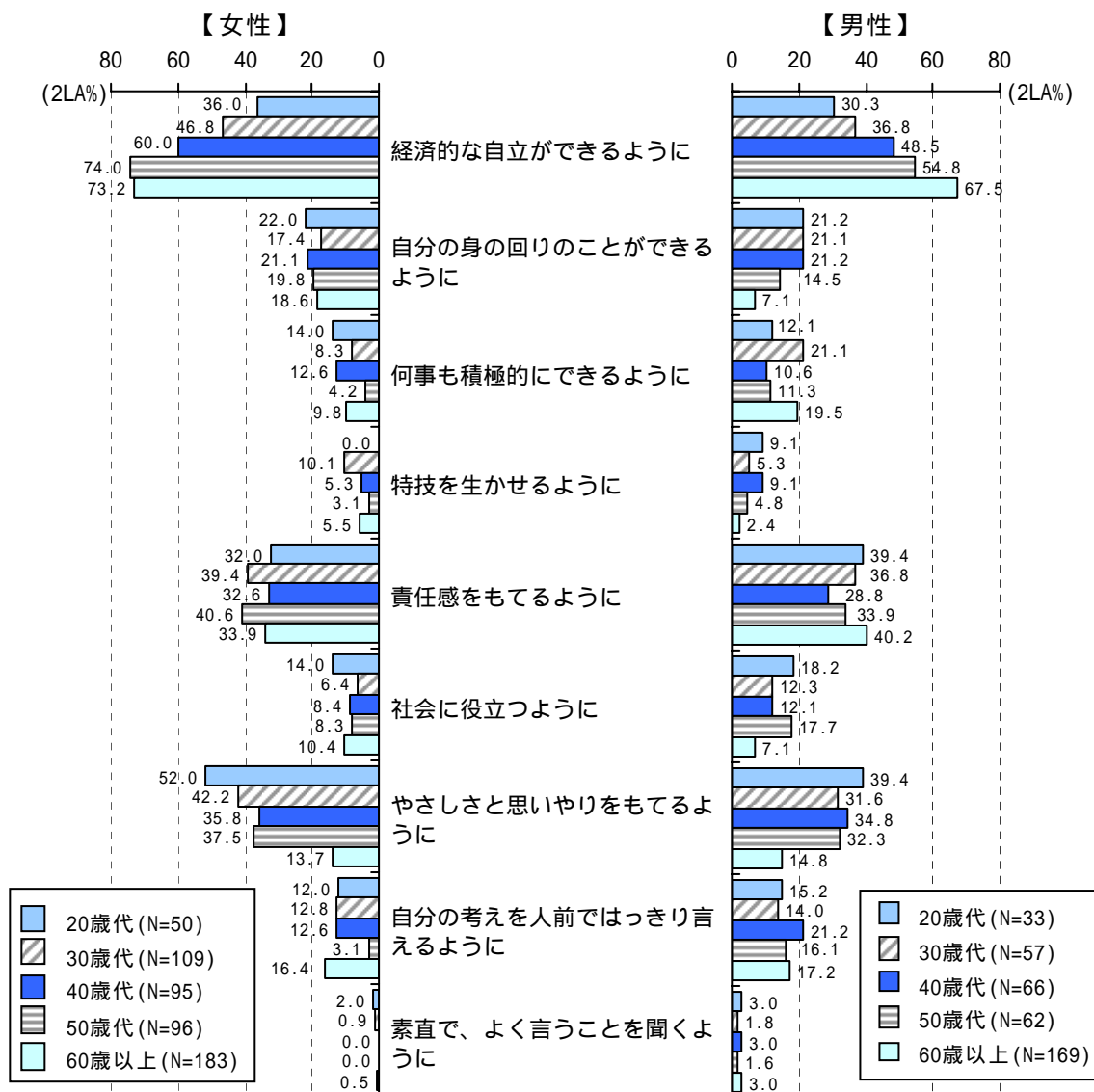
< 女の子 >



女の子の場合は、「やさしさと思いやりをもてるように」が男女とも20歳代で最も高くなっています。「経済的な自立ができるように」は男女とも40歳代が高く、30歳代以下の年代では低くなっています。「責任感をもてるように」では男女とも50歳代で最も高くなっていますが、男性は40歳代で9.1%と低く、30歳代で26.3%と高くなっています。若年層では比較的女の子らしいやさしさをもてる育ち方を望むのに対し、高年齢層では女の子にも自立を求める傾向がみられます。(図 3-1-1)

【図 3-1-1 年代別 希望する子ども（男の子）の育ち方】

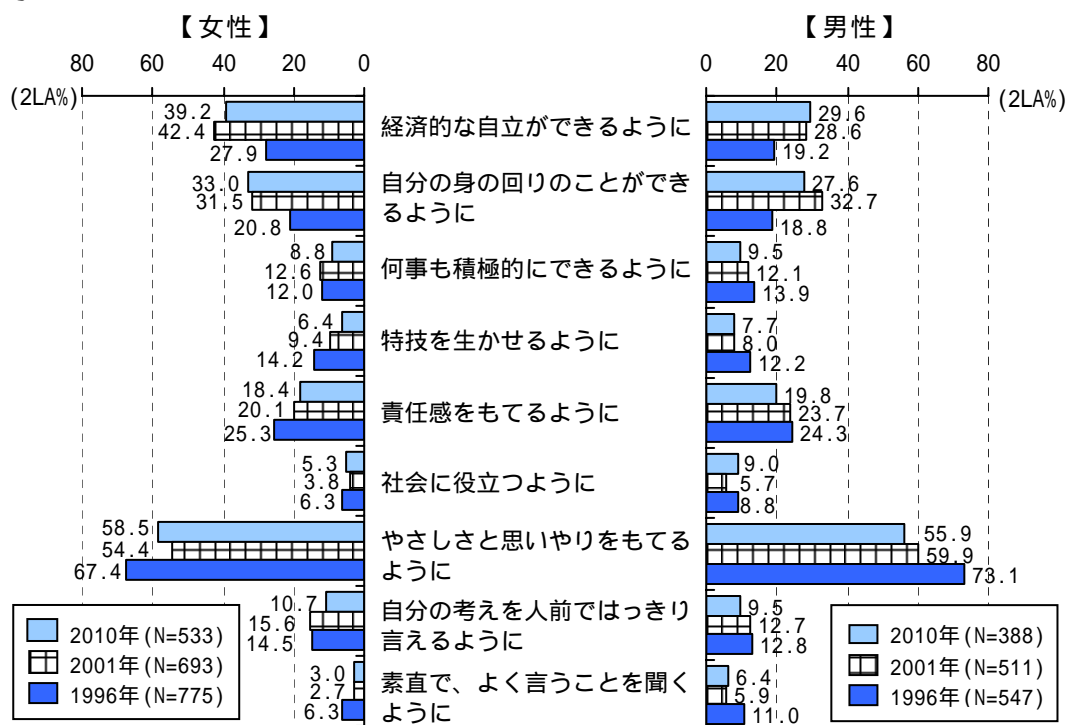
< 男の子 >



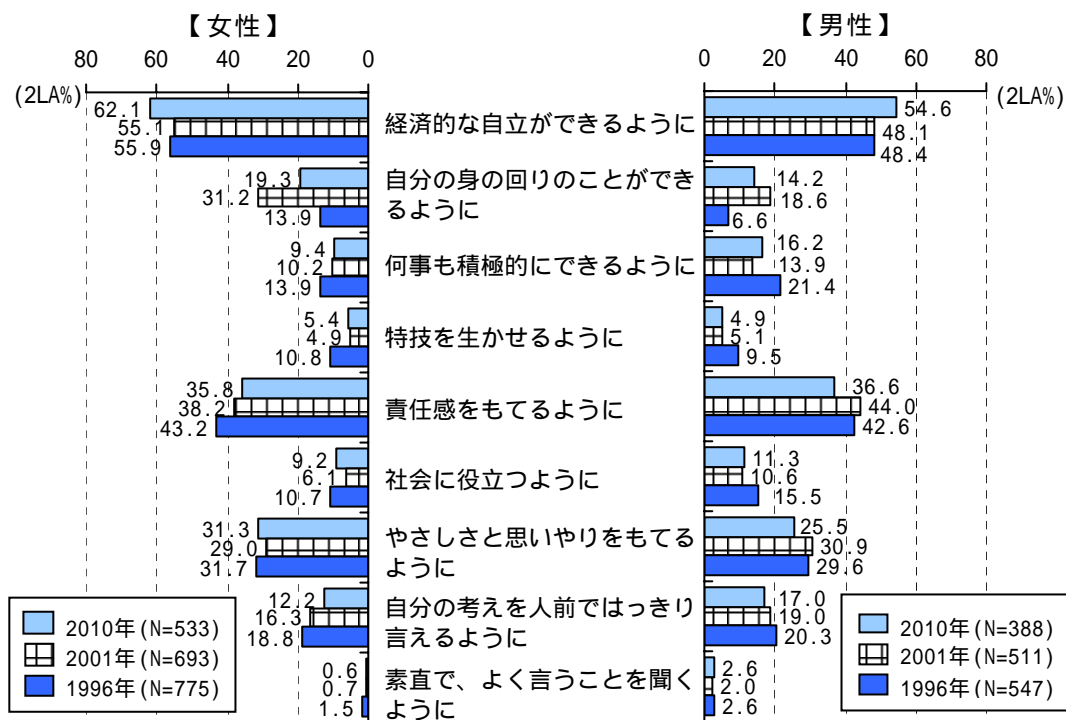
男の子の場合は、「経済的な自立ができるように」が男女とも高年齢層ほど割合は高く、女性では50歳代、60歳以上で7割を占め、男性では60歳以上で67.5%と最も高くなっています。「やさしさと思いやりをもてるように」は若年層ほど割合が高く、男女とも20歳代で最も高くなっています。「自分の身の回りのことができるように」では女性は20歳代、40歳代で高くなっていますが、30歳代では低くなっています。男性は20歳代から40歳代の年代と比べ、50歳以上の年代で低くなっています。高年齢層では比較的男の子らしく自立できる育ち方を望むのに対し、若年層では男の子に自立よりもやさしさと思いやりを望む傾向がみられます。(図 3-1-1)

【図 3-1-2 前回比較 希望する子どもの育ち方】

<女の子>



<男の子>

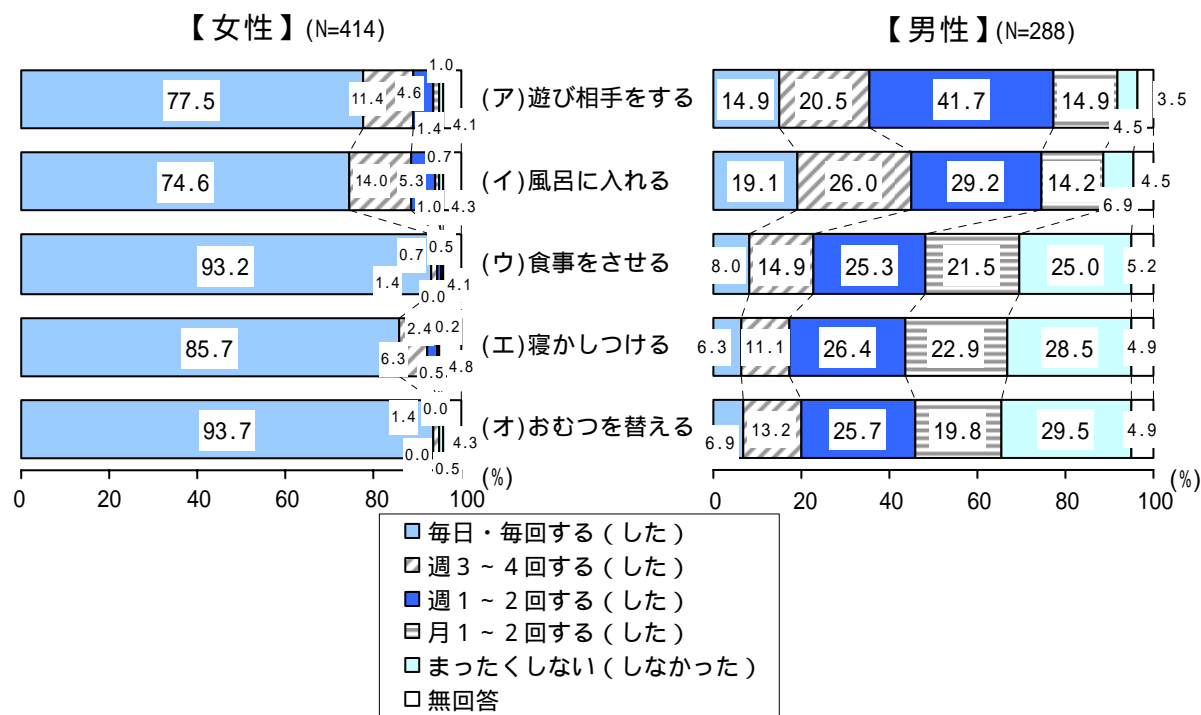


前回調査と比べると、女の子の場合は、「やさしさと思いやりをもてるように」は女性では増加していますが、男性では減少しています。逆に「経済的な自立ができるように」は女性で減少し、男性では増加しています。男の子の場合は、「経済的な自立ができるように」は男女とも増加しています。逆に「責任感をもてるように」は男女とも減少し、「自分の身の回りのことができるように」では女性で大きく減少しています。(図 3-1-2)

《子どものおられる方におたずねします。すでに成長されていても小さい頃のこととしてお答えください。》

問8 あなたは、子どもの世話について次の(ア)～(オ)のようなことをされていますか。
(されていきましたか。)(は各項目に1つ)

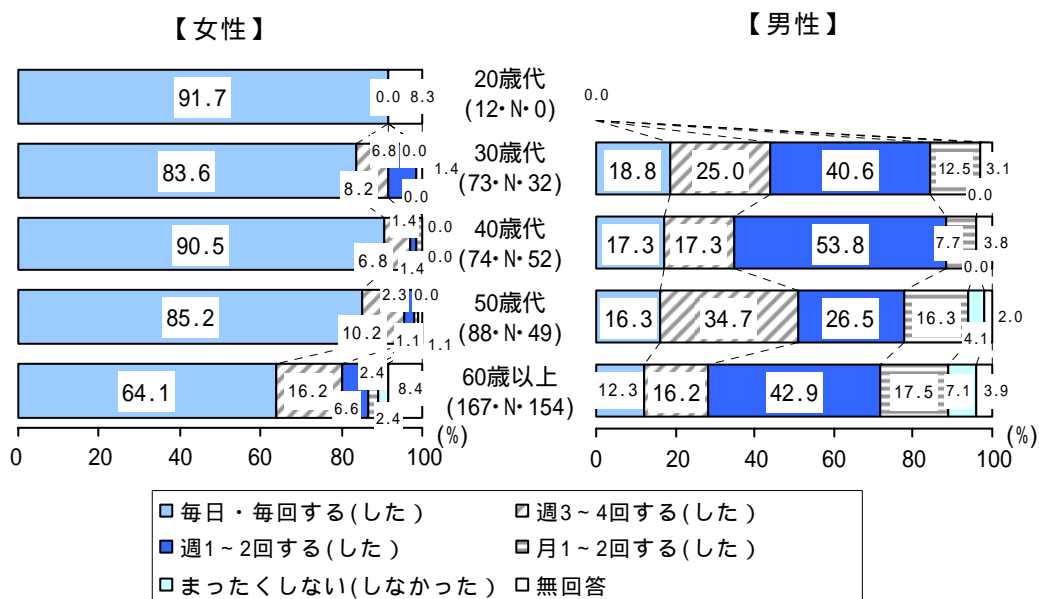
【図3 - 2 子どもの世話をする頻度】



子どもの世話をする頻度は、女性は「毎日・毎回する(した)」が「(ウ)食事をさせる」、「(オ)おむつを替える」で9割以上を占めています。男性は「毎日・毎回する(した)」は「(イ)風呂に入れる」で19.1%と最も高く、「まったくしない(しなかった)」は「(ウ)食事をさせる」、「(エ)寝かしつける」、「(オ)おむつを替える」で3割弱となっています。
(図3 - 2)

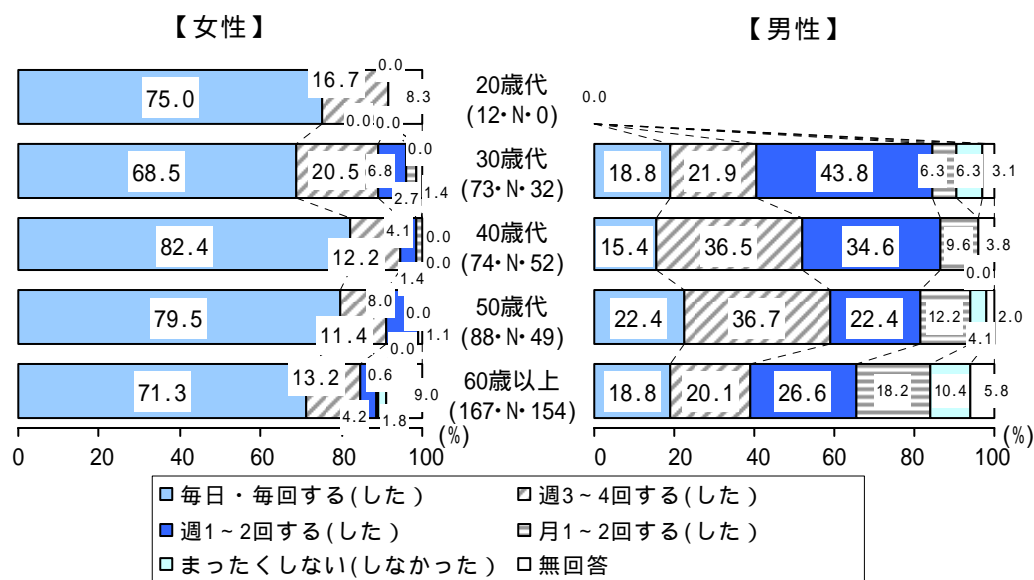
【図 3-2-1 年代別 子どもの世話をする頻度】

(ア) 遊び相手をする



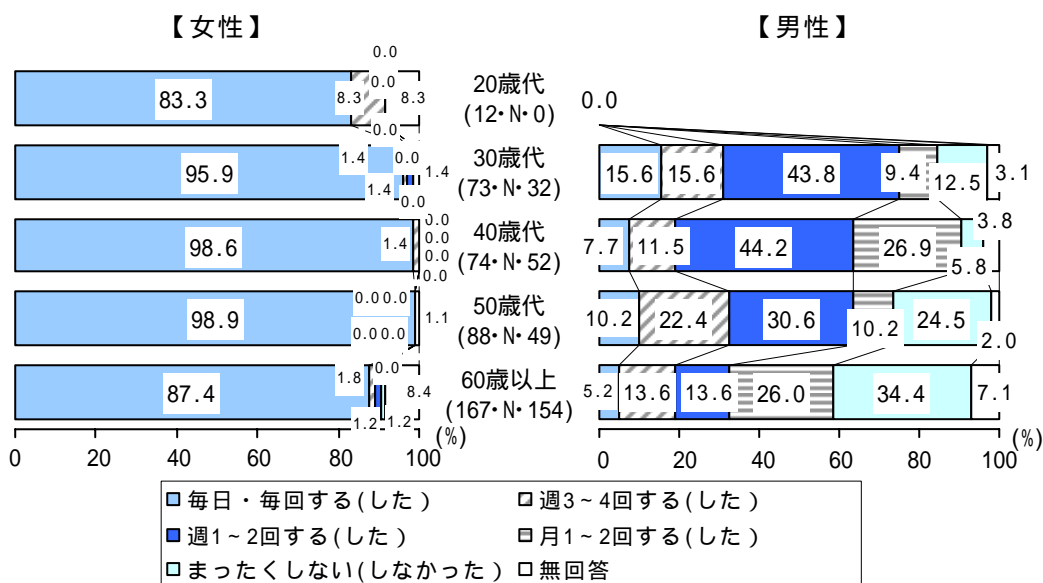
「遊び相手をする」については、女性は「毎日・毎回する(した)」が60歳以上を除く年代で8割以上を占めています。男性は40歳代では「週1~2回する(した)」が53.8%と半数を占め、50歳代では「週3~4回する(した)」が34.7%と高くなっています。

(イ) 風呂に入れる



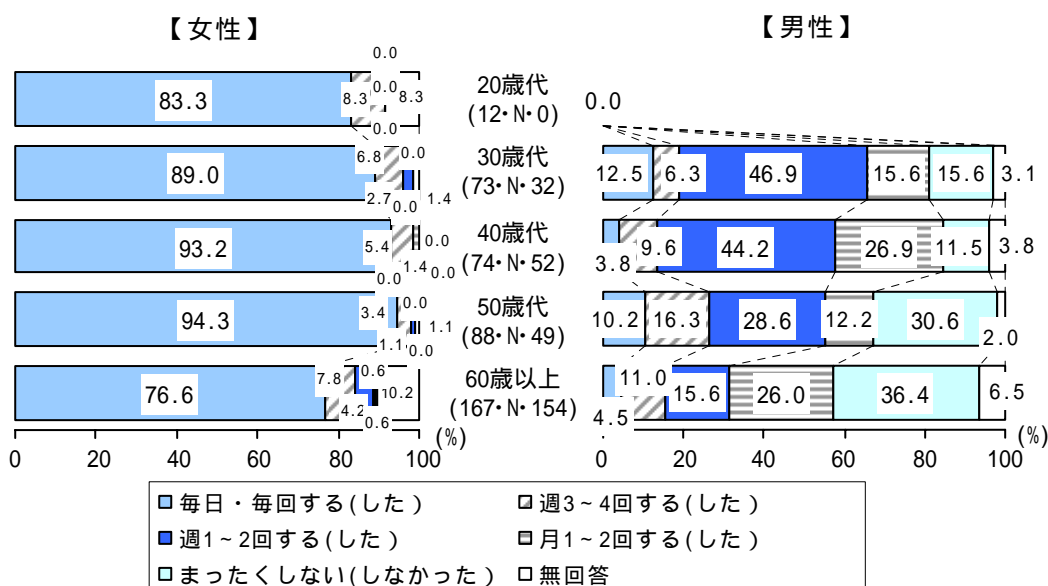
「風呂に入れる」については、女性は「毎日・毎回する(した)」が30歳代を除く年代で7割以上を占めています。男性は30歳代では「週1~2回する(した)」が43.8%と最も高く、50歳代では「週3~4回する(した)」が36.7%と最も高くなっています。

(ウ) 食事をさせる



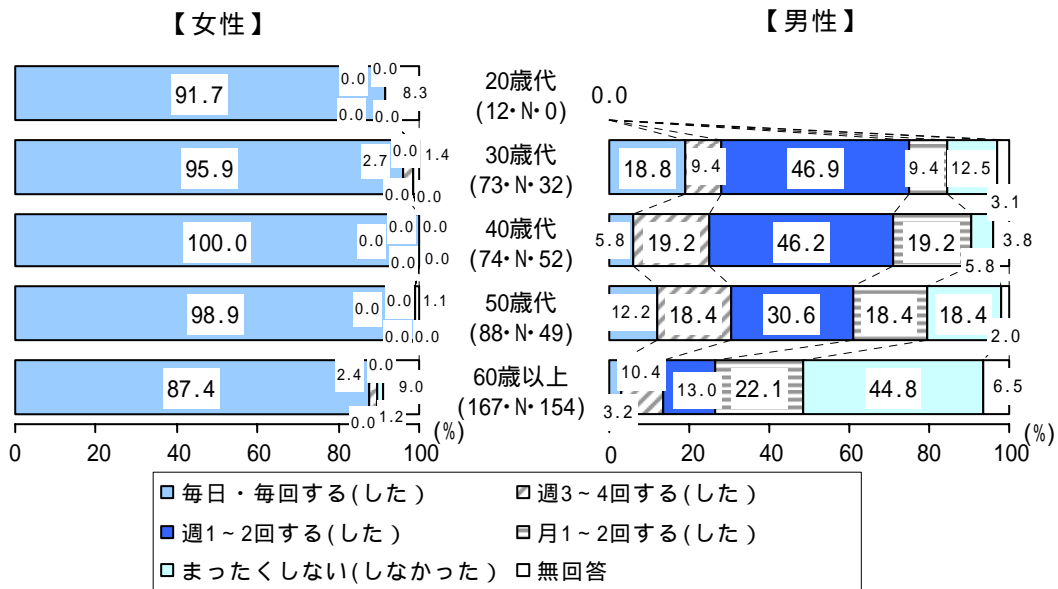
「食事をさせる」については、女性は「毎日・毎回する(した)」が30歳代から50歳代で9割以上を占めています。男性は「毎日・毎回する(した)」は30歳代で15.6%と高くなっていますが、「まったくしない(しなかった)」は60歳以上で34.4%と高く、世代間の差がみられます。

(エ) 寝かしつける



「寝かしつける」については、女性は「毎日・毎回する(した)」が40歳代、50歳代で9割以上を占めています。男性は「毎日・毎回する(した)」は30歳代で12.5%と高くなっていますが、「まったくしない(しなかった)」は60歳以上で36.4%と高く、世代間の差がみられます。

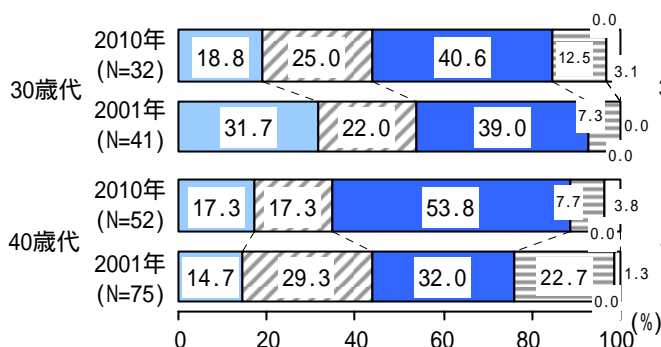
(オ) おむつを替える



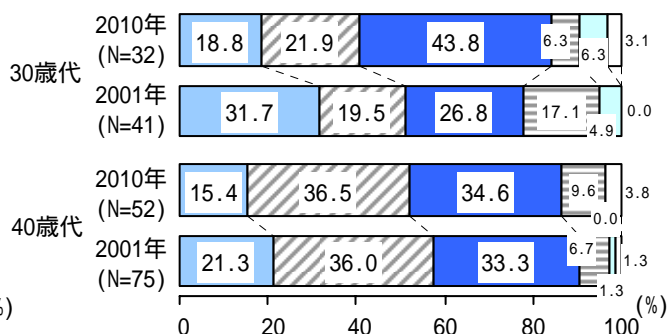
「おむつを替える」については、女性は「毎日・毎回する(した)」が60歳以上を除く年代で9割以上を占めています。男性は「毎日・毎回する(した)」は30歳代で18.8%と高くなっていますが、「まったくしない(しなかった)」は60歳以上で44.8%と高く、世代間の差がみられます。

【図 3-2-2 前回比較 子どもの世話をする頻度（男性 30 歳代、40 歳代）】

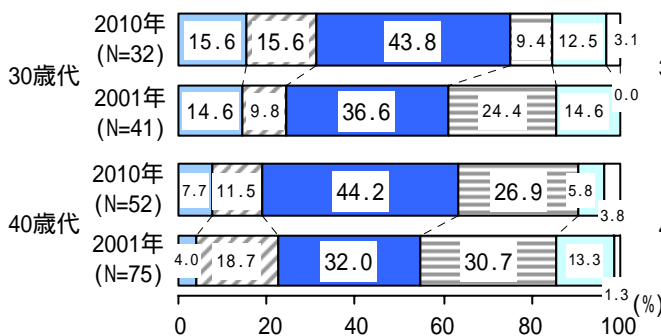
(ア) 遊び相手をする



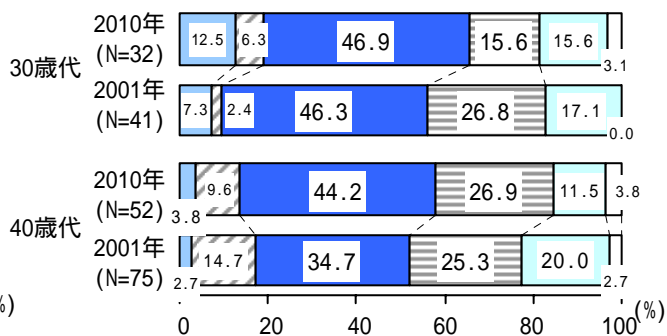
(イ) 風呂に入れる



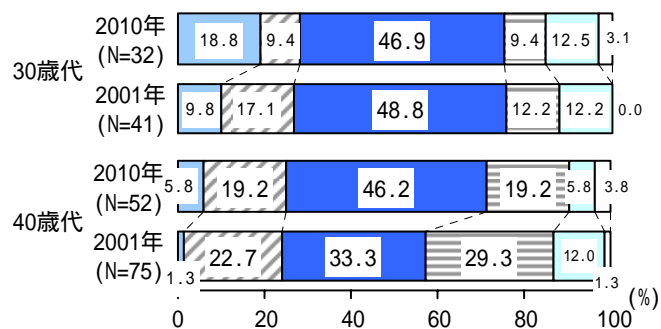
(ウ) 食事をさせる



(エ) 寝かしつける



(オ) おむつを替える

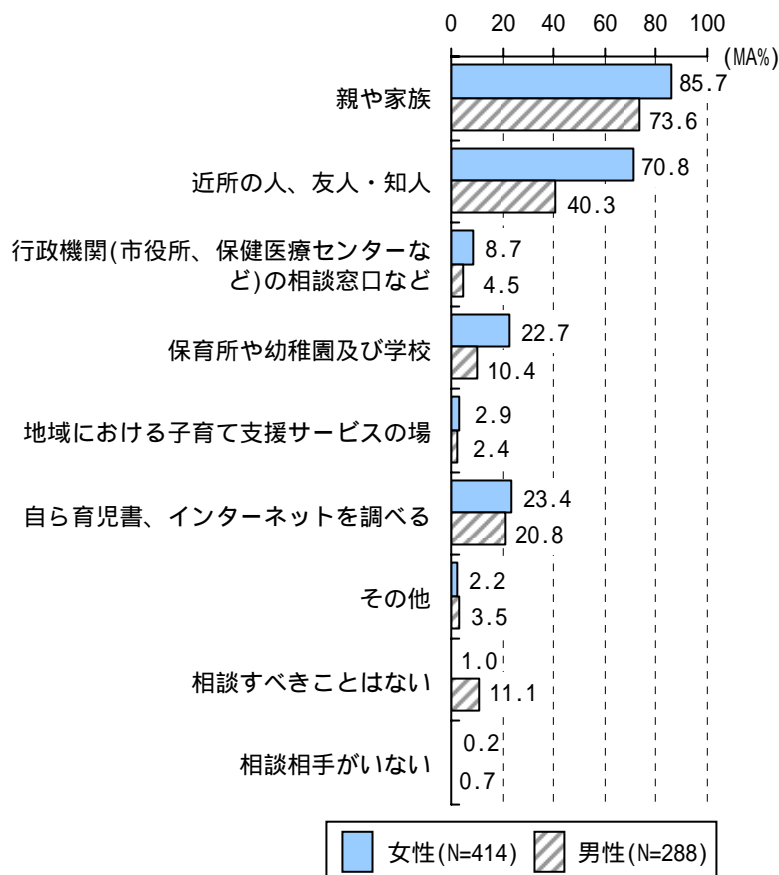


毎日・毎回する(した)
 週3~4回する(した)
 週1~2回する(した)
 月1~2回する(した)
 まったくしない(しなかった)
 無回答

男性の30歳代、40歳代に限定して前回の調査と比べると、「(ウ) 食事をさせる」、「(エ) 寝かしつける」、「(オ) おむつを替える」では「毎日・毎回する(した)」が増加し、「まったくしない(しなかった)」は減少し、頻度は高くなっています。「(ア) 遊び相手をする」、「(イ) 風呂に入れる」では「毎日・毎回する(した)」が特に30歳代で減少しています。(図 3-2-2)

問9 あなたは子育てについて、誰に相談していますか。(はいいくつでも)

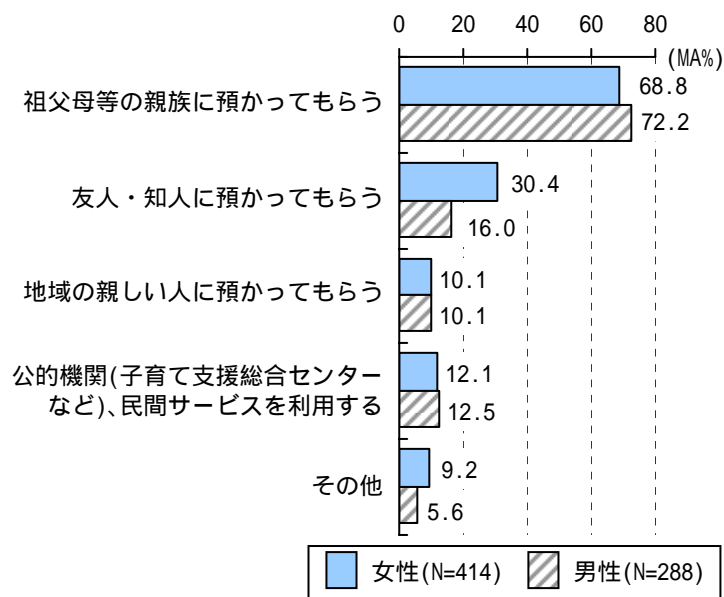
【図3 - 3 子育てについての相談相手】



子育てについての相談相手は、男女とも「親や家族」が最も高く、女性で 85.7%、男性で 73.6%となっています。次いで、「近所の人、友人・知人」が女性で 70.8%、男性で 40.3%、「自ら育児書、インターネットを調べる」が女性で 23.4%、男性で 20.8%という順になっています。「近所の人、友人・知人」では女性が 70.8%、男性が 40.3%と男女差が大きくなっています。(図3 - 3)

問 10 日頃、子どもを預けたい時、どうしていますか。(はいいくつでも)

【図 3 - 4 日頃の子どもの預け先】



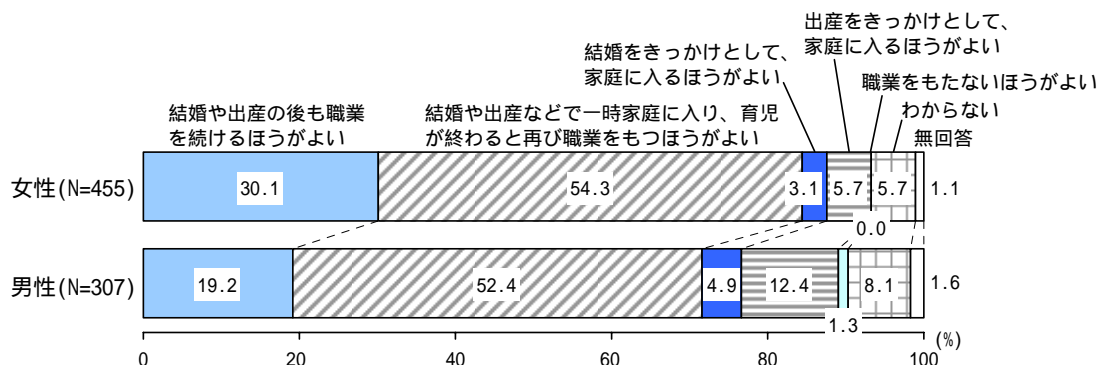
日頃の子どもの預け先は、男女ともに「祖父母等の親族に預かってもらう」が最も高く、女性で68.8%、男性で72.2%となっています。次いで、「友人・知人に預かってもらう」が女性で30.4%、男性で16.0%という順になっています。「友人・知人に預かってもらう」では女性が30.4%、男性が16.0%と男女差が大きくなっています。(図3-4)

4. 仕事について

本章に限り、70歳以上の回答を集計から除いています(就労人口に該当しないため)

問11 一般的に、女性が職業をもつことについて、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。(は1つ)

【図4-1 女性が職業をもつことについての考え】



女性が職業をもつことについての考えは、「結婚や出産などで一時家庭に入り、育児が終わると再び職業をもつほうがよい」が女性で54.3%、男性で52.4%と男女とも半数以上を占めています。「結婚や出産の後も職業を続けるほうがよい」は女性の方が高く、結婚、出産後も職業をもつべきとの意見は女性の方が高くなっています。(図4-1)

【参考 国・大阪府との比較 女性が職業をもつことについての考え】

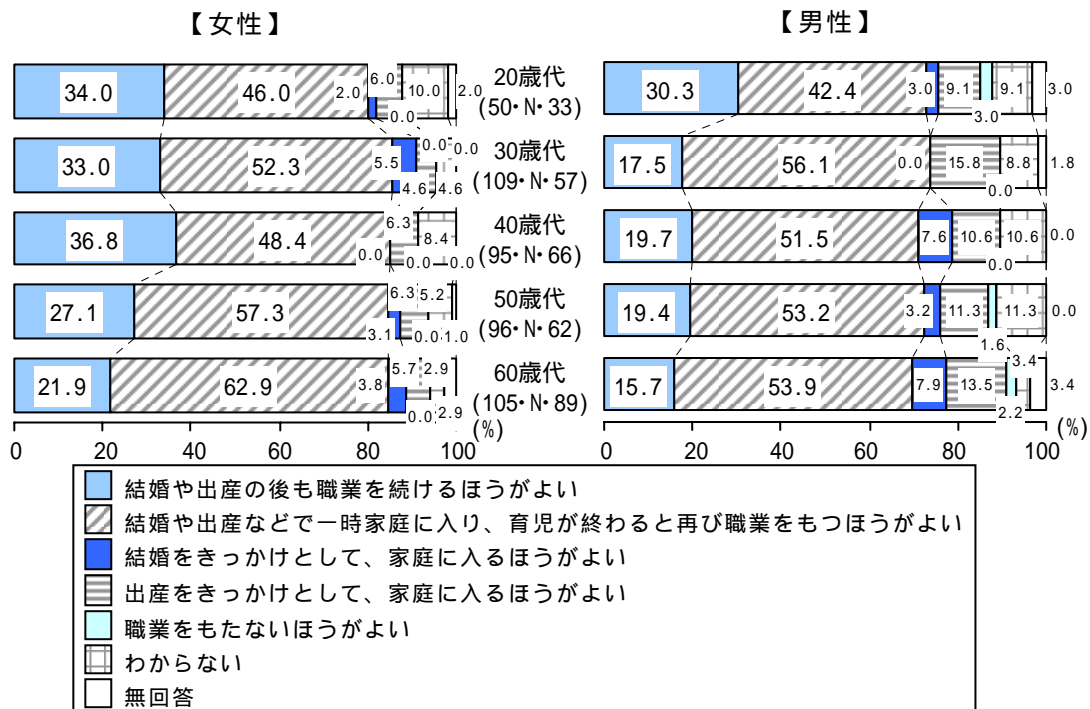
国	(%)	
	女性 N=1,730	男性 N=1,510
子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	47.5	44.0
子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	34.2	27.9
結婚するまでは職業をもつ方がよい	4.9	6.2
子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	8.0	13.8
女性は職業をもたない方がよい	3.2	4.0
その他	0.8	2.0
わからない	1.4	2.1

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(2009年)

大阪府	(%)	
	女性 N=382	男性 N=298
結婚や出産にかかわらず続ける方がよい	26.7	21.5
子育て期は中断しその後はフルタイムで続ける方がよい	15.2	14.1
子育て期は中断しその後はパートタイムで続ける方がよい	30.9	26.8
結婚まで仕事をし結婚後は家事に専念がよい	5.5	8.7
出産まで仕事をし産後は家事や子育てに専念がよい	12.6	19.8
仕事には就かない方がよい	0.0	1.7
その他	5.8	3.4
わからない	2.1	3.7
無回答	1.3	0.3

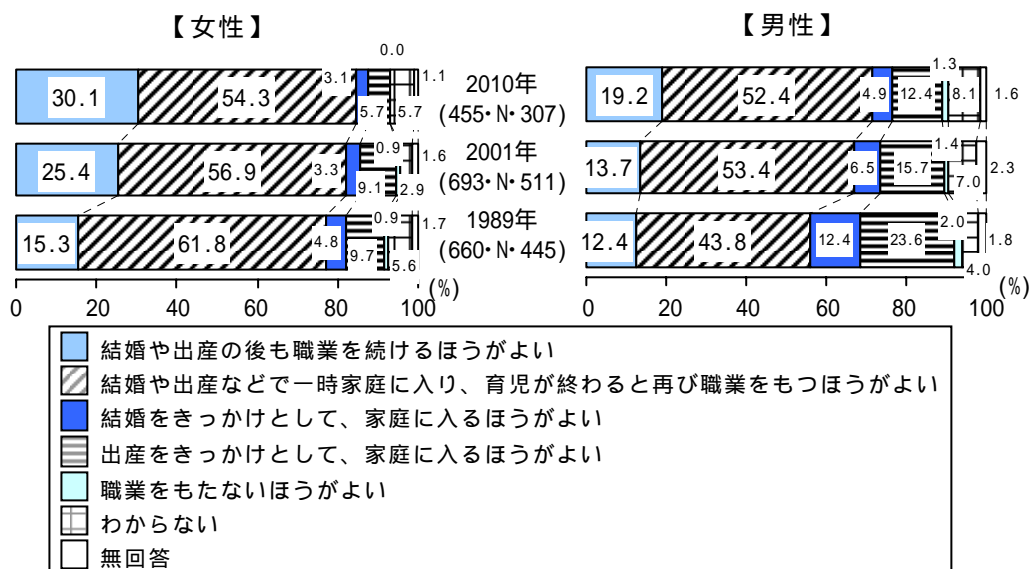
大阪府「男女共同参画にかかるとる府民意識調査」(2009年)

【図 4-1-1 年代別 女性が職業をもつことについての考え】



年代別にみると、「結婚や出産の後も職業を続けるほうがよい」、「結婚や出産などで一時家庭に入り、育児が終わると再び職業をもつほうがよい」は男女とも若年層で高く、「結婚をきっかけとして、家庭に入るほうがよい」、「出産をきっかけとして、家庭に入るほうがよい」は男女ともに高年齢層で高くなっています。(図 4-1-1)

【図 4-1-2 前回比較 女性が職業をもつことについての考え】

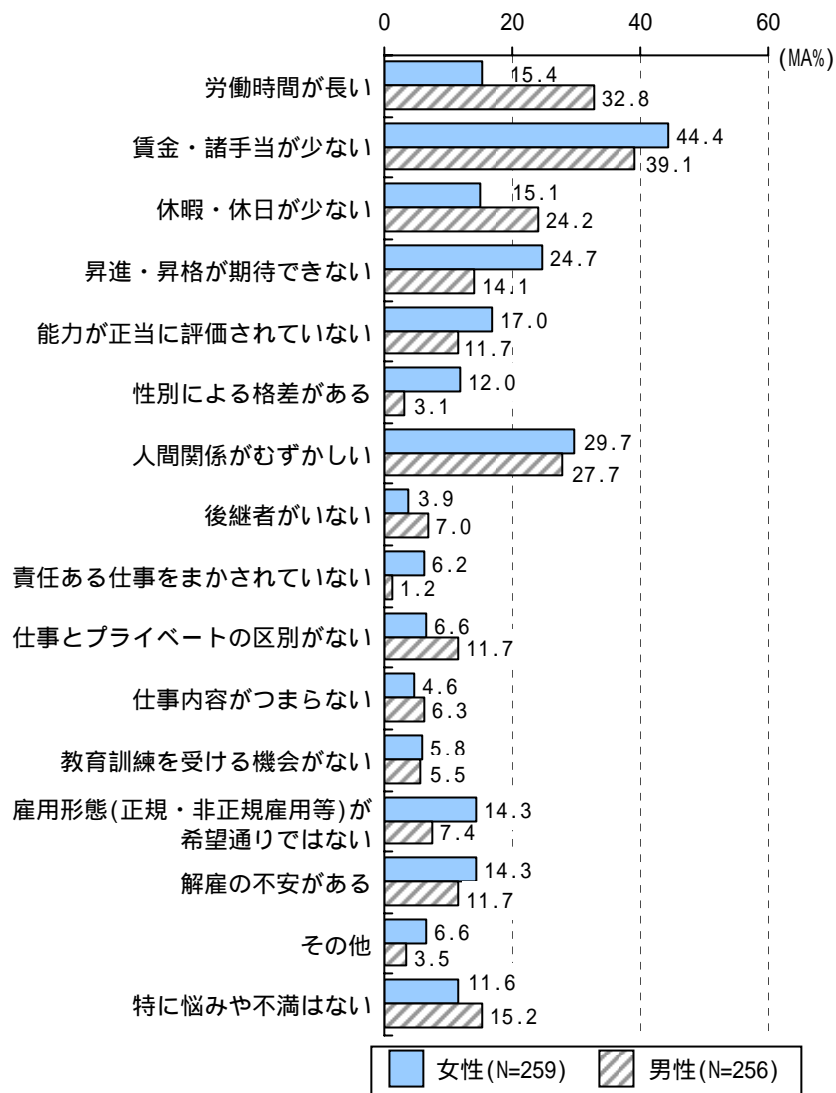


前回調査と比べると、「結婚や出産の後も職業を続けるほうがよい」は男女とも前回調査よりも増加し、「結婚や出産などで一時家庭に入り、育児が終わると再び職業をもつほうがよい」、「出産をきっかけとして、家庭に入るほうがよい」はともに男女とも減少しています。女性が結婚や出産に関わらず仕事を持ち続けることを肯定する意見は女性だけでなく、男性でも増加傾向にあります。(図 4-1-2)

《現在働いておられる方におたずねします。》

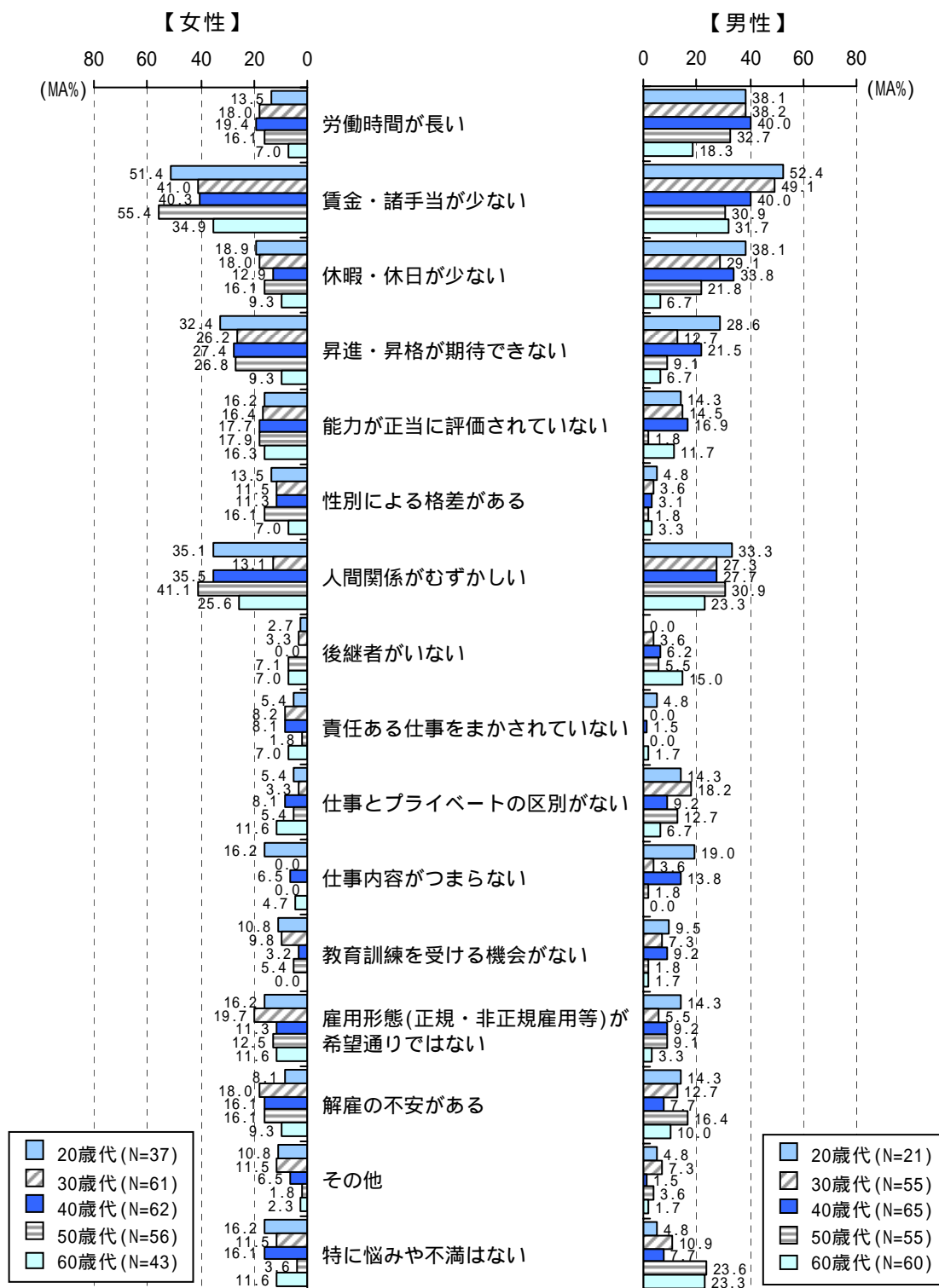
問12 あなたが働くうえで悩みや不満があるとしたら、それはどのようなことですか。(はいいくつでも)

【図4-2 働くうえでの悩み、不満】



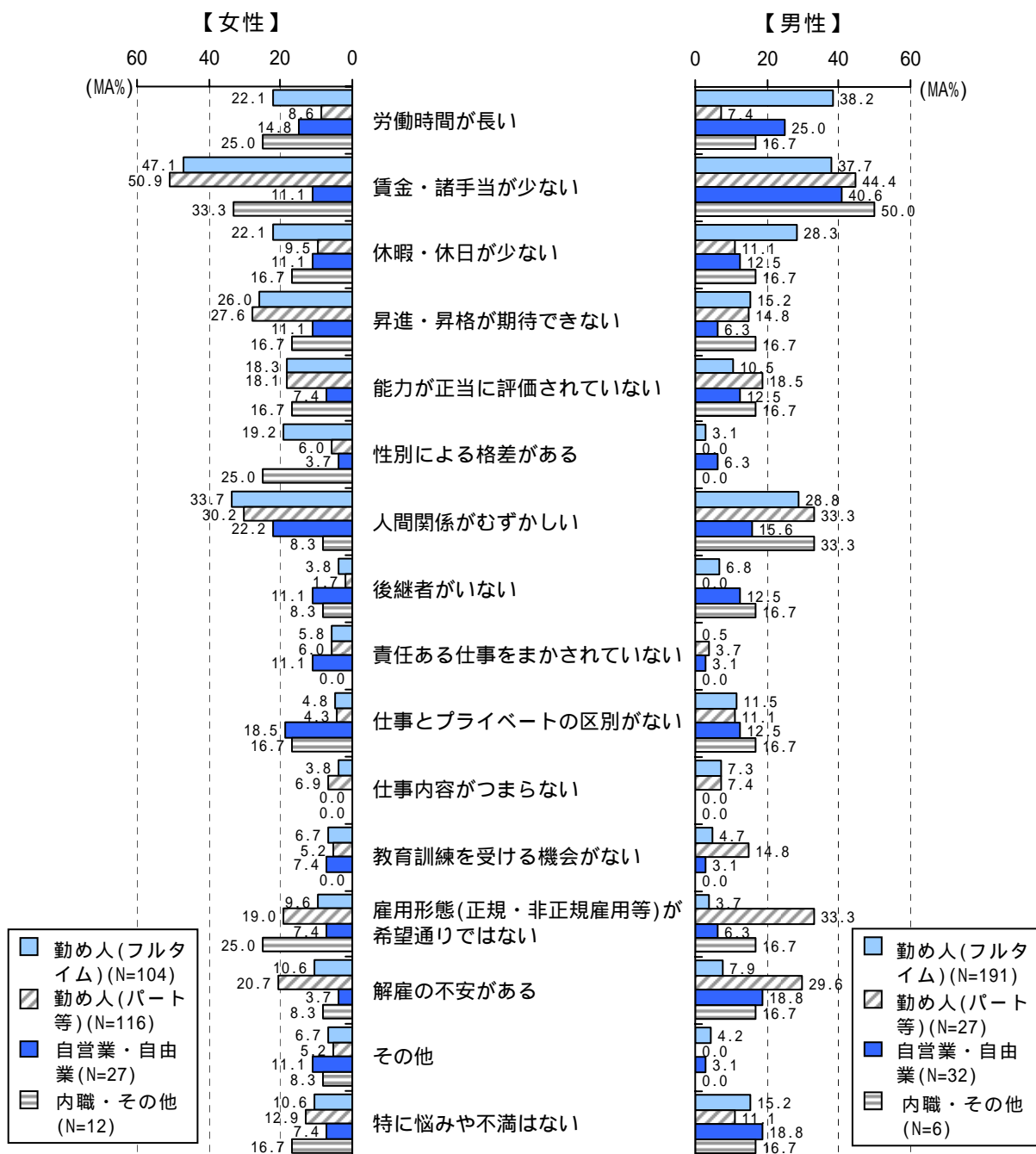
働くうえでの悩み、不満は、男女ともに「賃金・諸手当が少ない」が最も高く、女性で44.4%、男性で39.1%となっています。次いで、女性は「人間関係がむずかしい」が29.7%、男性は「労働時間が長い」が32.8%となっています。(図4-2)

【図 4-2-1 年代別 働くうえでの悩み、不満】



年代別にみると、「賃金・諸手当が少ない」は女性では50歳代が55.4%、20歳代で51.4%と高くなっています。「人間関係がむずかしい」では、女性は20歳代、40歳代、50歳代で3割以上と高くなっていますが、30歳代では13.1%と低くなっています。「休暇・休日が少ない」、「昇進・昇格が期待できない」は男性の若年層で高くなっていますが、30歳代では若干低くなっています。(図 4-2-1)

【図 4-2-2 職業別 働くうえでの悩み、不満】

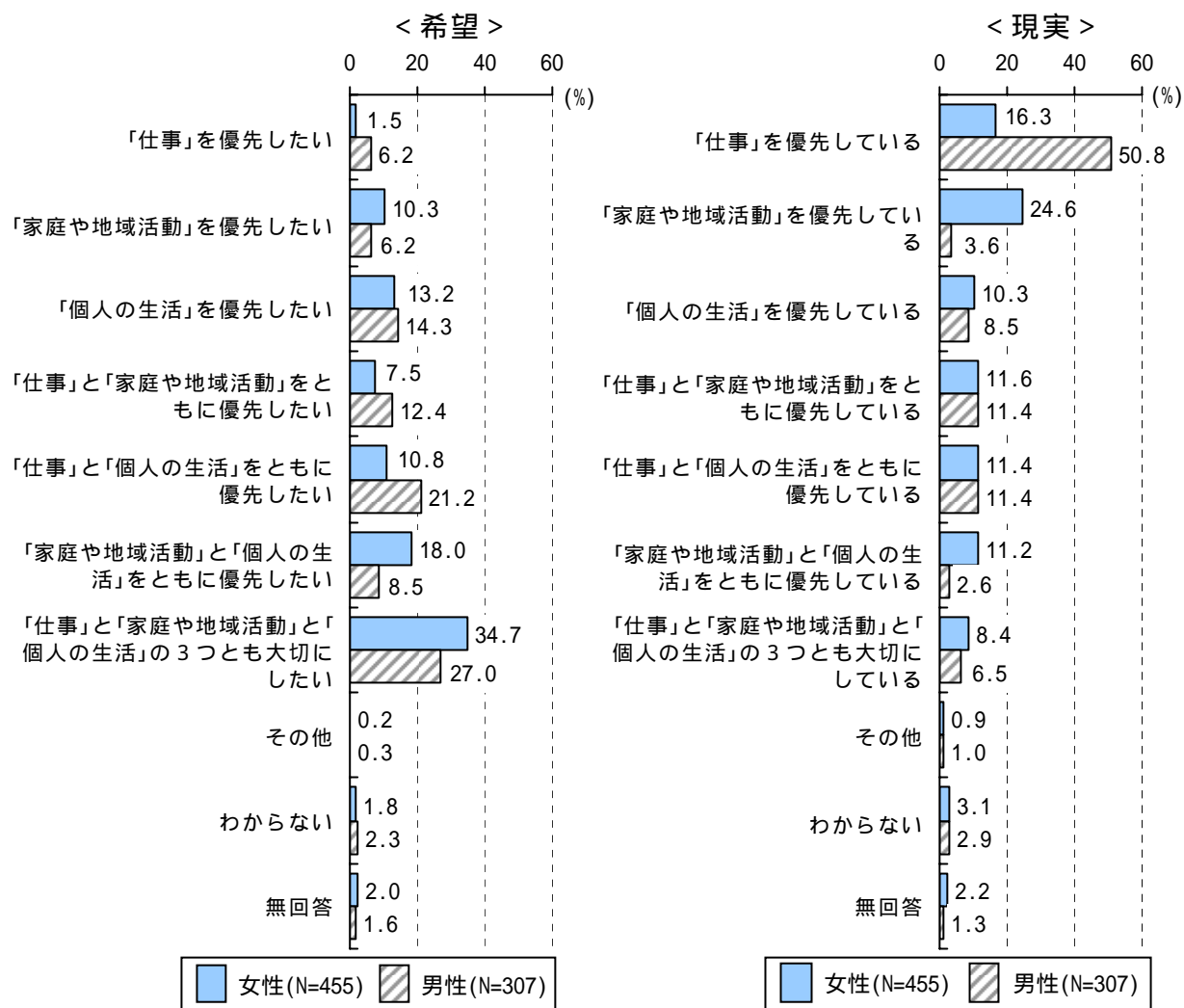


職業別にみると、「賃金・諸手当が少ない」は女性では「勤め人(フルタイム)」、「勤め人(パート等)」ともに半数前後と高くなっています。「労働時間が長い」では男性の「勤め人(フルタイム)」で38.2%と「勤め人(パート等)」の7.4%を大きく上回っていますが、「雇用形態(正規・非正規雇用等)が希望通りではない」では「勤め人(パート等)」が33.3%と「勤め人(フルタイム)」を上回っています。「解雇の不安がある」は男女とも「勤め人(パート等)」で高くなっています。(図 4-2-2)

《全員におたずねします。》

問13 あなたは、生活の中で仕事、家庭や地域活動、個人の生活で何を優先しますか。あなたの希望と現実（現状）に最も近いものをそれぞれについてお答えください。（いずれもは1つ）

【図4-3 生活の中で優先したいこと、していること】



生活の中で優先したいことは男女とも「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたいが最も高く、女性で34.7%、男性で27.0%となっています。次いで、女性は「家庭や地域活動」と「個人の生活」ともに優先したいが18.0%、男性は「仕事」と「個人の生活」ともに優先したいが21.2%となっています。

生活の中で優先していることは、女性は「家庭や地域活動」を優先しているが24.6%と最も高く、男性は「仕事」を優先しているが50.8%と最も高くなっています。

(図4-3)

【参考 国・大阪府との比較 生活の中で優先したいこと】

国	(%)	
	女性 N=1,730	男性 N=1,510
「仕事」を優先したい	4.4	13.3
「家庭生活」を優先したい	34.1	22.5
「地域・個人の生活」を優先したい	2.1	2.3
「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい	29.7	33.0
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	2.5	4.8
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	9.0	6.4
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先したい	17.0	16.7
わからない	1.2	0.9

内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(2009年)

大阪府	(%)	
	女性 N=205	男性 N=231
「仕事」を優先したい	4.9	13.4
「家庭や地域活動」を優先したい	5.4	3.9
「個人の生活」を優先したい	13.2	13.0
「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先したい	8.8	14.7
「仕事」と「個人の生活」をともに優先したい	20.0	19.5
「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先したい	6.8	4.8
「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたい	31.2	25.5
その他	1.0	0.0
わからない	2.4	0.9

(「現在仕事をしている方」のみ)

大阪府「男女共同参画にかかる府民意識調査」(2009年)

【参考 国・大阪府との比較 生活の中で優先していること】

国	(%)	
	女性 N=1,730	男性 N=1,510
「仕事」を優先している	15.3	37.8
「家庭生活」を優先している	44.2	20.1
「地域・個人の生活」を優先している	2.9	4.6
「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	21.1	21.0
「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	2.3	5.1
「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	8.5	4.6
「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	4.2	5.1
わからない	1.5	1.7

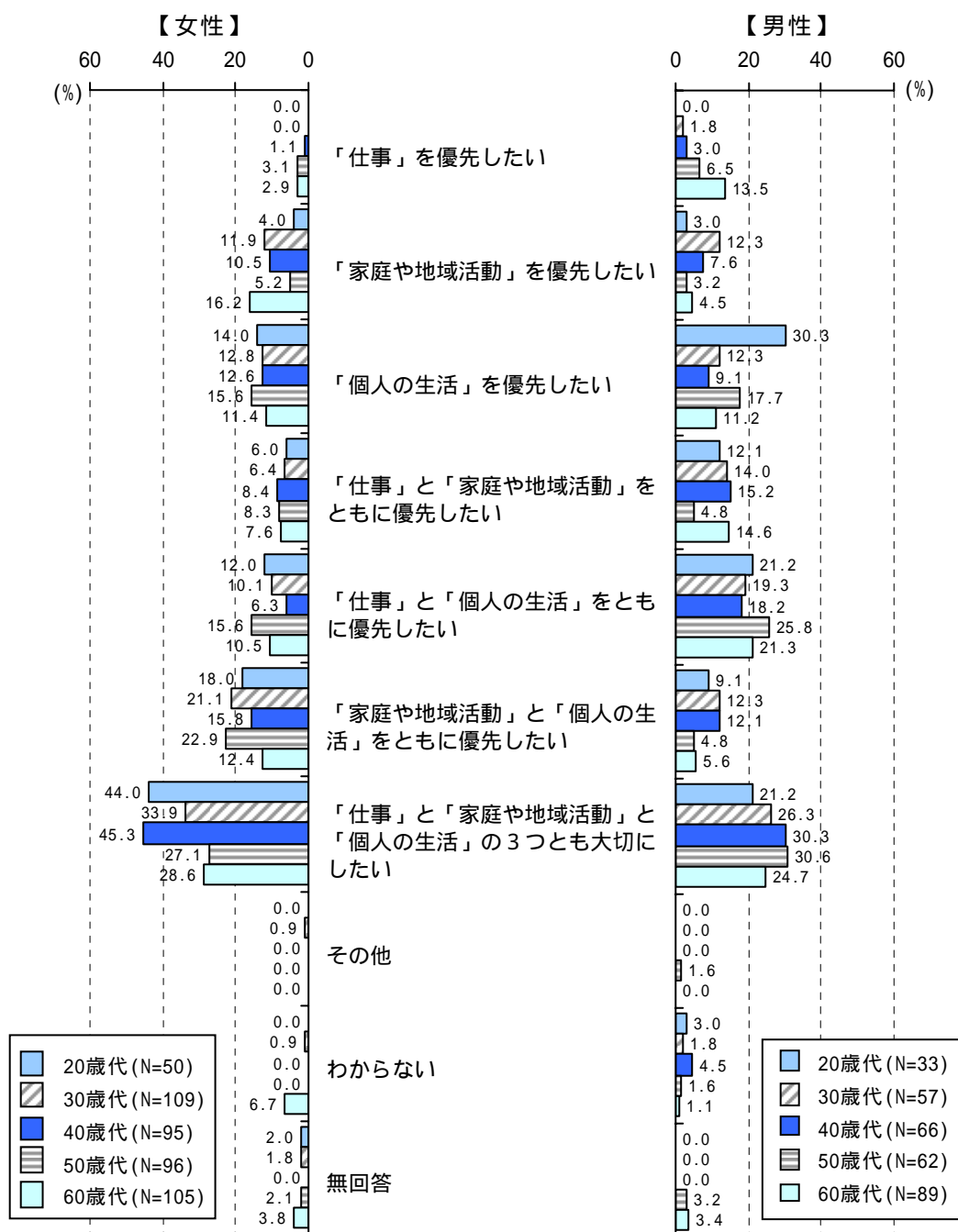
内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(2009年)

大阪府	(%)	
	女性 N=205	男性 N=231
「仕事」を優先している	28.8	55.0
「家庭や地域活動」を優先している	10.7	2.2
「個人の生活」を優先している	3.9	4.8
「仕事」と「家庭や地域活動」をともに優先している	13.2	13.0
「仕事」と「個人の生活」をともに優先している	21.0	10.8
「家庭や地域活動」と「個人の生活」をともに優先している	2.4	1.3
「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしている	12.2	6.5
その他	0.5	0.4
わからない	1.5	0.9

(「現在仕事をしている方」のみ)

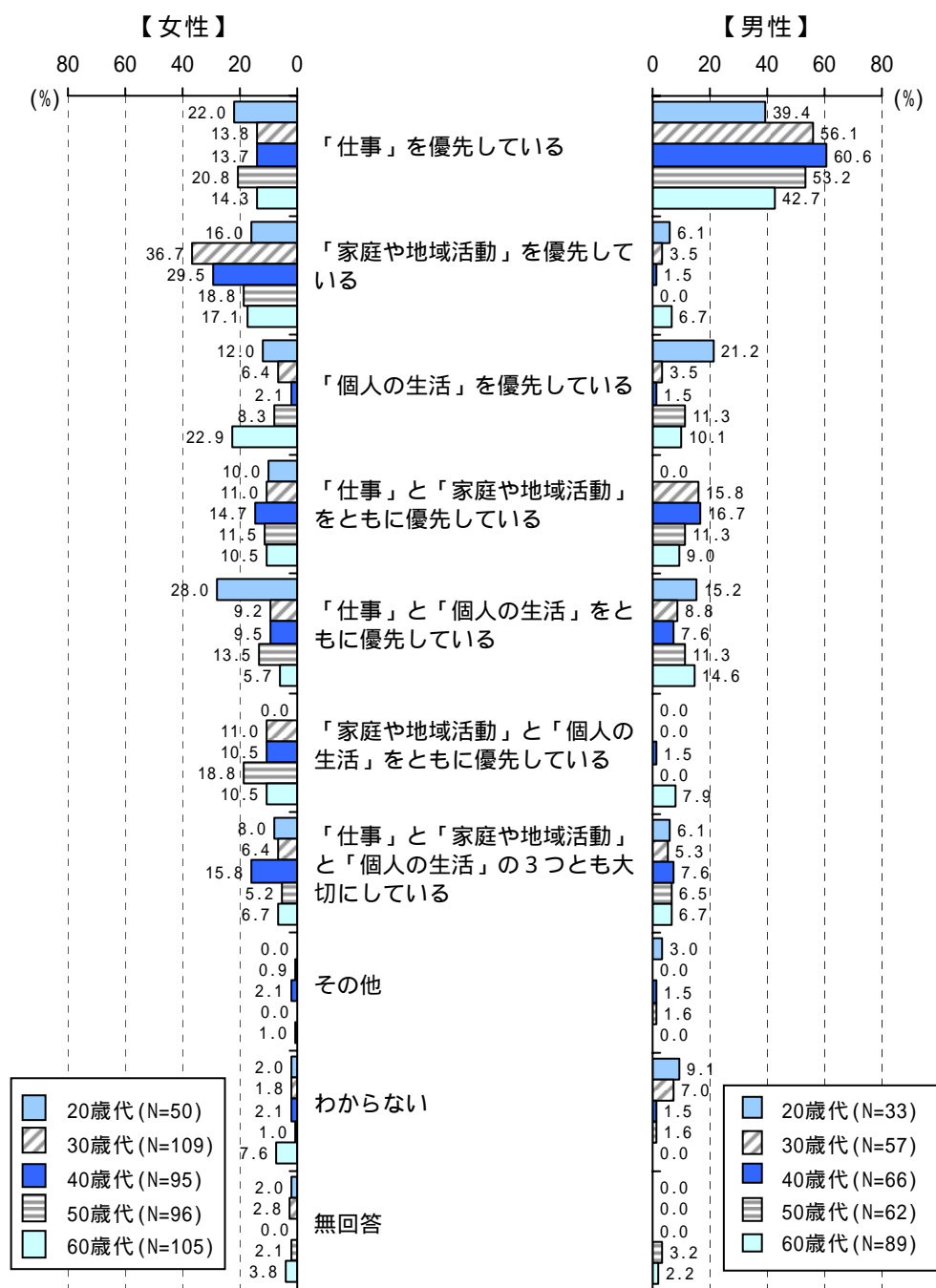
大阪府「男女共同参画にかかる府民意識調査」(2009年)

【図 4-3-1 年代別 生活の中で優先したいこと】



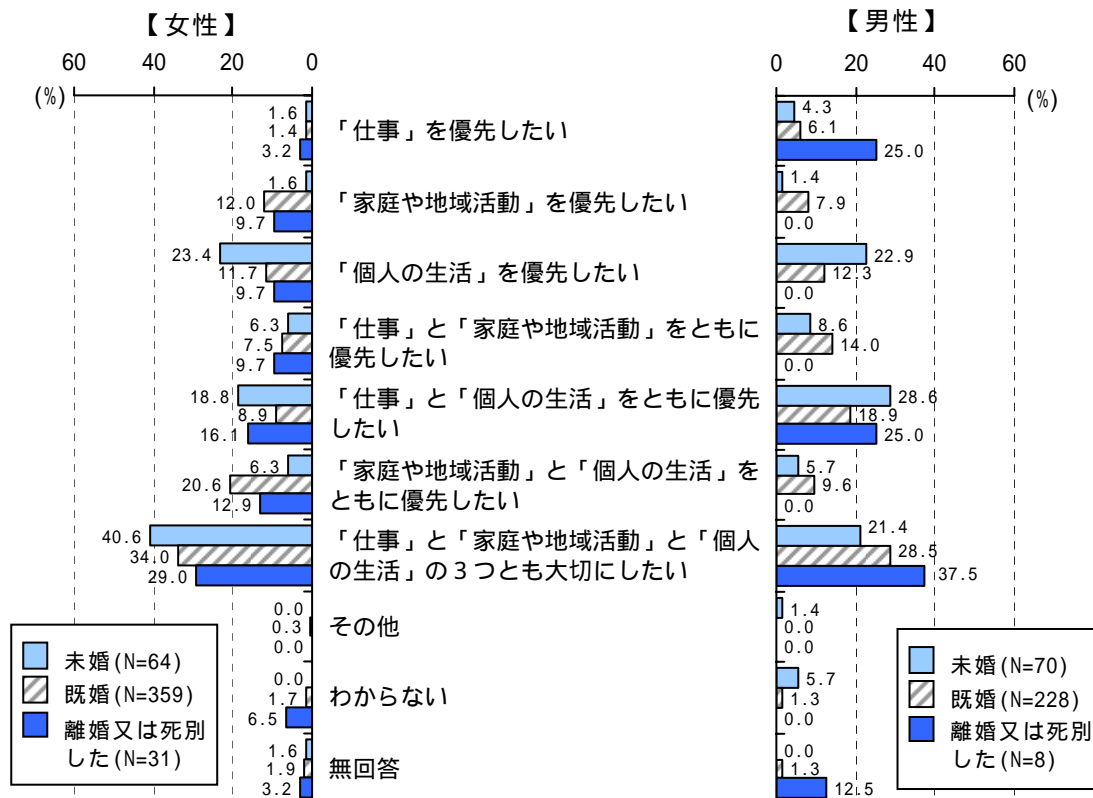
年代別にみると、「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたいは女性では40歳代で45.3%、20歳代で44.0%と高くなっていますが、30歳代では33.9%となっています。男性は40歳代、50歳代でともに3割台と中年層で高くなっています。「個人の生活」を優先したいは女性に年代間の大きな差はみられませんが、男性は20歳代で30.3%と高くなっています。(図 4-3-1)

【図 4-3-1 年代別 生活の中で優先していること】



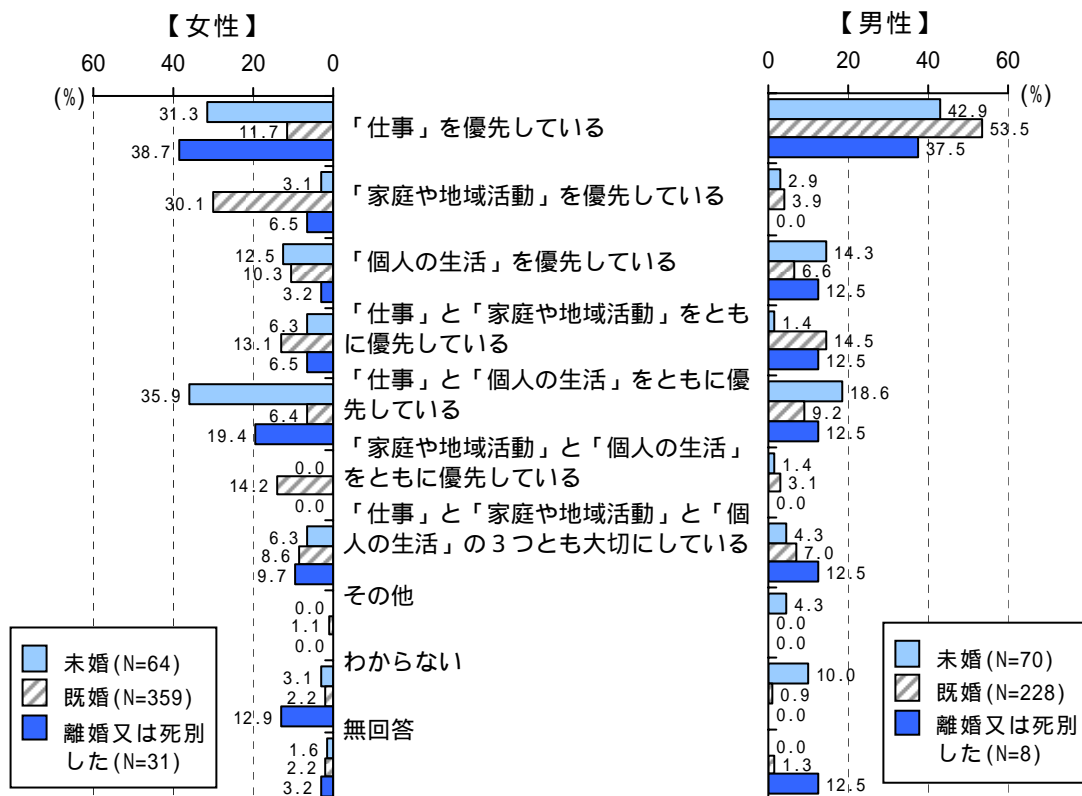
年代別にみると、「家庭や地域活動」を優先している」は女性では30歳代で36.7%と最も高くなっています。「仕事」を優先している」は男性では40歳代で60.6%と最も高くなっています。「個人の生活」を優先している」では女性は60歳代で最も高くなっていますが、男性は20歳代で最も高くなっています。(図 4-3-1)

【図 4-3-2 結婚有無別 生活の中で優先したいこと】



結婚の有無別にみると、「仕事」と「家庭や地域活動」と「個人の生活」の3つとも大切にしたいは女性では未婚者が40.6%と既婚者よりも高くなっていますが、男性では既婚者の方が28.5%と高くなっています。「個人の生活」を優先したいでは男女とも未婚者の方が高くなっています。(図 4-3-2)

【図 4-3-2 結婚有無別 生活の中で優先していること】

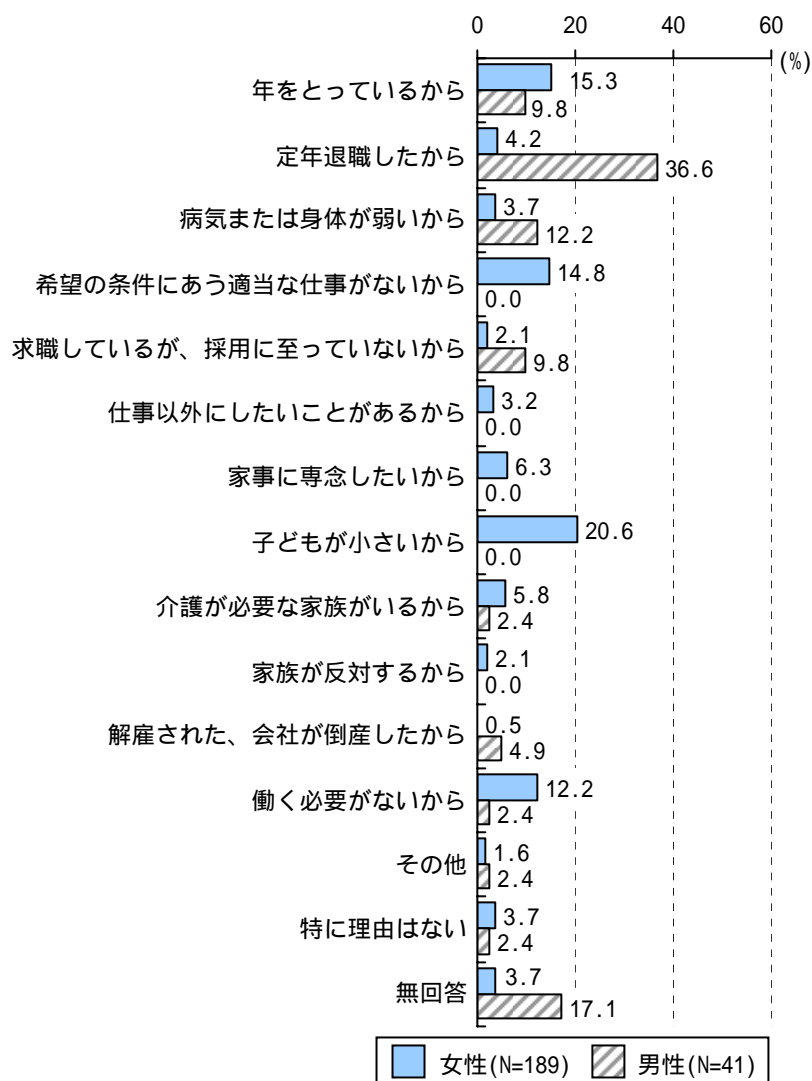


結婚の有無別にみると、「家庭や地域活動」を優先しているは女性では既婚者が30.1%と未婚者よりも高くなっています。逆に「仕事」と「個人の生活」をともに優先しているでは女性は未婚者で35.9%と既婚者よりも高くなっています。「仕事」を優先しているでは女性は未婚者で31.3%と高くなっていますが、男性は既婚者で53.5%と高くなっています。(図 4-3-2)

《「学生」以外で、現在働いておられない方におたずねします。》

問14 あなたが、働いておられない主な理由は何ですか。(は1つ)

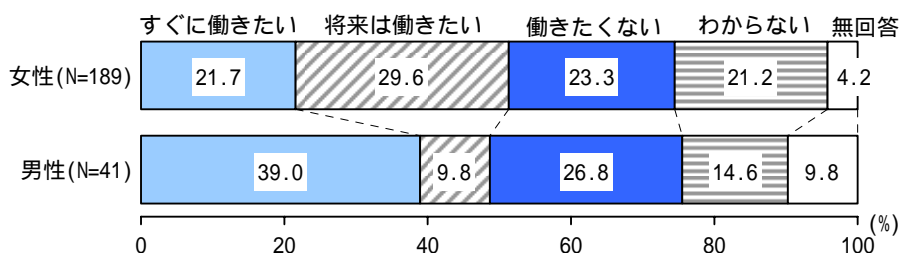
【図4 - 4 働いていない理由】



働いていない理由は、女性は「子どもが小さいから」が20.6%、「年をとっているから」が15.3%となっています。男性は「定年退職したから」が36.6%、「病気または体が弱いから」が12.2%の順となっています。(図4 - 4)

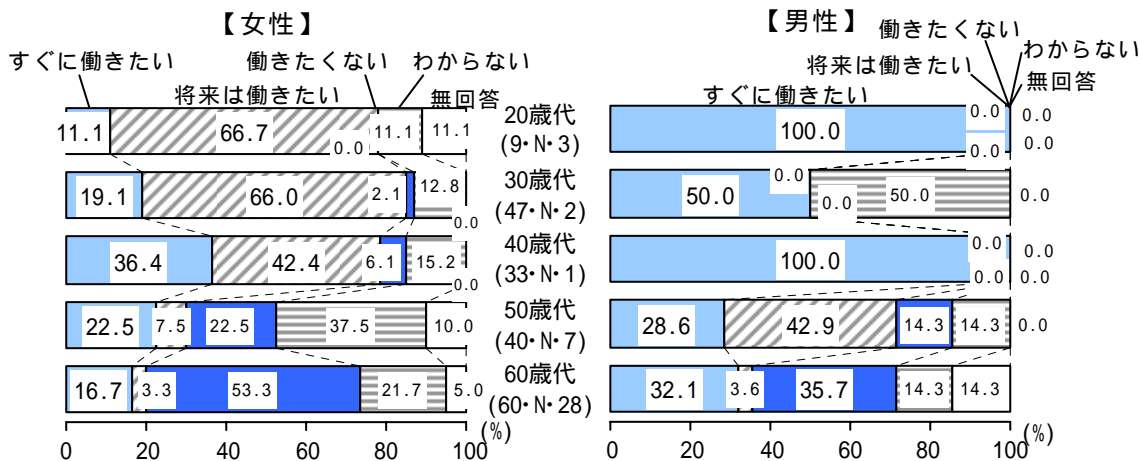
問15 あなたは、適当な仕事があれば働きたいと思われませんか。(は1つ)

【図4-5 就労意向の有無】



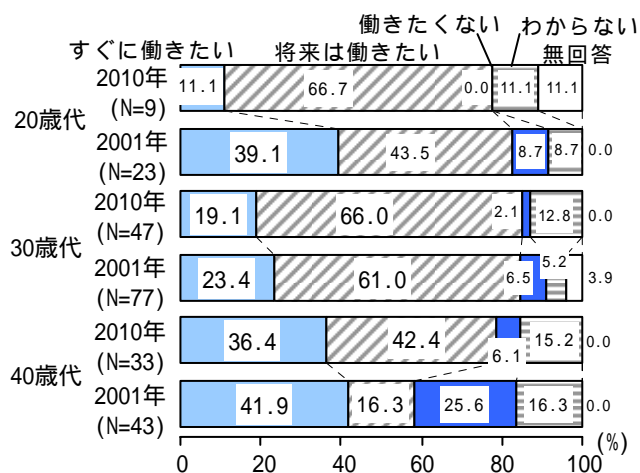
就労意向の有無は、女性は「すぐに働きたい」が21.7%、「将来は働きたい」が29.6%と合わせて51.3%の人が働きたいと回答しています。男性は「すぐに働きたい」が39.0%、「将来は働きたい」が9.8%と合わせて48.8%の人が働きたいと回答しています。(図4-5)

【図4-5-1 年代別 就労意向の有無】



年代別にみると、女性は「すぐに働きたい」は40歳代で36.4%と高く、「将来は働きたい」は若年層ほど高くなっています。(図4-5-1)

【図4-5-2 前回比較 就労意向の有無(女性20歳代~40歳代)】

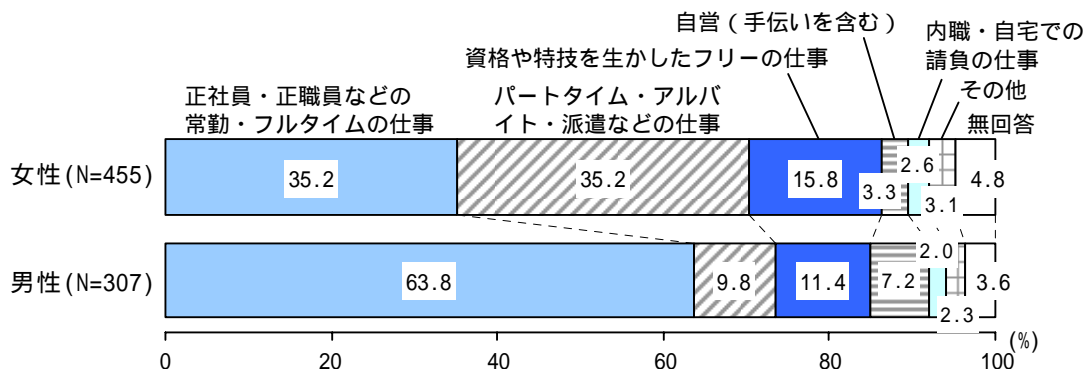


前回調査と比べると、女性の就労意向は、20歳代、30歳代、40歳代、いずれの年代も「すぐに働きたい」という人は減少していますが、「将来は働きたい」という人は増加しています。(図4-5-2)

《全員におたずねします。》

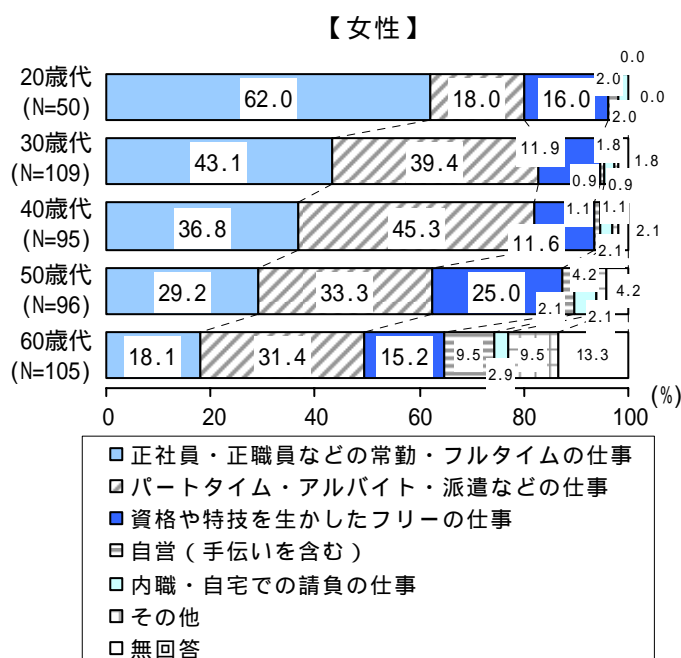
問16 どのような形で働きたいと思われませんか。(現在働いておられる方もお答えください。現状と同じ形態でも構いません。)(は1つ)

【図4-6 希望する就労形態】



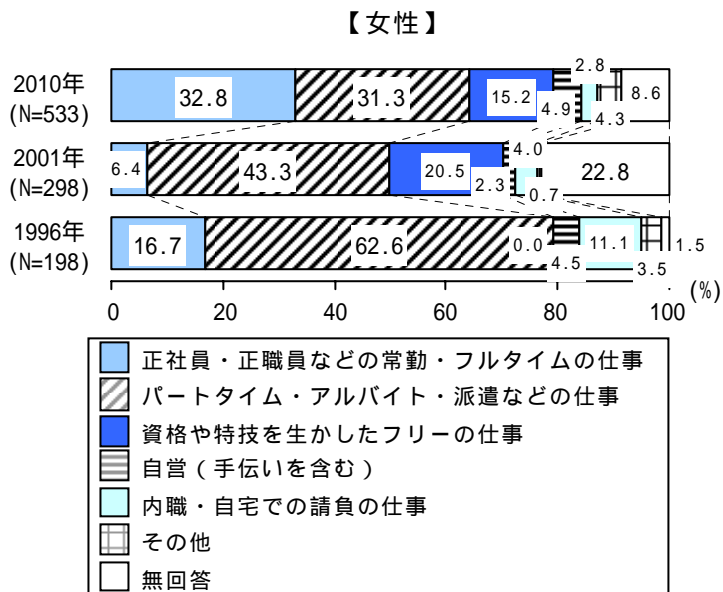
希望する就労形態は、女性は「正社員・正職員などの常勤・フルタイムの仕事」、「パートタイム・アルバイト・派遣などの仕事」がともに35.2%となっています。男性は「正社員・正職員などの常勤・フルタイムの仕事」が63.8%、「パートタイム・アルバイト・派遣などの仕事」が9.8%となっています。(図4-6)

【図4-6-1 年代別 希望する就労形態(女性)】



女性の年代別にみると、「正社員・正職員などの常勤・フルタイムの仕事」は若年層ほど高く、20歳代では62.0%となっています。40歳代から上の年代では「パートタイム・アルバイト・派遣などの仕事」の方が高くなり、40歳代では45.3%となっています。(図4-6-1)

【図 4-6-2 前回比較 希望する就労形態（女性）】

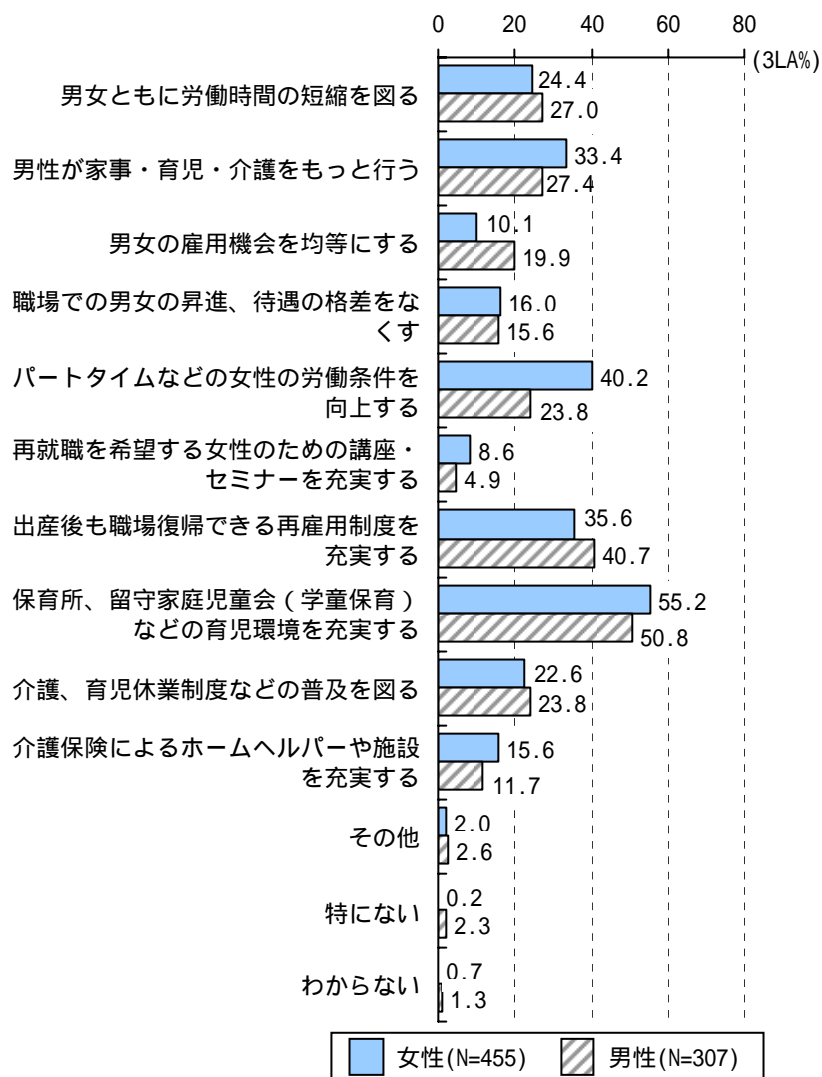


「内職・自宅での請負の仕事」は前回調査ではそれぞれ「内職」、「自宅での請負の仕事を行う」の2項目で設定されている。

女性のみ、前回調査と比べると「正社員・正職員などの常勤・フルタイムの仕事」は大きく増加しています。一方、「パートタイム・アルバイト・派遣などの仕事」は10ポイント以上減少していることから、女性の就労の志向がパート・アルバイトから正社員に変化していることがうかがえます。(図 4-6-2)

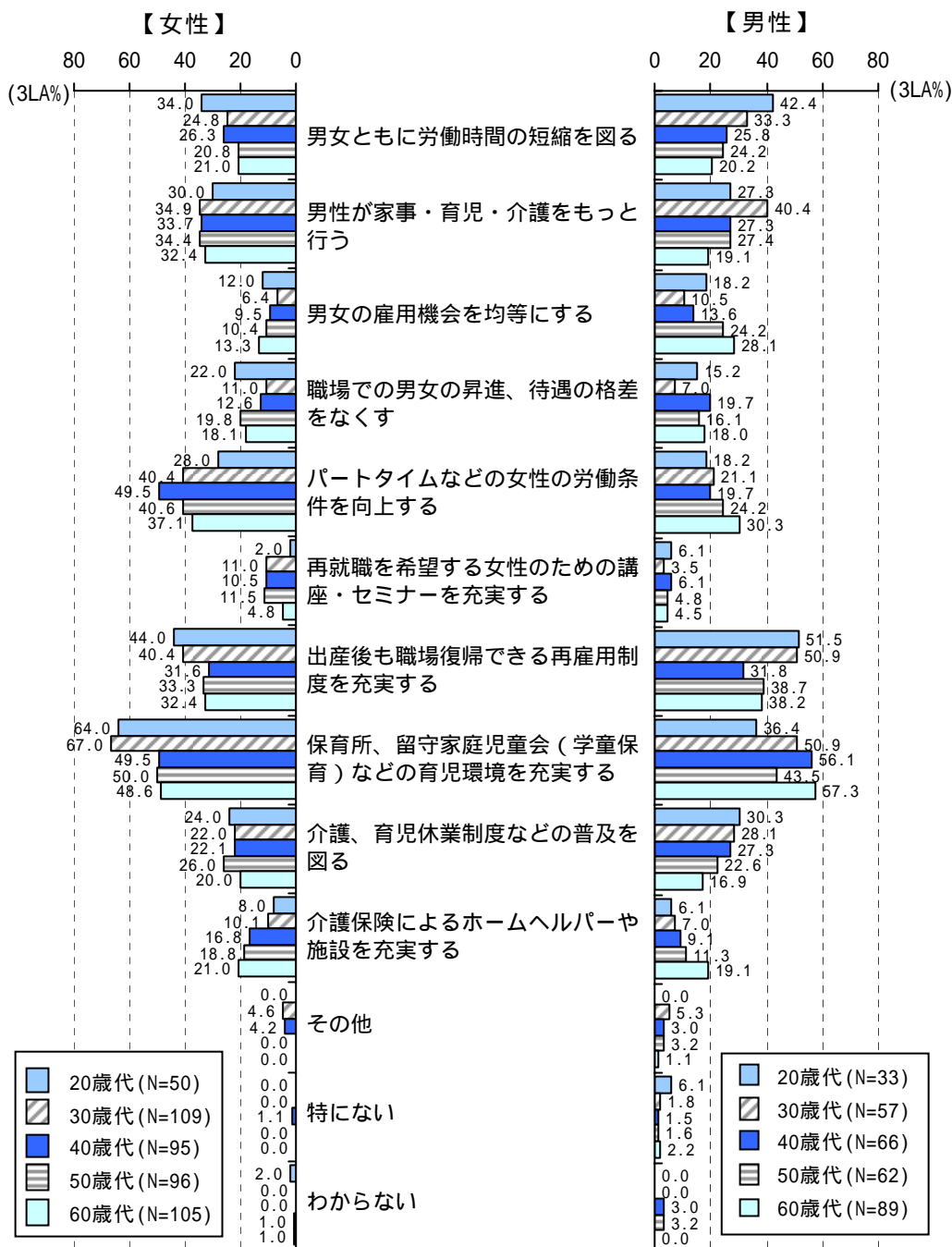
問17 これから女性が働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが重要だと思いますか。(は3つまで)

【図4 - 7 女性が働きやすい社会環境をつくるために重要だと思うこと】



女性が働きやすい社会環境をつくるために重要だと思うことは、男女ともに「保育所、留守家庭児童会(学童保育)などの育児環境を充実する」が最も高く、女性で55.2%、男性で50.8%となっています。次いで、女性は「パートタイムなどの女性の労働条件を向上する」が40.2%、男性は「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実する」が40.7%となっています。(図4 - 7)

【図 4-7-1 年代別 女性が働きやすい社会環境をつくるために重要だと思うこと】

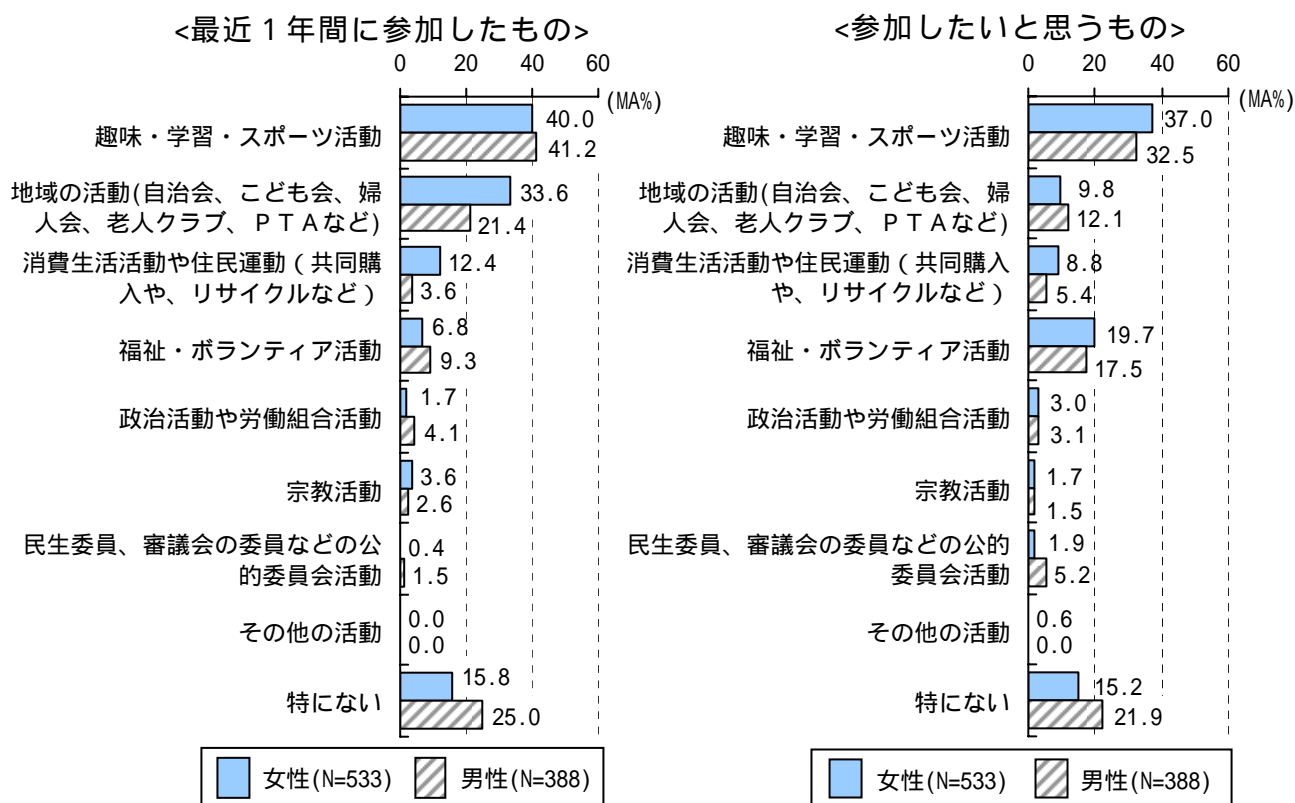


年代別にみると、「保育所、留守家庭児童会（学童保育）などの育児環境を充実する」では女性は20歳代、30歳代で高くなっていますが、男性では40歳代、60歳代で高くなっています。「パートタイムなどの女性の労働条件を向上する」は女性では40歳代を中心に中年層で高くなっているのに対し、男性では高齢層ほど高くなっています。「男女ともに労働時間の短縮を図る」、「出産後も職場復帰できる再雇用制度を充実する」では男女ともに若年層で高くなっています。（図 4-7-1）

5. 社会的活動について

問18 次の活動のうち、あなたが最近1年間に参加されたもの、また、今後参加したいと思われるものはありますか。(は参加したものの、参加したいと思うものそれぞれにいくつでも)

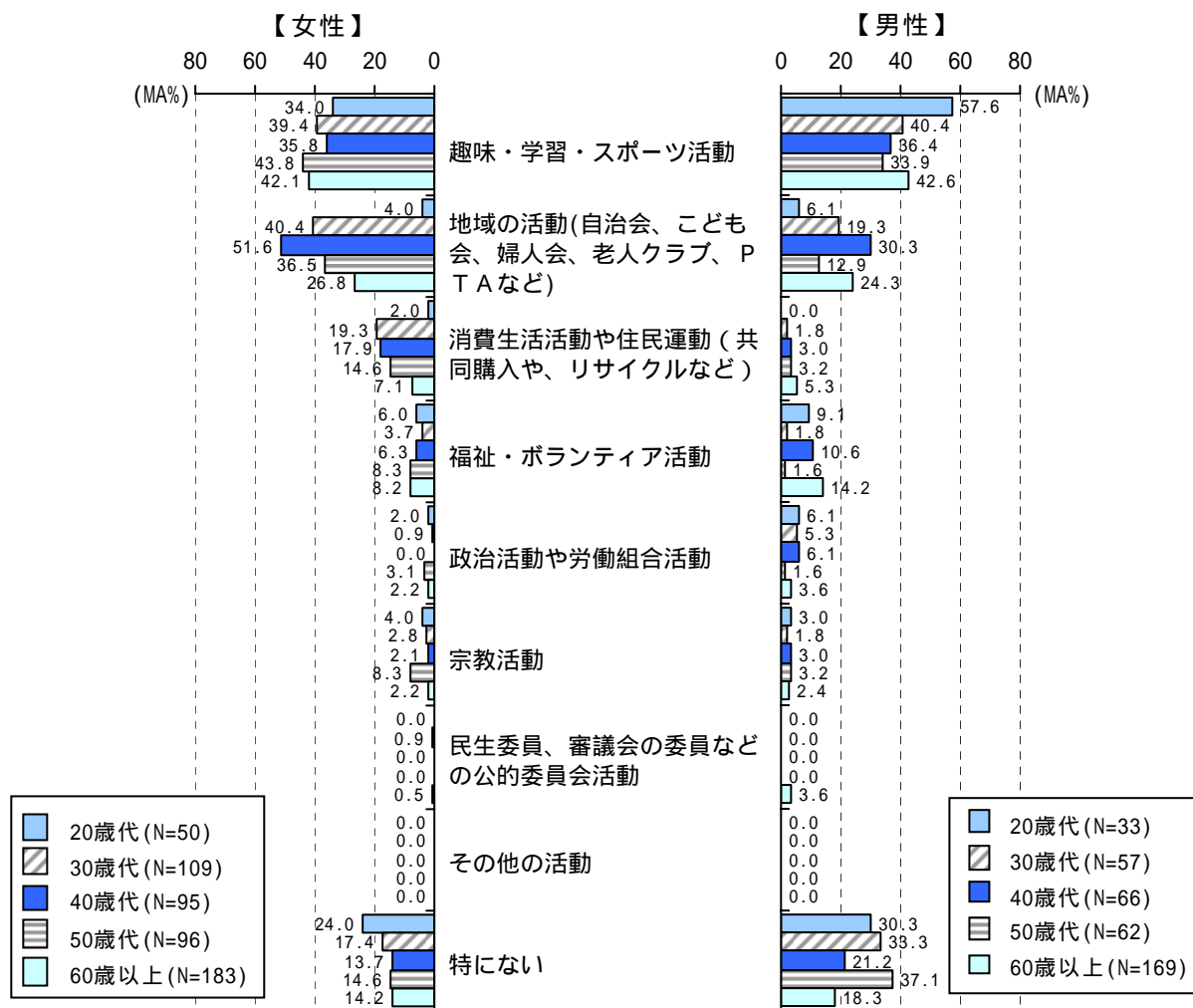
【図5 - 1 最近1年間に参加した社会活動、今後参加したいと思う社会活動】



最近1年間に参加した社会活動は、男女ともに「趣味・学習・スポーツ活動」が最も高く、女性で40.0%、男性で41.2%となっています。次いで、「地域の活動(自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ、PTAなど)」が女性で33.6%、男性で21.4%となっています。「特にない」は女性で15.8%、男性で25.0%となっています。

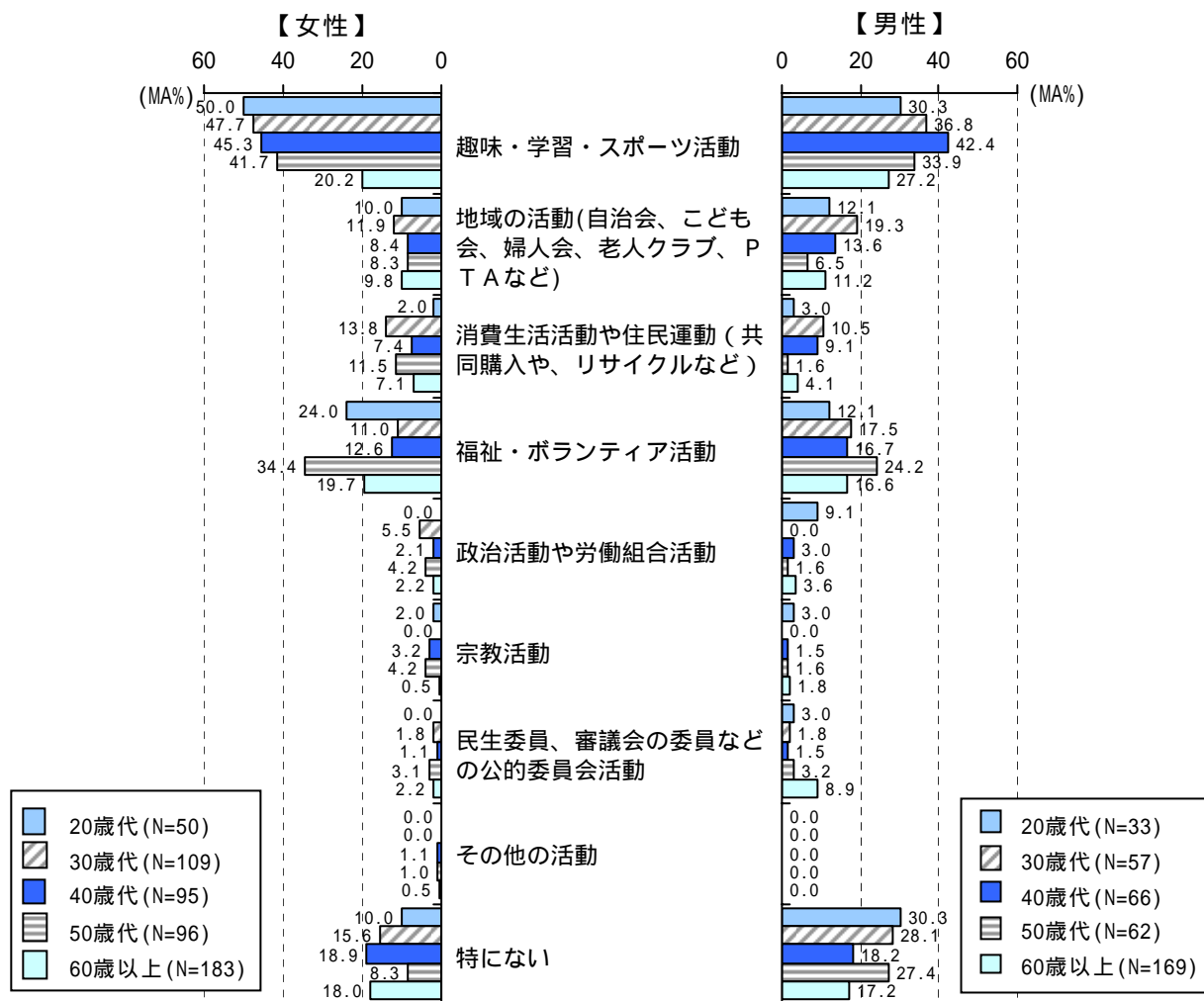
今後参加したいと思う社会活動は、男女ともに「趣味・学習・スポーツ活動」が最も高く、女性で37.0%、男性で32.5%となっています。次いで、「福祉・ボランティア活動」が女性で19.7%、男性で17.5%となっています。「特にない」は女性で15.2%、男性で21.9%となっています。(図5 - 1)

【図 5-1-1 年代別 最近 1 年間に参加した社会活動】



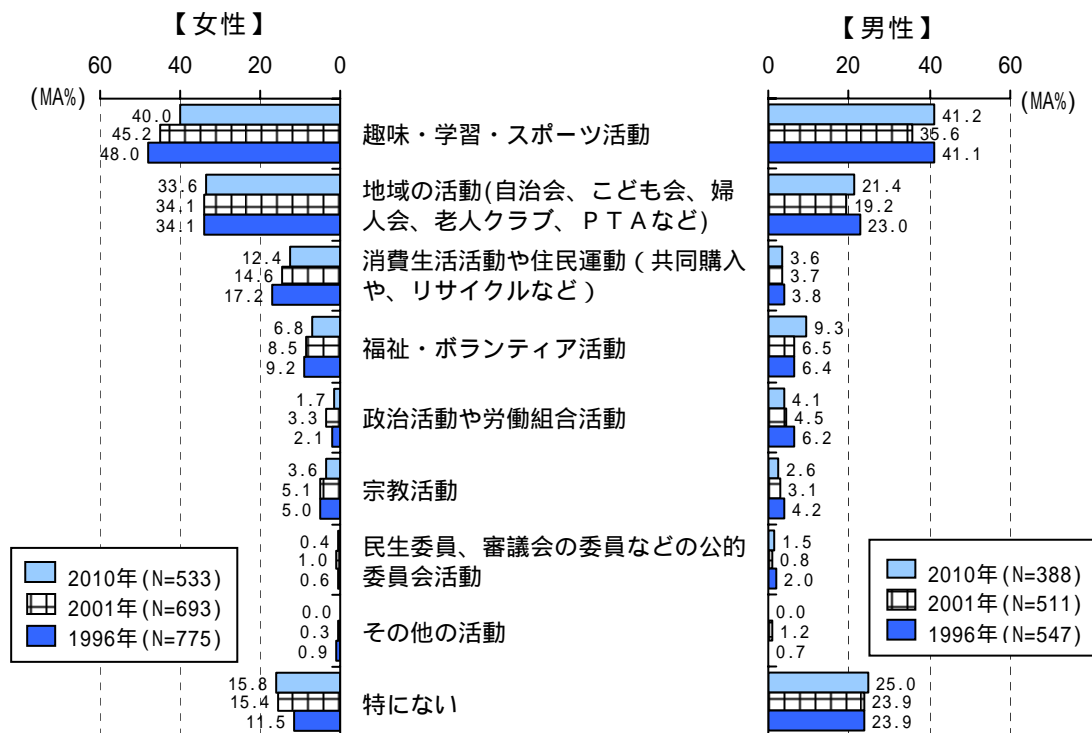
年代別にみると、「趣味・学習・スポーツ活動」は女性では50歳代を中心に高年齢層で高くなっていますが、男性は20歳代を中心に若年層で高くなっています。「地域の活動(自治会、子ども会、婦人会、老人クラブ、PTAなど)」では男女ともに40歳代が高く、特に女性では51.6%と半数を占めています。(図 5-1-1)

【図 5-1-1 年代別 今後参加したいと思う社会活動】



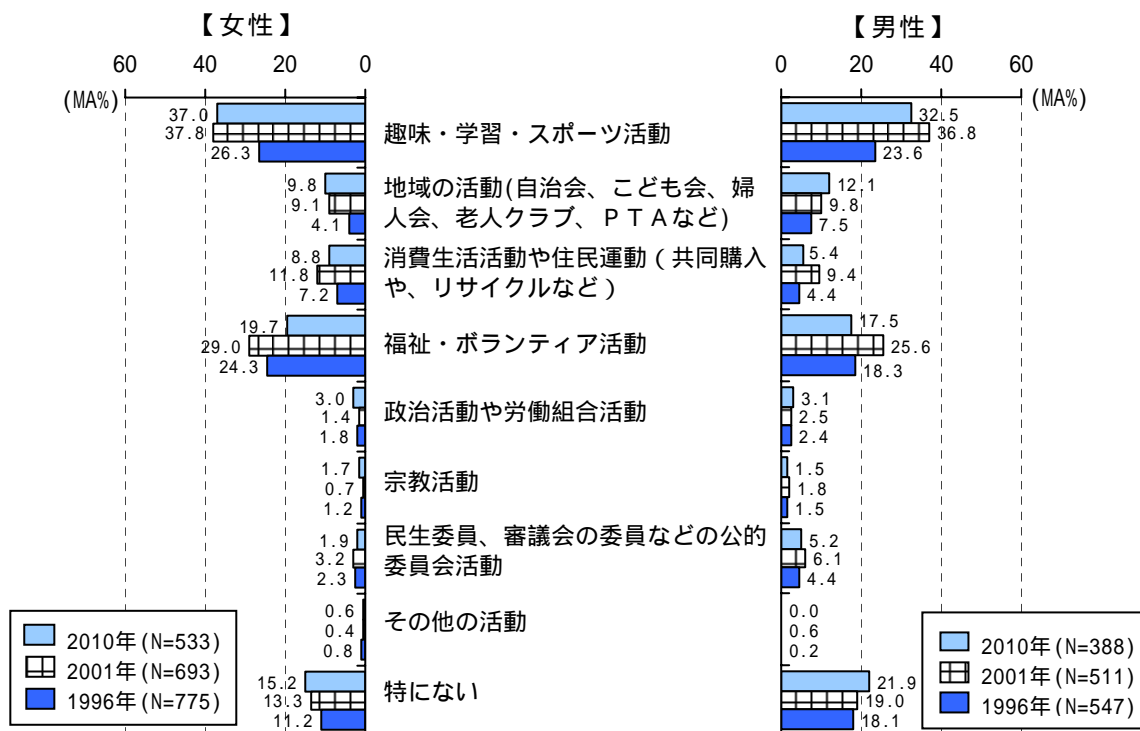
年代別にみると、「趣味・学習・スポーツ活動」は女性では20歳代を中心に若年層になるほど割合は高くなっています。男性は40歳代を中心に中年層で高くなっています。「福祉・ボランティア活動」では男女ともに50歳代で高くなっています。(図 5-1-1)

【図 5-1-2 前回比較 最近 1 年間に参加した社会活動】



前回調査と比べると、「趣味・学習・スポーツ活動」は女性では年々減少の傾向がみられますが、男性は今回調査で増加しています。「福祉・ボランティア活動」では女性はわずかに減少傾向がみられますが、男性は増加傾向がみられます。(図 5-1-2)

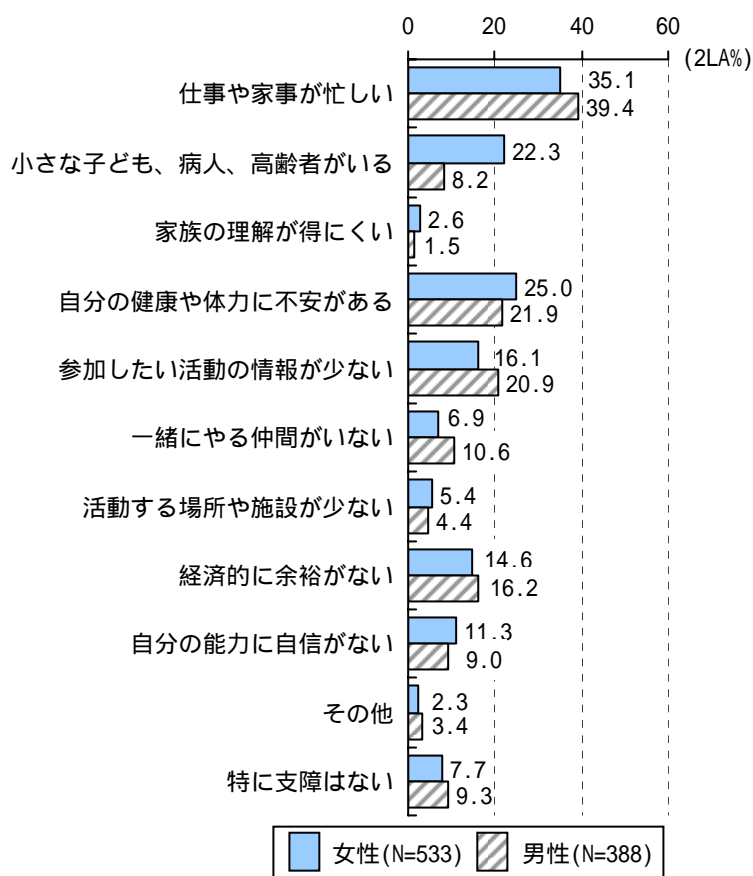
【図 5-1-2 前回比較 今後参加したいと思う社会活動】



前回調査と比べると、「趣味・学習・スポーツ活動」、「福祉・ボランティア活動」は男女ともに今回調査で減少しています。(図 5-1-2)

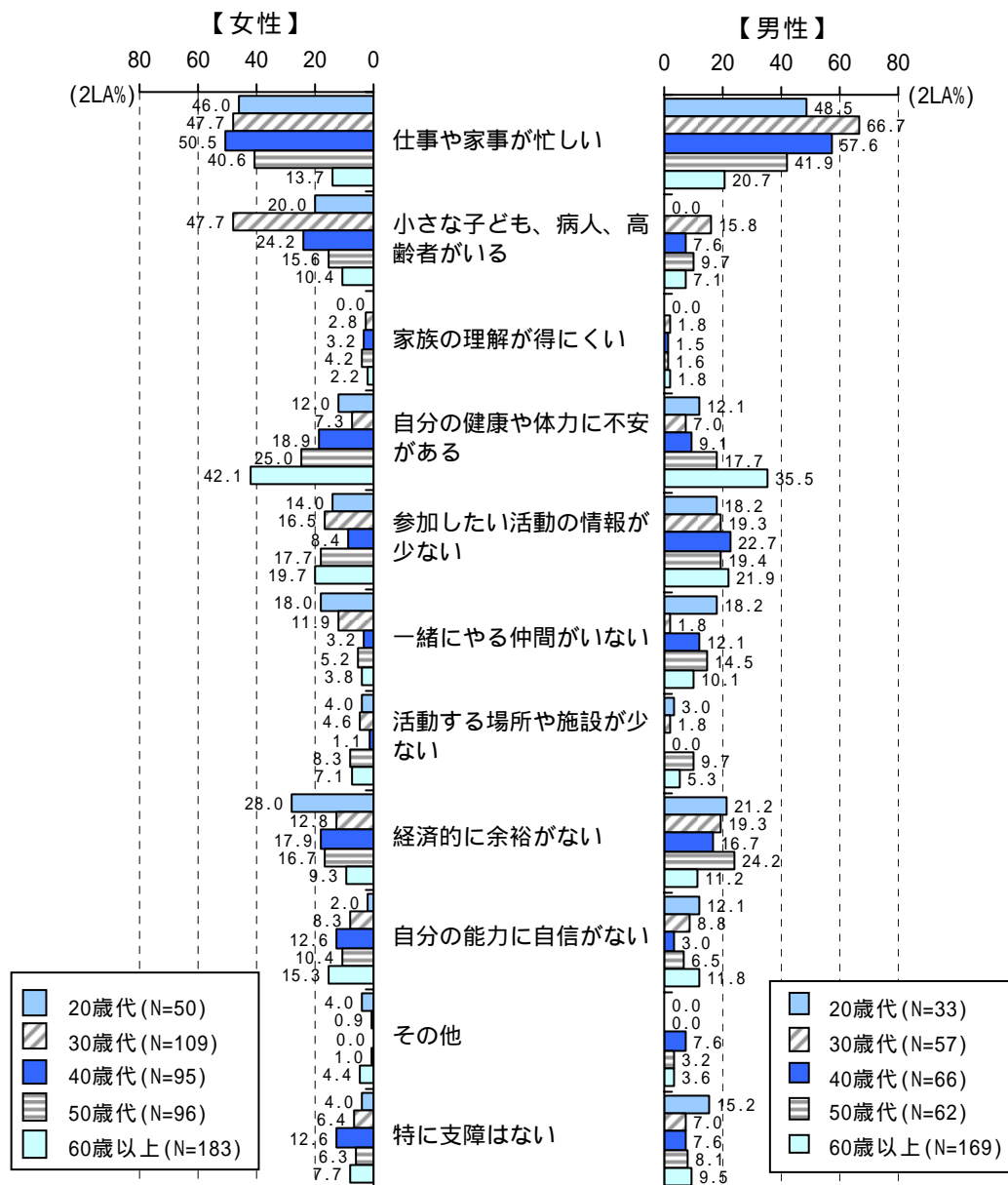
問19 あなたが社会活動に参加される場合、どのようなことが支障となりますか。(は2つまで)

【図5 - 2 社会活動に参加するうえで支障となること】



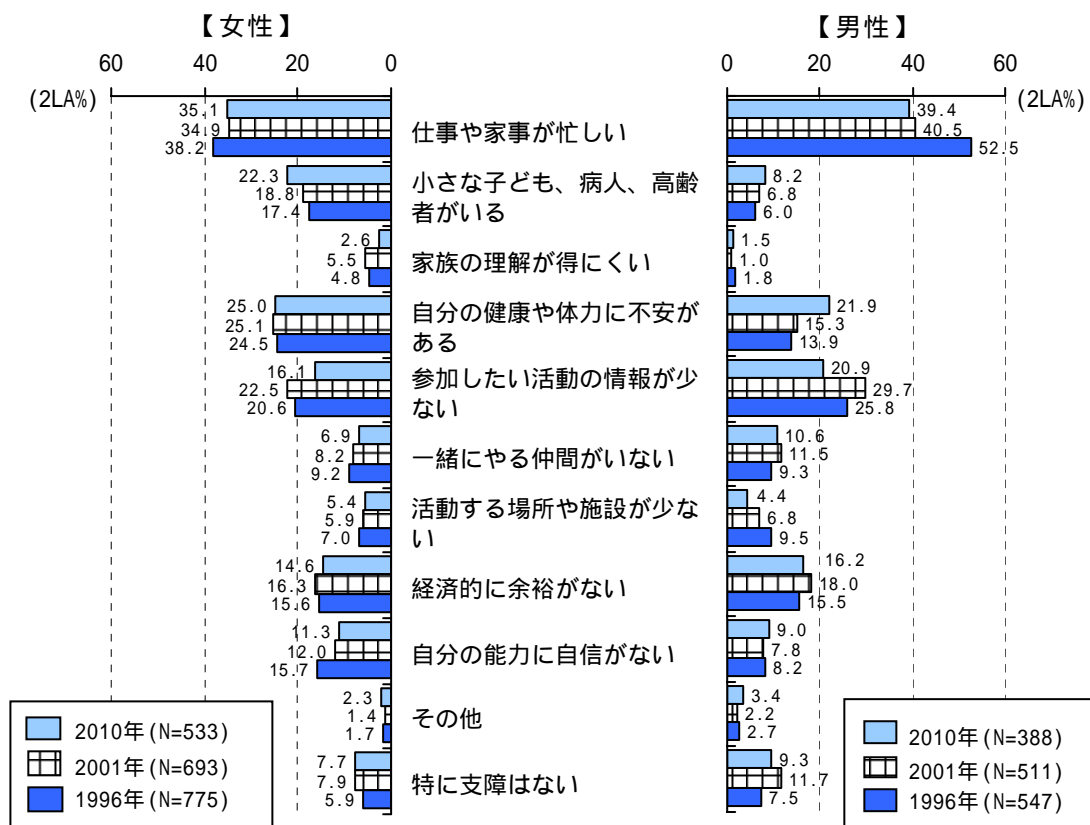
社会活動に参加するうえで支障となることは、男女ともに「仕事や家事が忙しい」が最も高く、女性で35.1%、男性で39.4%となっています。次いで、「自分の健康や体力に不安がある」が女性で25.0%、男性で21.9%となっています。(図5 - 2)

【図 5-2-1 年代別 社会活動に参加するうえで支障となること】



年代別にみると、「小さな子ども、病人、高齢者がいる」では女性で30歳代が47.7%と高くなっています。「仕事や家事が忙しい」では男性で30歳代が66.7%と高くなっています。「経済的に余裕がない」は女性では20歳代が最も高くなっていますが、男性では50歳代と20歳代で高くなっています。(図 5-2-1)

【図 5-2-2 前回比較 社会活動に参加するうえで支障となること】

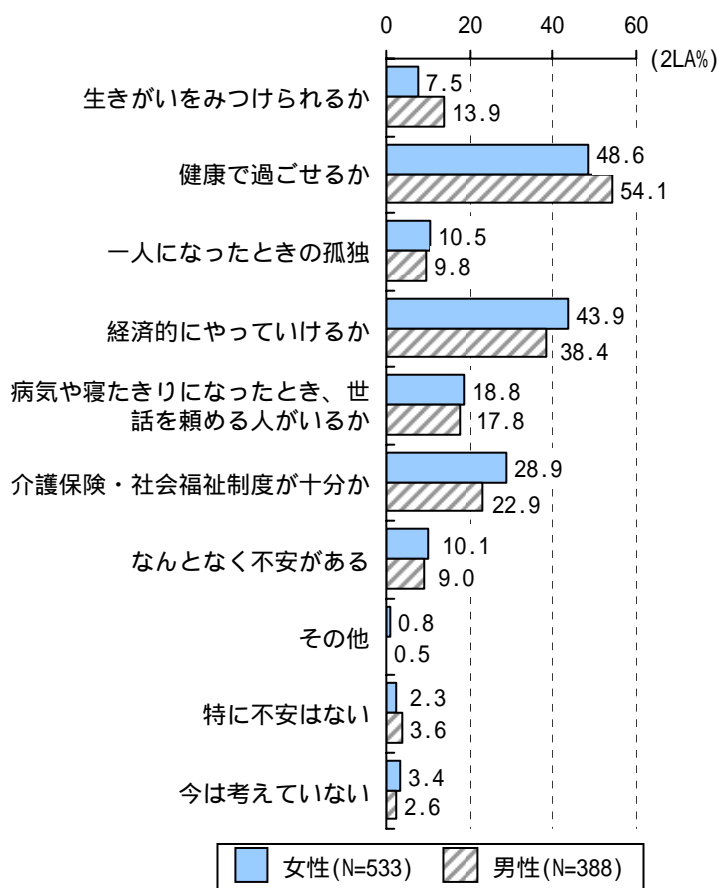


前回調査と比べると、「参加したい活動の情報が少ない」では男女ともに前回調査よりも減少しています。「自分の健康や体力に不安がある」は男性で増加していますが、年齢層が前回調査よりも高いことが影響していると考えられます。(図 5-2-2)

6. 高齢期の生活について

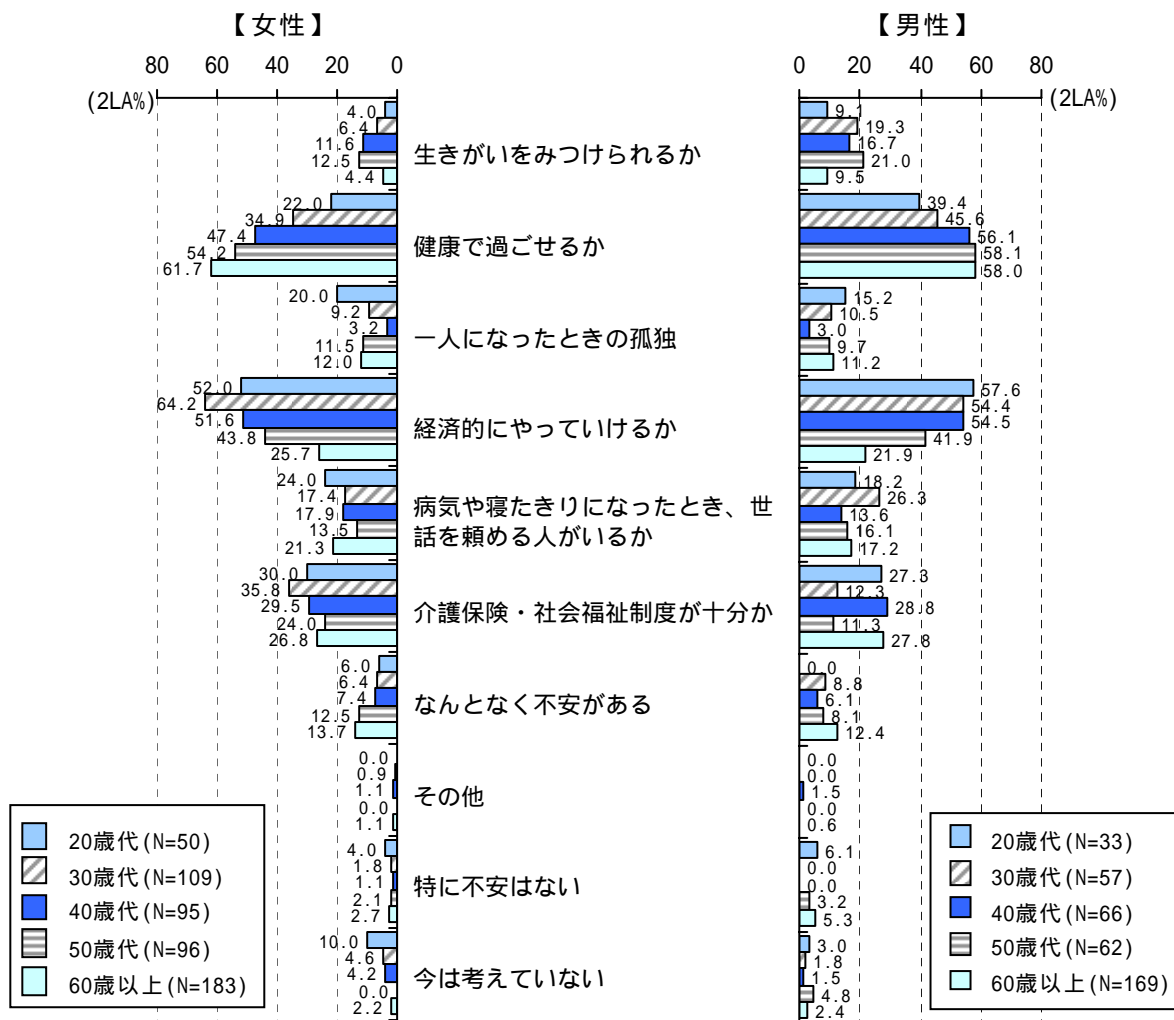
問20 あなたが高齢期の生活について、特に不安に思われていることは何ですか。(は2つまで)

【図6 - 1 高齢期の生活について不安に思うこと】



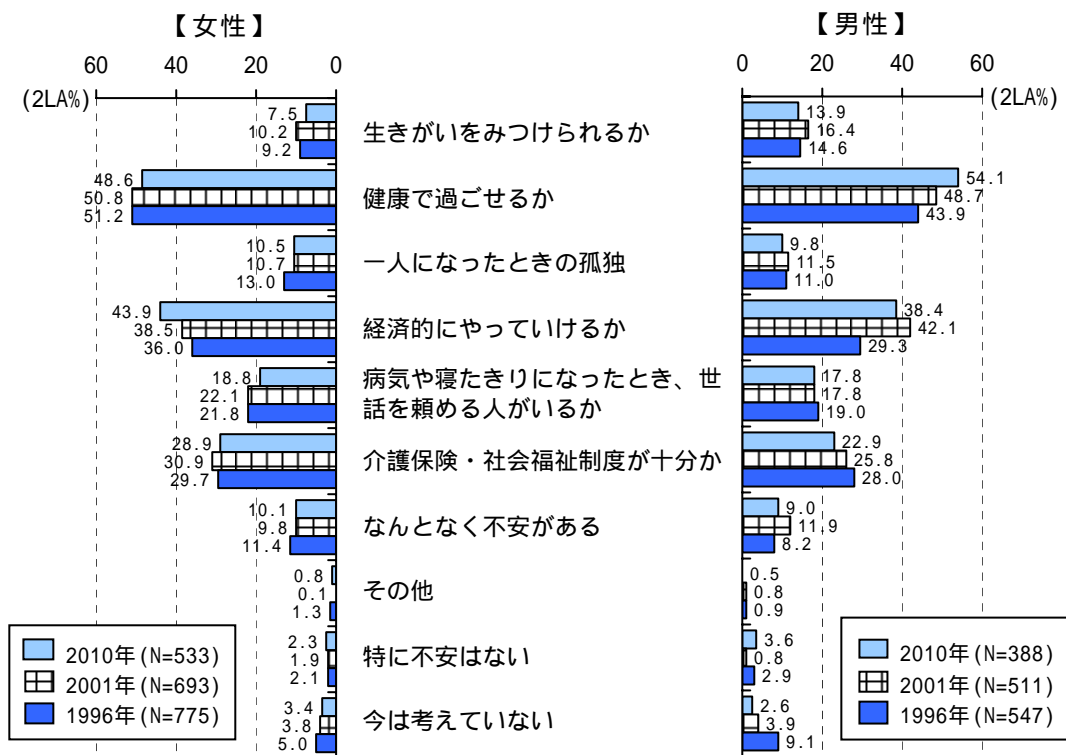
高齢期の生活について不安に思うことは、男女ともに「健康で過ごせるか」が最も高く、女性で48.6%、男性で54.1%となっています。次いで、「経済的にやっていけるか」が女性で43.9%、男性で38.4%、「介護保険・社会福祉制度が十分か」が女性で28.9%、男性で22.9%となっています。(図6 - 1)

【図 6-1-1 年代別 高齢期の生活について不安に思うこと】



年代別にみると、「経済的にやっていけるか」は男女ともに若年層で高く、女性では30歳代で64.2%、男性では20歳代で57.6%となっています。「健康で過ごせるか」は男女とも高年齢層ほど高くなっています。(図 6-1-1)

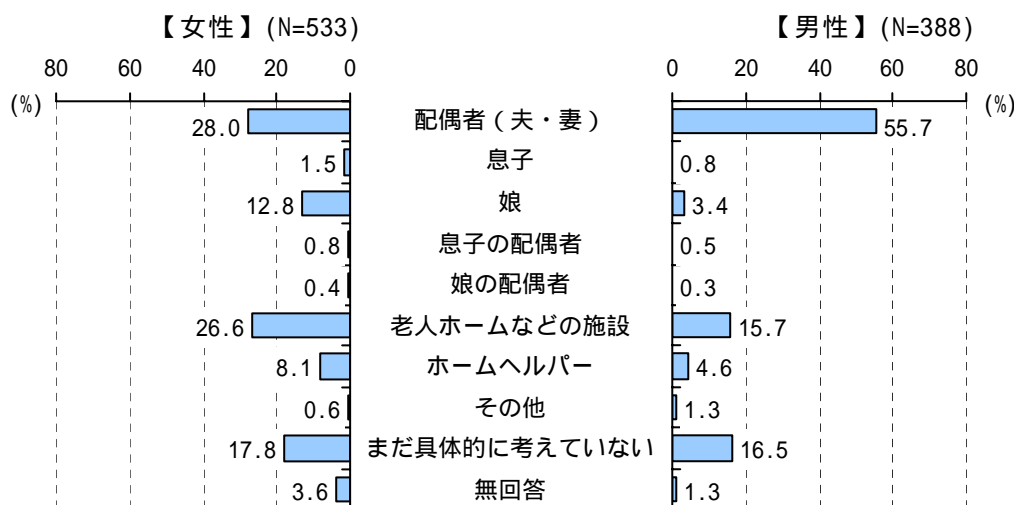
【図 6-1-2 前回比較 高齢期の生活について不安に思うこと】



前回調査と比べると、「経済的にやっていけるか」は女性では年々増加傾向にありますが、男性では今回調査で減少しています。「健康で過ごせるか」は男性で増加傾向にありますが、年齢層が前回調査よりも高いことが影響していると考えられます。(図 6-1-2)

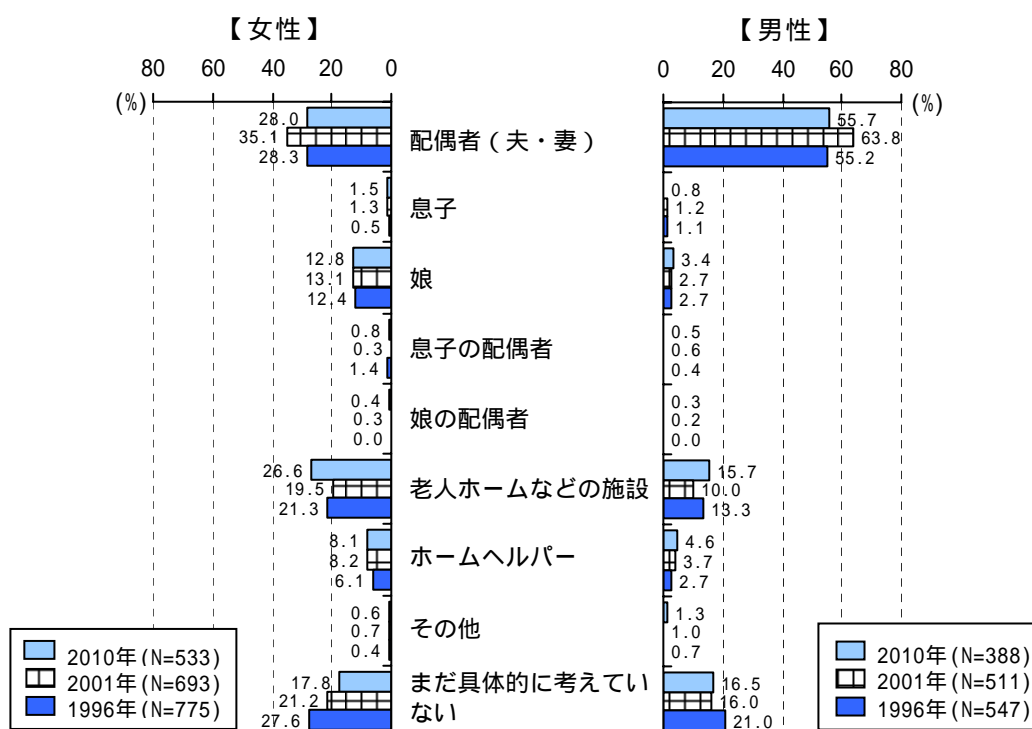
問21 もし、あなたが寝たきりで介護が必要になったとしたら、介護保険を利用しつつ、主にだれに（どこで）身の回りの世話をしてもらいたいと思われませんか。（ は1つ）

【図6-2 介護してもらいたい人】



介護してもらいたい人は、女性は「配偶者(夫・妻)」が28.0%、「老人ホームなどの施設」が26.6%となっています。男性は「配偶者(夫・妻)」が55.7%、「老人ホームなどの施設」が15.7%となっています。「まだ具体的には考えていない」は女性で17.8%、男性で16.5%となっています。(図6-2)

【図6-2-1 前回比較 介護してもらいたい人】

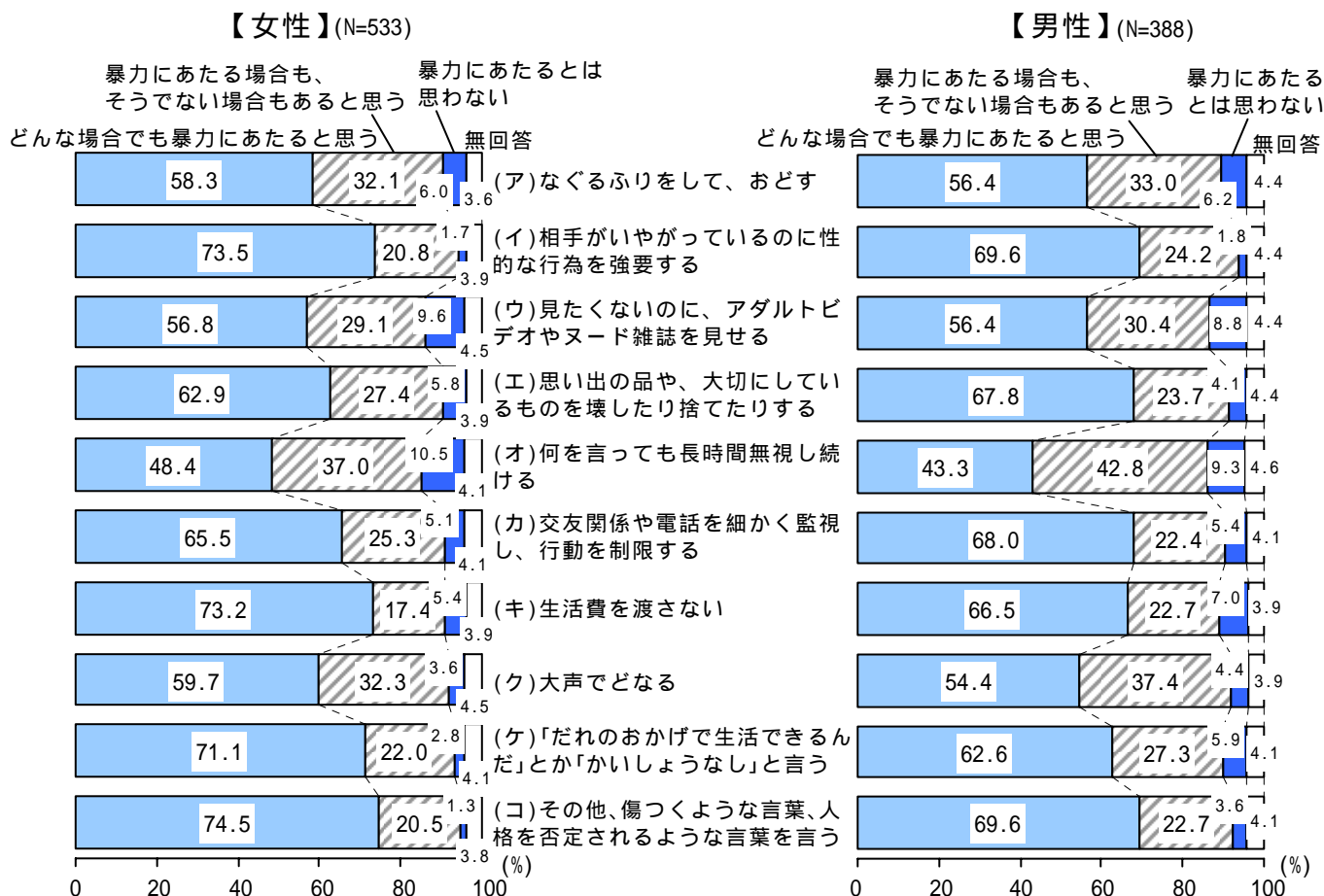


前回調査と比べると、「配偶者(夫・妻)」は男女ともに前回調査よりも減少し、「老人ホームなどの施設」は男女ともに増加しています。(図6-2-1)

7. 男女の人権について

問22 あなたは、次の(ア)～(コ)のようなことが夫婦(事実婚や別居中も含む)、恋人の間で行われた場合、暴力だと思われますか。(は各項目に1つ)

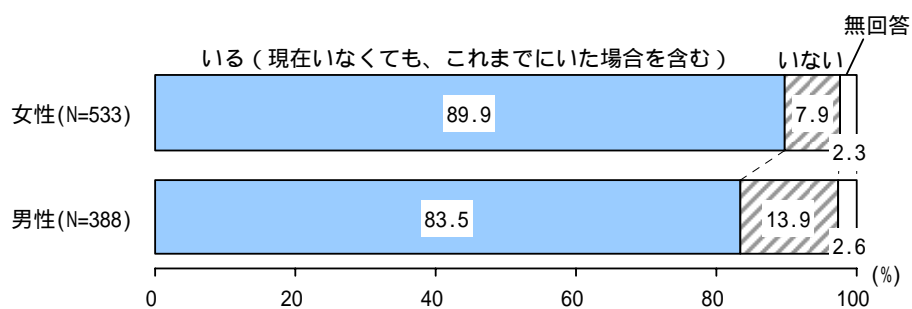
【図7-1 夫婦・恋人間で暴力だと思ふこと】



夫婦・恋人間で暴力だと思ふことは、女性は「(コ) その他、傷つくような言葉、人格を否定されるような言葉を言う」で「どんな場合でも暴力にあたると思う」は74.5%、「(イ) 相手がいやがっているのに性的な行為を強要する」で73.5%、「(キ) 生活費を渡さない」で73.2%となっています。男性は「(イ) 相手がいやがっているのに性的な行為を強要する」で69.6%、「(コ) その他、傷つくような言葉、人格を否定されるような言葉を言う」で69.6%となっています。(図7-1)

問23 あなたは、配偶者・恋人など一定期間親しい関係にある(あった)相手がおられますか。(結婚、同居の有無は問いません。)(は1つ)

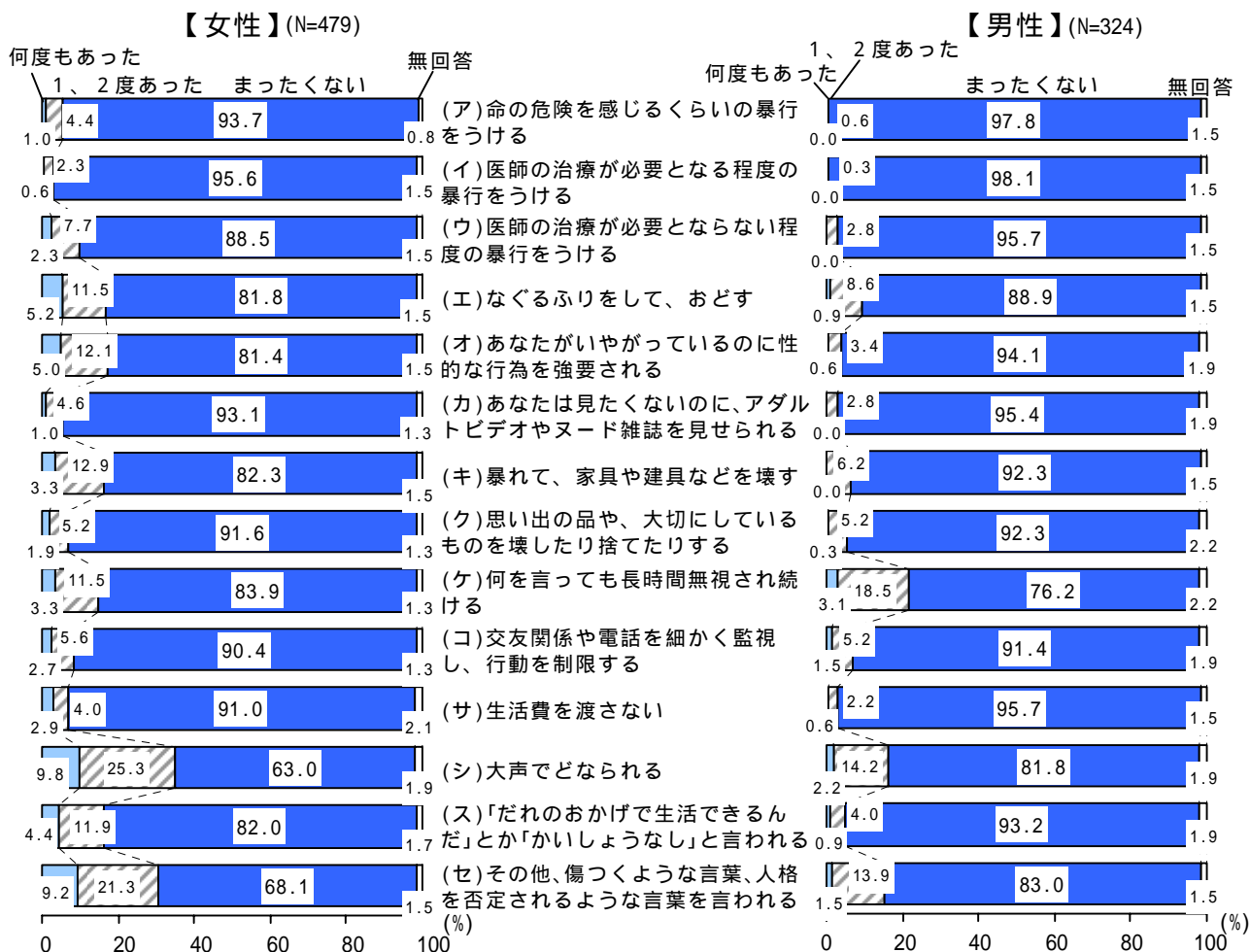
【図7-2 配偶者・恋人の有無】



配偶者・恋人の有無は、「いる(現在いなくても、これまでにいた場合を含む)」という人は女性で89.9%、男性で83.5%と女性の方が高くなっています。(図7-2)

《配偶者・恋人がいる(いた)方におたずねします。》
 問24 あなたは、配偶者・恋人などから次の(ア)～(セ)のようなことをされたことがありますか。(は各項目に1つ)

【図7-3 配偶者・恋人からの暴力の有無】

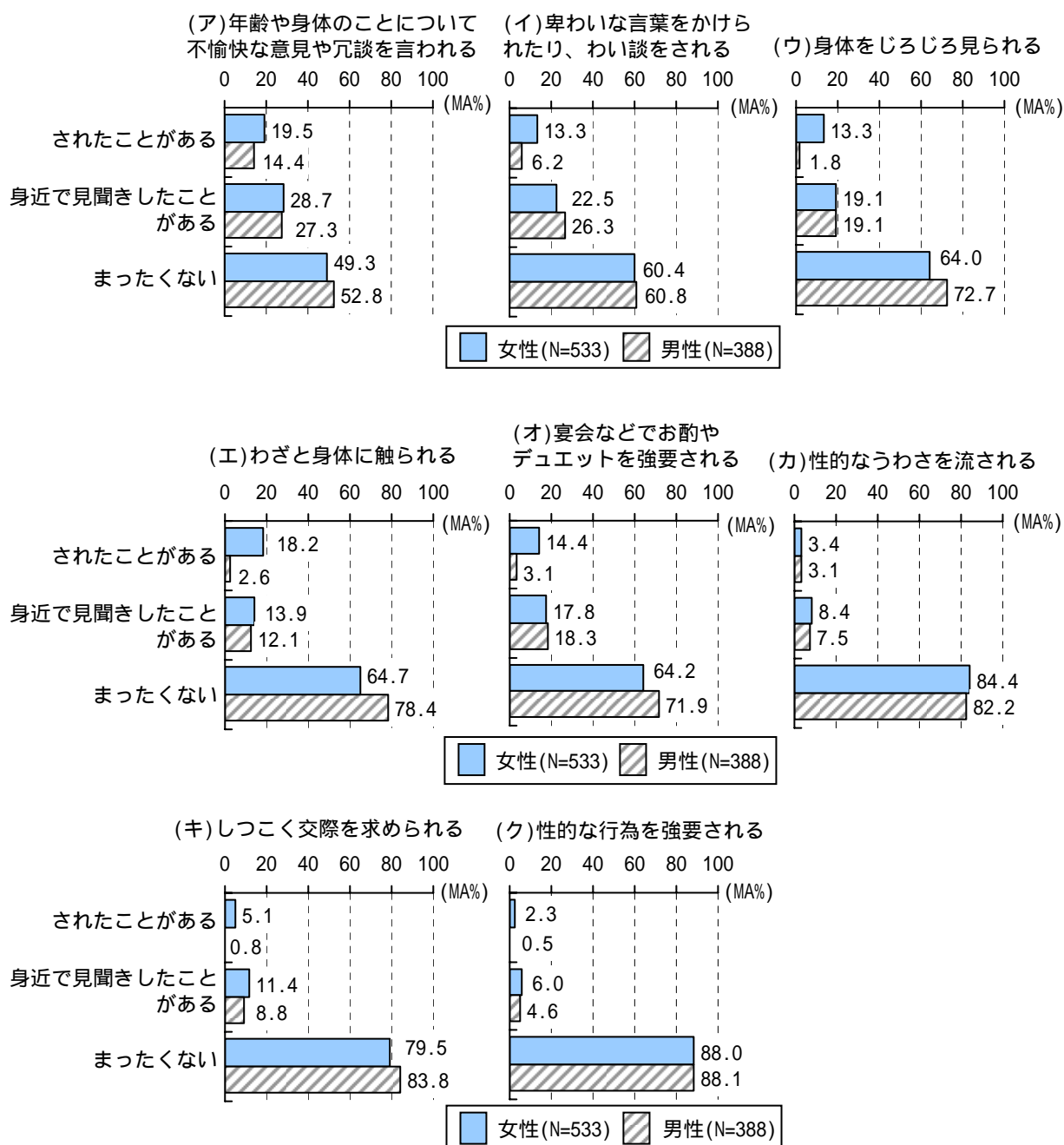


配偶者・恋人からの暴力の有無は、「何どもあった」、「1、2度あった」を合わせると、女性は「(シ) 大声でどなられる」で35.1%、「(セ) その他、傷つくような言葉、人格を否定されるような言葉を言われる」で30.5%の人が経験があったと回答しています。男性は「(ケ) 何を言っても長時間無視され続ける」で21.6%となっています。(図7-3)

《全員におたずねします。》

問25 あなたは、職場や学校、地域などにおいて次の(ア)～(ク)のような行為をされたり、見聞きしたことがありますか。(はいいくつでも)

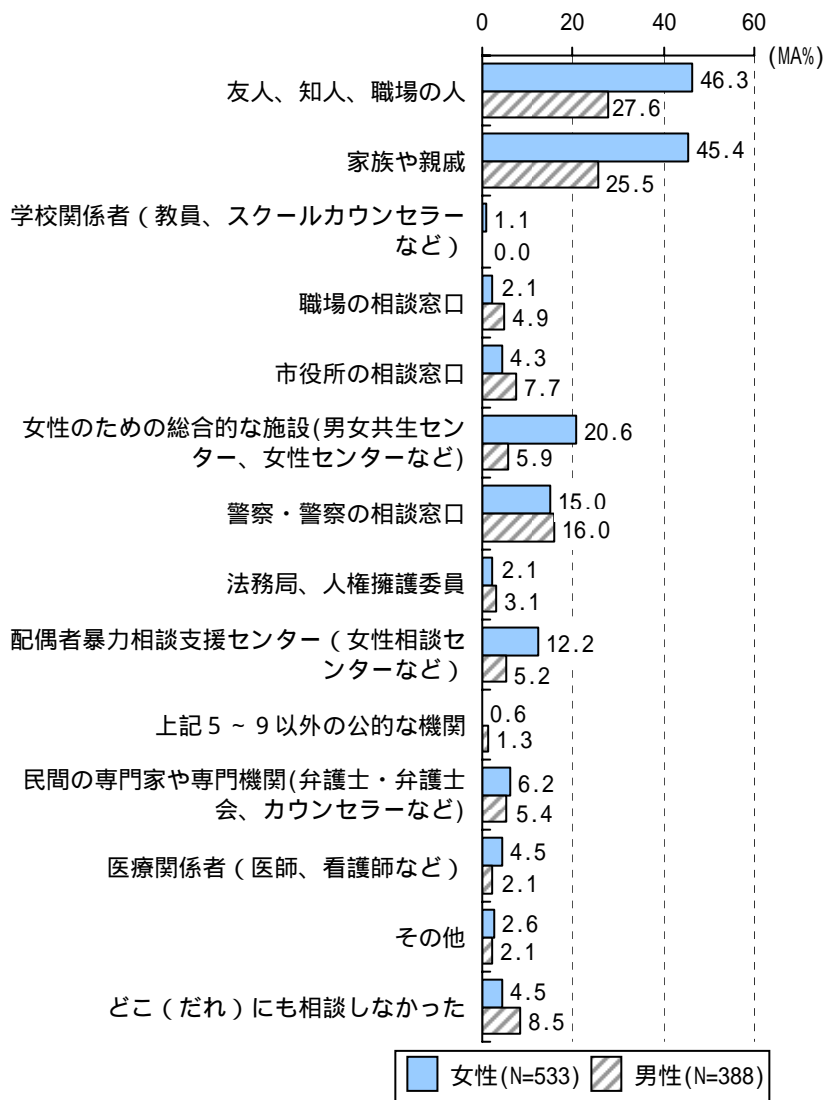
【図7-4 職場や学校、地域における性的いやがらせの有無】



職場や学校、地域における性的いやがらせの有無は、「されたことがある」は男女ともに「(ア) 年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」が最も高く、女性で19.5%、男性で14.4%となっています。「身近で見聞きしたことがある」も「(ア) 年齢や身体のことについて不愉快な意見や冗談を言われる」で最も高く、女性で28.7%、男性で27.3%となっています。(図7-4)

問26 あなたは、女性に対する暴力（夫等から妻等に対する暴力＝DV ドメスティック・バイオレンス、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪など）の被害を受けたとき、誰かに打ち明けたり、相談します（しました）か。（はいいくつでも）

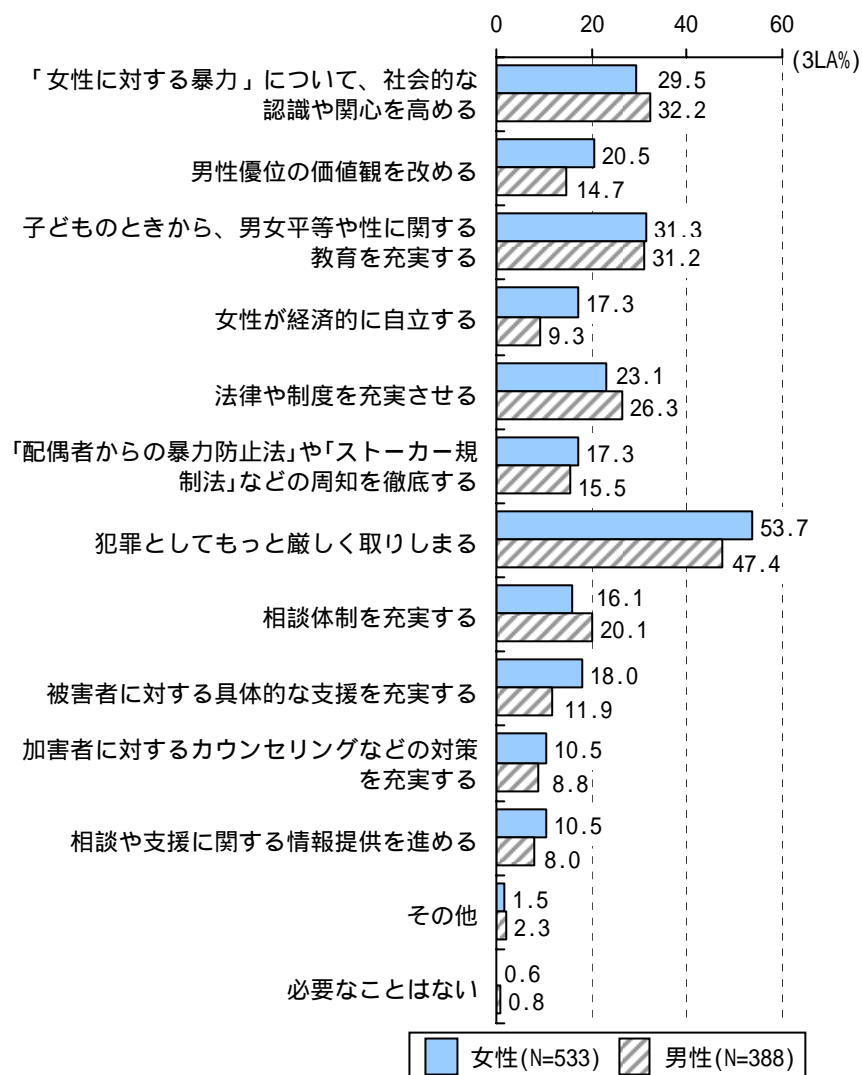
【図7-5 暴力を受けたときの相談相手】



暴力を受けたときの相談相手は、男女ともに「友人、知人、職場の人」が最も高く、女性で46.3%、男性で27.6%となっています。次いで「家族や親戚」が女性で45.4%、男性で25.5%となっています。（図7-5）

問 27 あなたは、女性に対する暴力（DV、セクシュアル・ハラスメント、性犯罪など）をなくすために、どのようなことが特に必要だと思われますか。（ は3つまで）

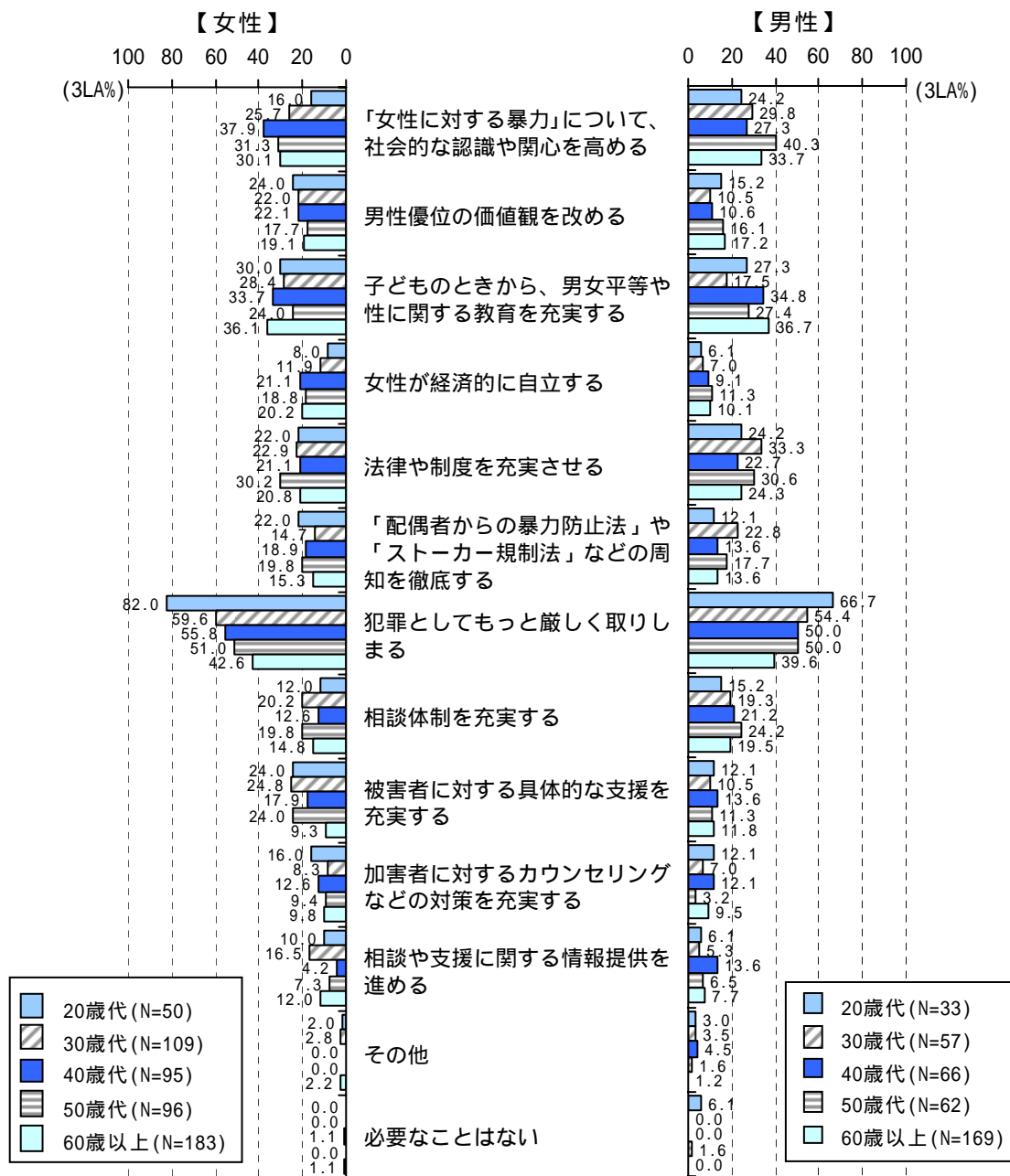
【図 7 - 6 女性に対する暴力をなくすために必要だと思うこと】



女性に対する暴力をなくすために必要だと思うことは、男女とも「犯罪としてもっと厳しく取りしめる」が最も高く、女性で 53.7%、男性で 47.4%となっています。次いで、女性は「子どものときから、男女平等や性に関する教育を充実する」が 31.3%、男性は「女性に対する暴力」について、社会的な認識や関心を高める」が 32.2%となっています。

(図 7 - 6)

【図 7-6-1 年代別 女性に対する暴力をなくすために必要だと思うこと】

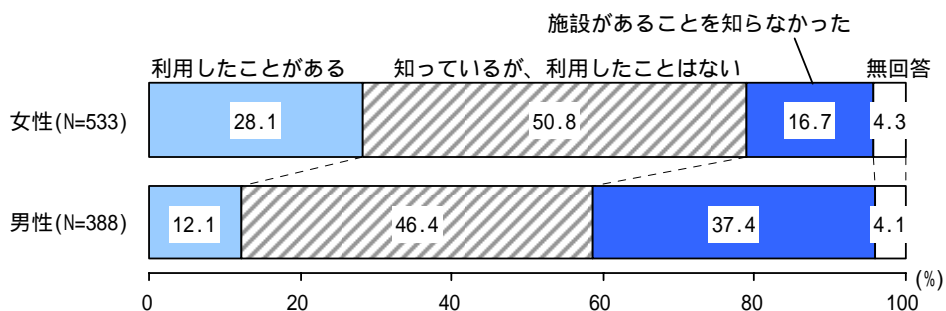


年代別にみると、「犯罪としてもっと厳しく取りしめる」は男女とも若年層ほど割合は高く、20歳代では女性が82.0%、男性が66.7%となっています。「子どものときから、男女平等や性に関する教育を充実する」は男女とも60歳以上で最も高くなっています。(図 7-6-1)

8. 男女共生センター ローズWAMについて

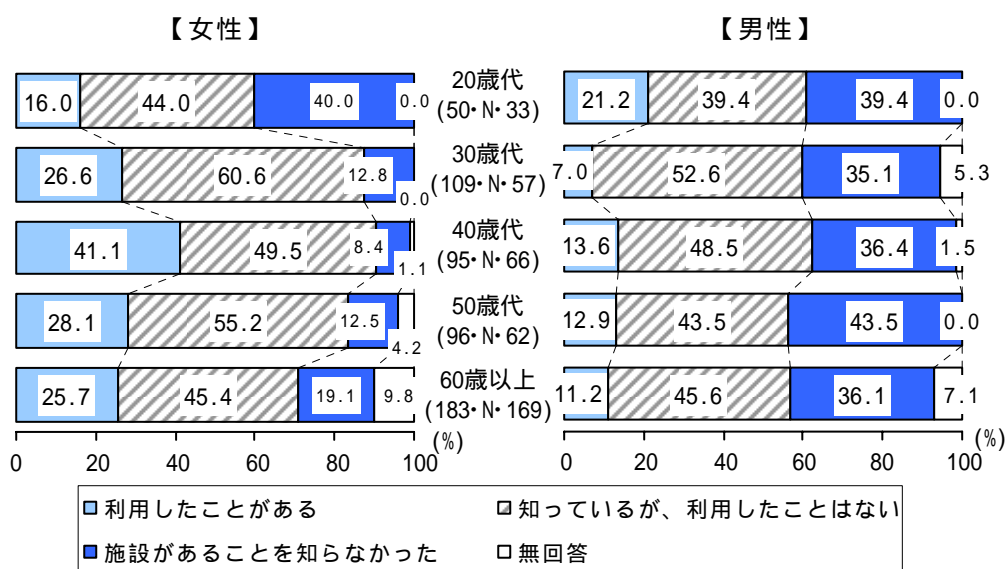
問 28 男女共生センター ローズWAM を利用されたことがありますか。(1 は1つ)

【図 8 - 1 ローズWAMの利用経験の有無】



ローズWAMの利用経験の有無は、「利用したことがある」は女性で28.1%、男性で12.1%と女性の方が高くなっています。一方、「施設があることを知らなかった」は女性で16.7%、男性で37.4%と男性の方が高くなっています。(図8-1)

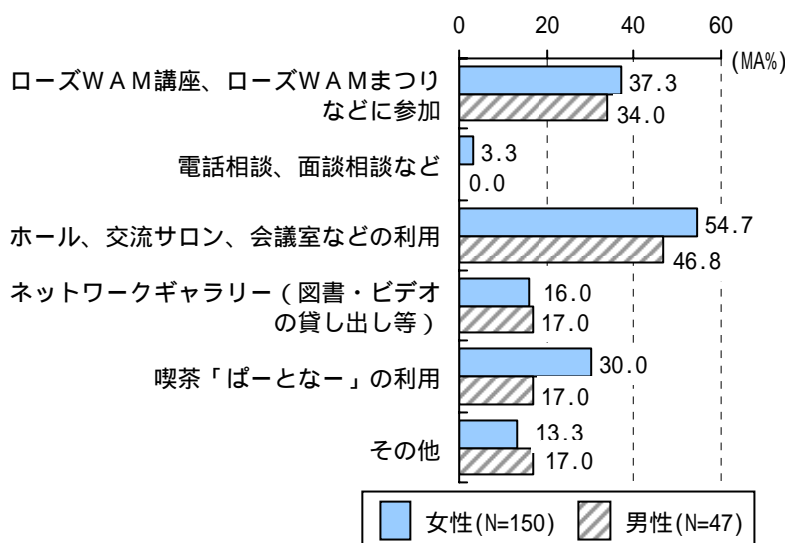
【図 8-1-1 年代別 ローズWAMの利用経験の有無】



年代別にみると、「利用したことがある」は女性では40歳代で41.1%と高く、男性では20歳代で21.2%となっています。一方、「施設があることを知らなかった」は女性では20歳代で40.0%、男性では50歳代で43.5%と高くなっています。(図8-1-1)

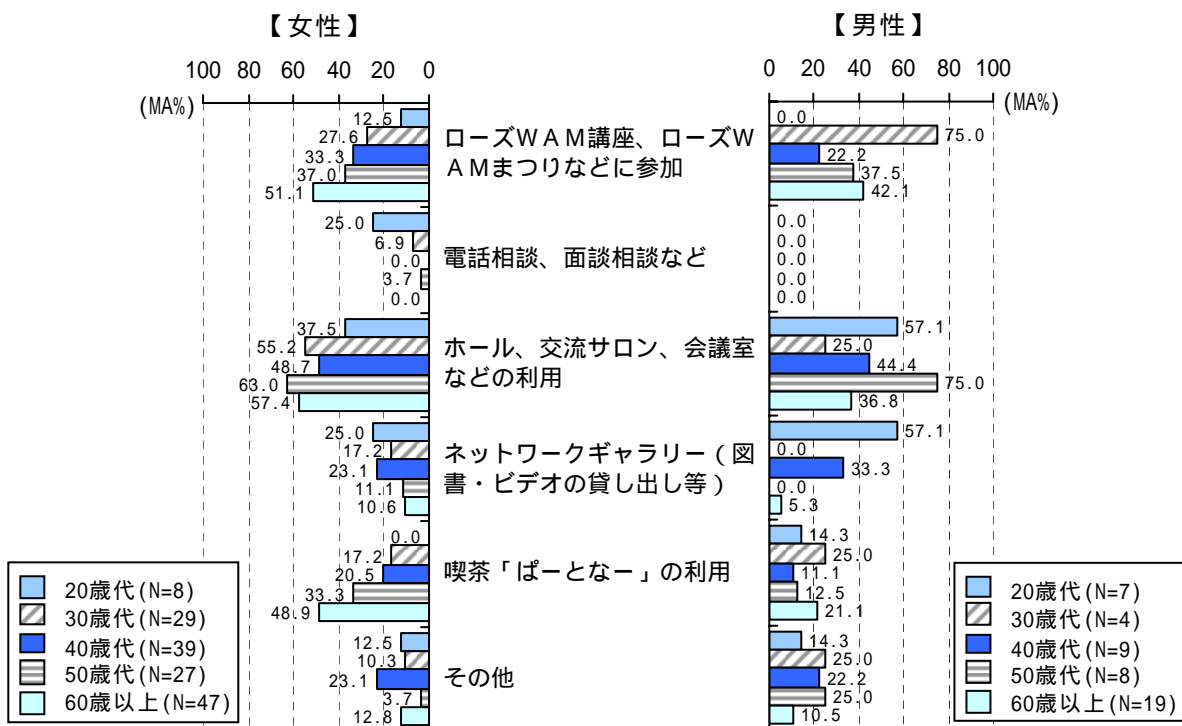
《問28で「1.利用したことがある」に回答した方におたずねします。》
 問29 どういったことで利用されましたか。(はいくつでも)

【図8-2 ローズWAMの利用内容】



ローズWAMの利用内容は、男女とも「ホール、交流サロン、会議室などの利用」が最も高く、女性で54.7%、男性で46.8%となっています。次いで、「ローズWAM講座、ローズWAMまつりなどに参加」が女性で37.3%、男性で34.0%となっています。(図8-2)

【図8-2-1 年代別 ローズWAMの利用内容】

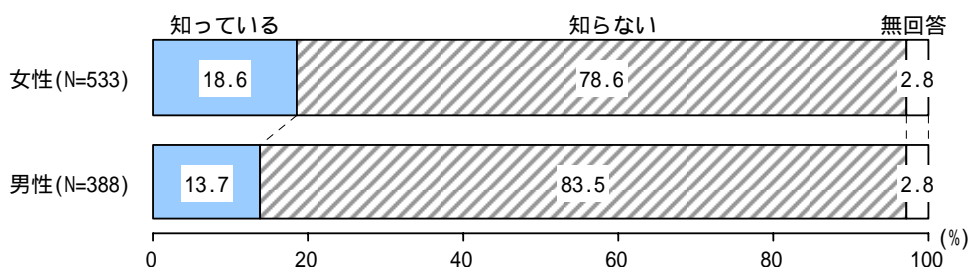


年代別にみると、「ローズWAM講座、ローズWAMまつりなどに参加」、「喫茶「ぱーとなー」の利用」は女性では高年齢層ほど割合は高くなっています。(図8-2-1)

《全員におたずねします。》

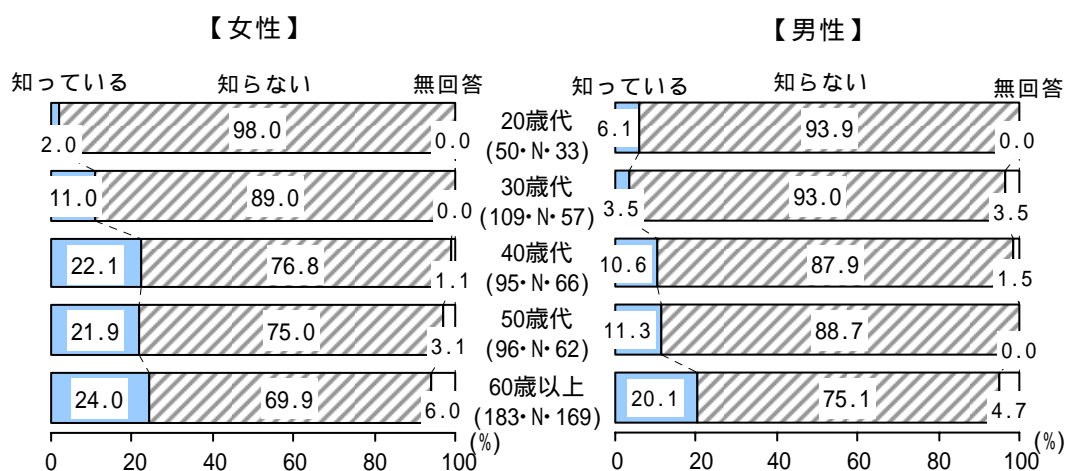
問30 男女共生センター ローズWAMは市民スタッフと協働で運営しています。そのことを知っていますか。(は1つ)

【図 8 - 3 ローズWAMの運営に対する認知度】



ローズWAMの運営に対する認知度は、「知っている」は女性で18.6%、男性で13.7%と女性の方が高くなっています。(図8-3)

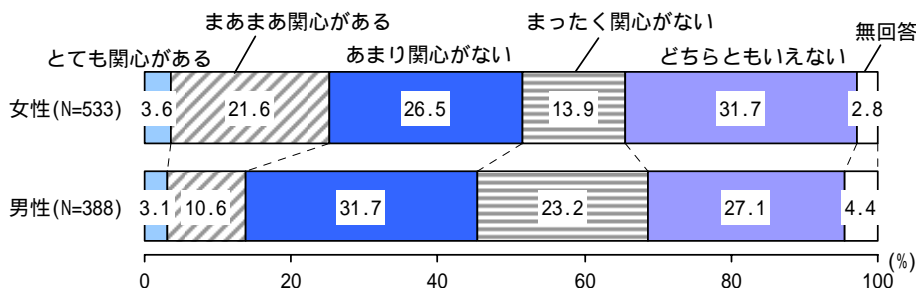
【図 8-3-1 年代別 ローズWAMの運営に対する認知度】



年代別にみると、「知っている」は男女ともに高年齢層ほど高く、60歳以上で女性は24.0%、男性は20.1%となっています。(図8-3-1)

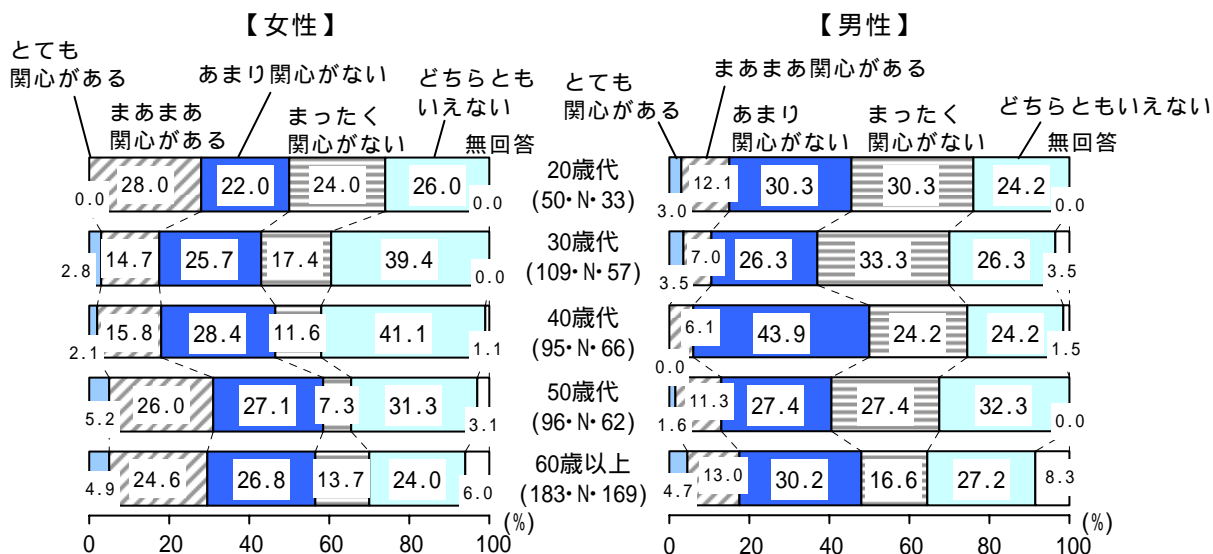
問 31 ローズWAMの市民ボランティアに関心がありますか。(は1つ)

【図 8 - 4 ローズWAMの市民ボランティアに対する関心の有無】



ローズWAMの市民ボランティアに対する関心の有無は、『関心がある』(「とても関心がある」, 「まあまあ関心がある」を合わせたもの)という人は女性で 25.2%、男性で 13.7%と女性の方が高くなっています。一方、『関心がない』(「まったく関心がない」, 「あまり関心がない」を合わせたもの)という人は女性で 40.4%、男性で 54.9%と男性の方が高くなっています。(図 8 - 4)

【図 8-4-1 年代別 ローズWAMの市民ボランティアに対する関心の有無】



年代別にみると、『関心がある』という人は女性では 20 歳代、50 歳代、60 歳以上で高く、男性では 20 歳代、60 歳以上で高くなっています。(図 8-4-1)